

## 第4章 保護者調査の結果

# 1 家庭や家族のことについて

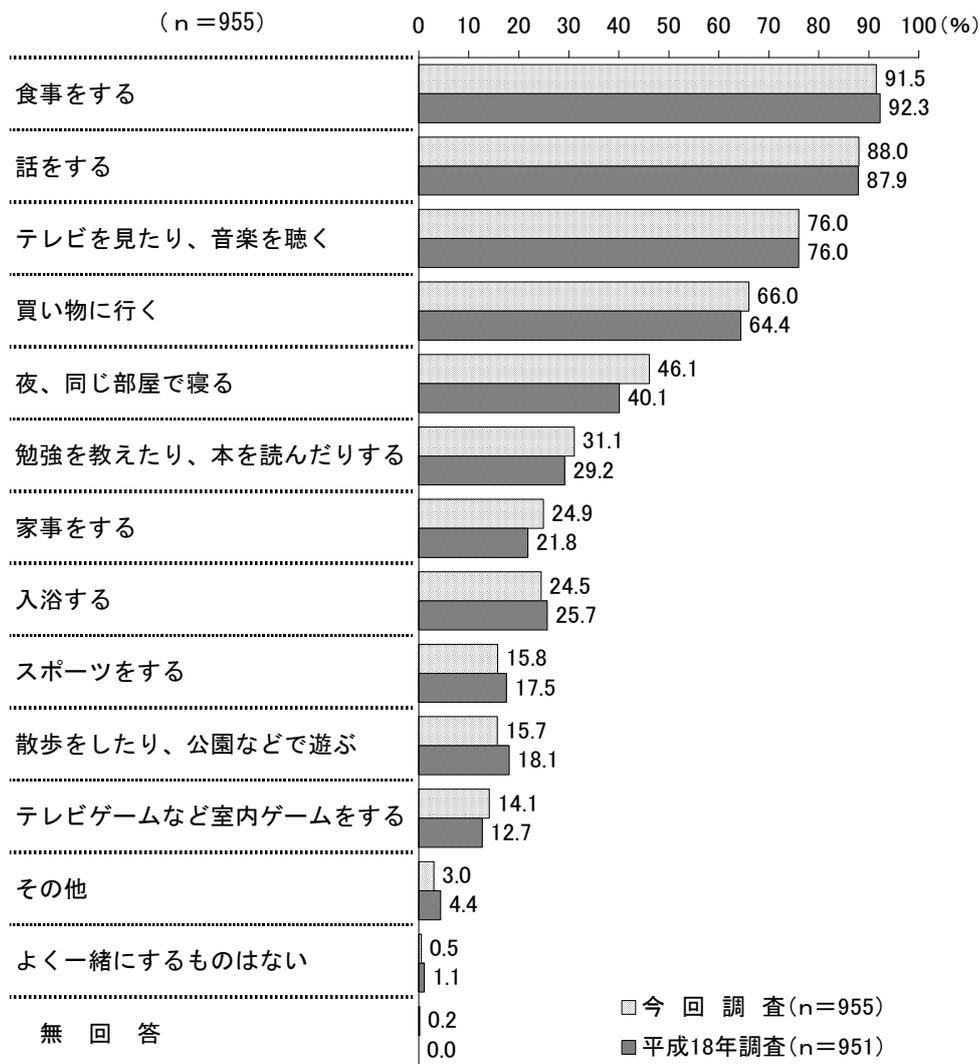
## (1) 子どもと一緒にすること

◇「食事をする」が91.5%、「話をする」が88.0%、「テレビを見たり、音楽を聴く」が76.0%

問9 あなたがお子さんとよく一緒にすることは何ですか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

子どもとよく一緒にすることは何か聞いたところ、「食事をする」が91.5%で最も多く、次いで「話をする」(88.0%)、「テレビを見たり、音楽を聴く」(76.0%)、「買い物に行く」(66.0%)、「夜、同じ部屋で寝る」(46.1%)などの順となっている。(図表1-1-1)

図表1-1-1

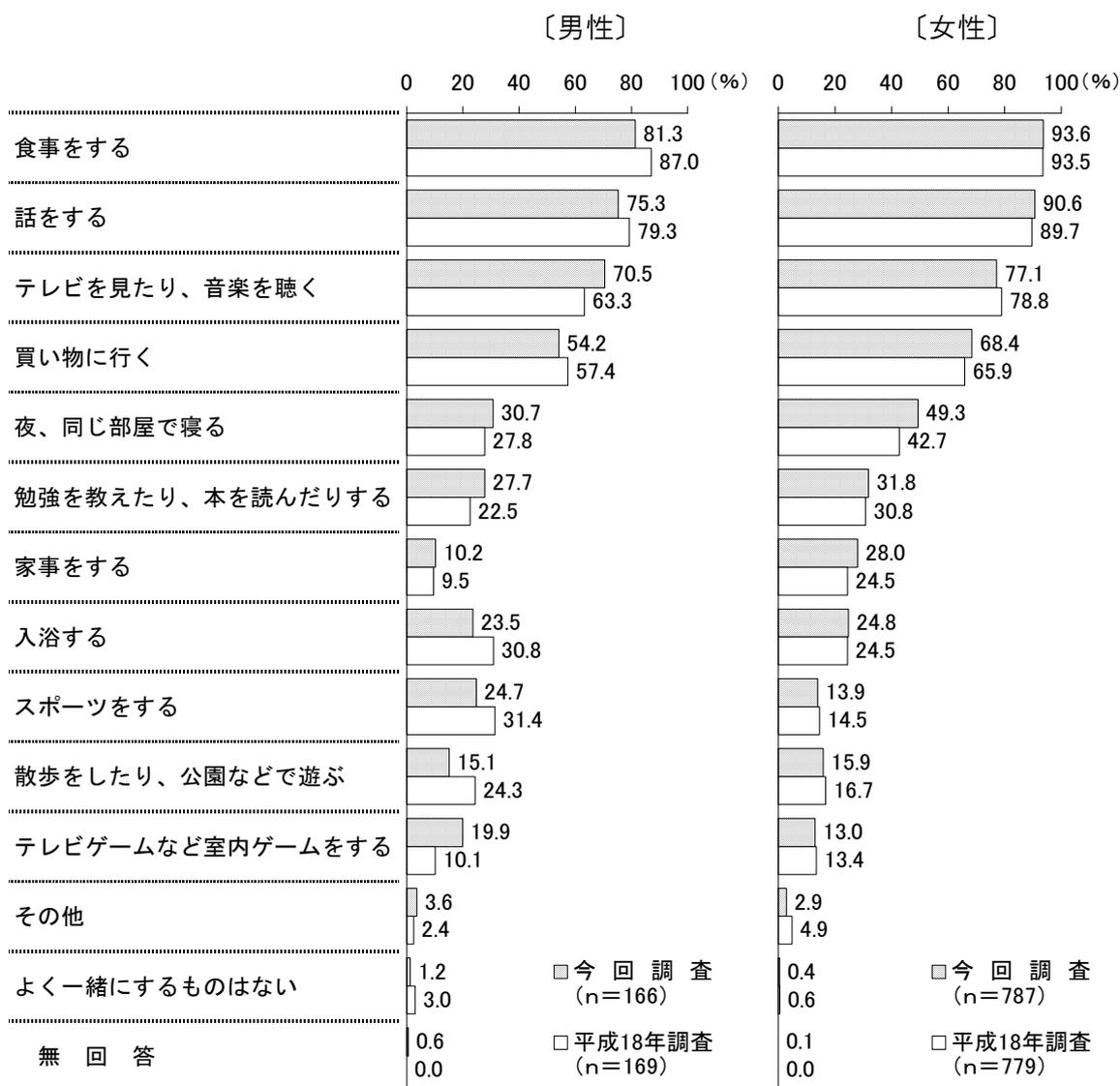


性別にみると、「食事をする」、「買い物に行く」、「家事をする」などの日常生活や、「話をする」、「夜、同じ部屋で寝る」などの子どもとのふれあいでは、女性の方が多くなっている。「スポーツをする」、「テレビゲームなど室内ゲームをする」などの遊びでは男性の方が多く、「入浴する」、「散歩をしたり、公園などで遊ぶ」、「勉強を教えたり、本を読んだりする」などでは男女間で大きな差はみられない。(図表1-1-2)

平成18年調査と比較すると、女性では「夜、同じ部屋で寝る」が6.6ポイント上昇しているほかは大きな傾向の違いはみられない。男性では、「テレビゲームなど室内ゲームをする」は9.8ポイント、「テレビを見たり、音楽を聴く」は7.2ポイント、「勉強を教えたり、本を読んだりする」は5.2ポイント、それぞれ増加している。一方、「散歩をしたり、公園などで遊ぶ」は9.2ポイント、「入浴する」は7.3ポイント、「スポーツをする」は6.7ポイント、それぞれ減少している。

(図表1-1-2)

図表1-1-2 子どもと一緒にすること (性別経年比較)



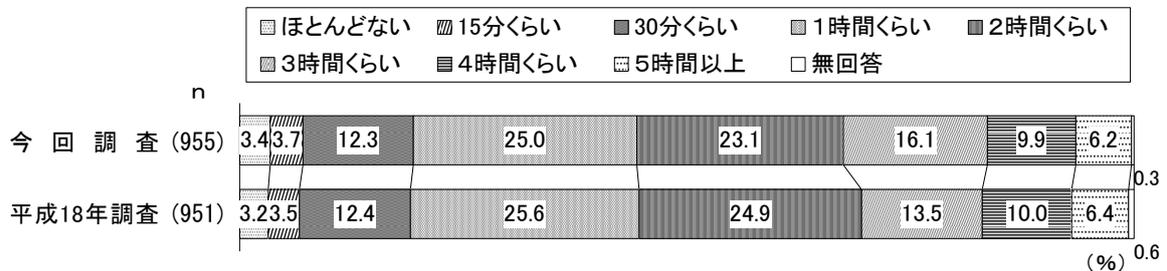
(2) 平日子どもと過ごす時間

◇「1時間くらい」が25.0%、「2時間くらい」が23.1%

問10 あなたが、平日にお子さんと一緒に何かをしたり、お子さんの相手をしている時間は、平均すると、だいたいどのくらいになりますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

平日に子どもと過ごす時間は平均でどのくらいあるか聞いたところ、「1時間くらい」が25.0%、「2時間くらい」が23.1%で多く、次いで「3時間くらい」が16.1%、「30分くらい」が12.3%などとなっている。(図表1-2-1)

図表 1-2-1

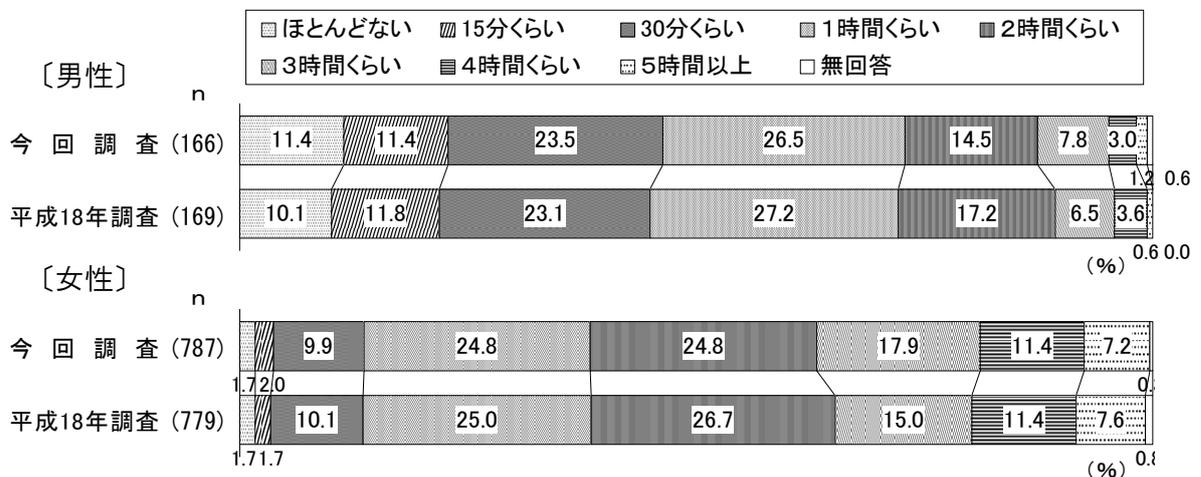


性別にみると、女性では、「1時間くらい」と「2時間くらい」がともに24.8%で、1時間未満の回答は、合計すると13.6%となっている。男性では、「1時間くらい」が26.5%、「2時間くらい」が14.5%で、「ほとんどない」～「30分くらい」の回答を合計すると46.3%となっている。

(図表 1-2-2)

平成18年調査と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。(図表 1-2-2)

図表 1-2-2 平日子どもと過ごす時間 (性別経年比較)



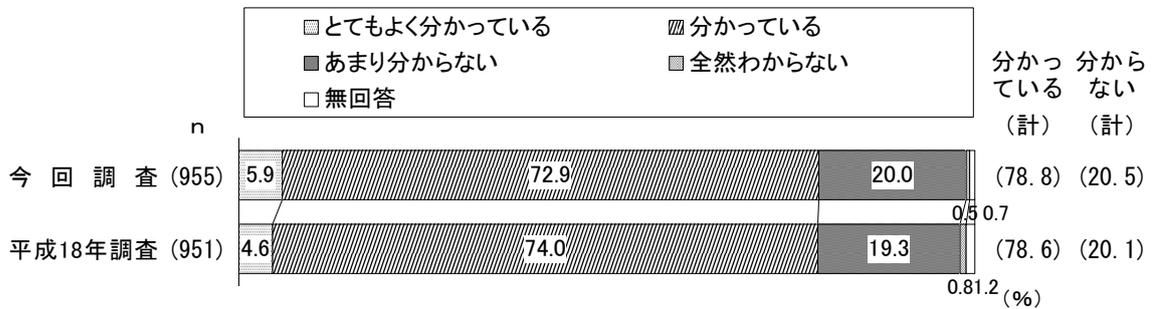
(3) 子どもの気持ちを理解していると思うか

◇『分かっている (計)』は78.8%、『分からない (計)』は20.5%

問11 あなたは、普段、お子さんの気持ちをよく分かっていると思いますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

普段、子どもの気持ちを理解していると思うか聞いたところ、「とてもよく分かっている」は5.9%であるが、「分かっている」は72.9%で、これらの2つを合わせた『分かっている (計)』は78.8%となっている。「あまり分からない」(20.0%)と「全然わからない」(0.5%)の2つを合わせた『分からない (計)』は20.5%である。(図表1-3-1)

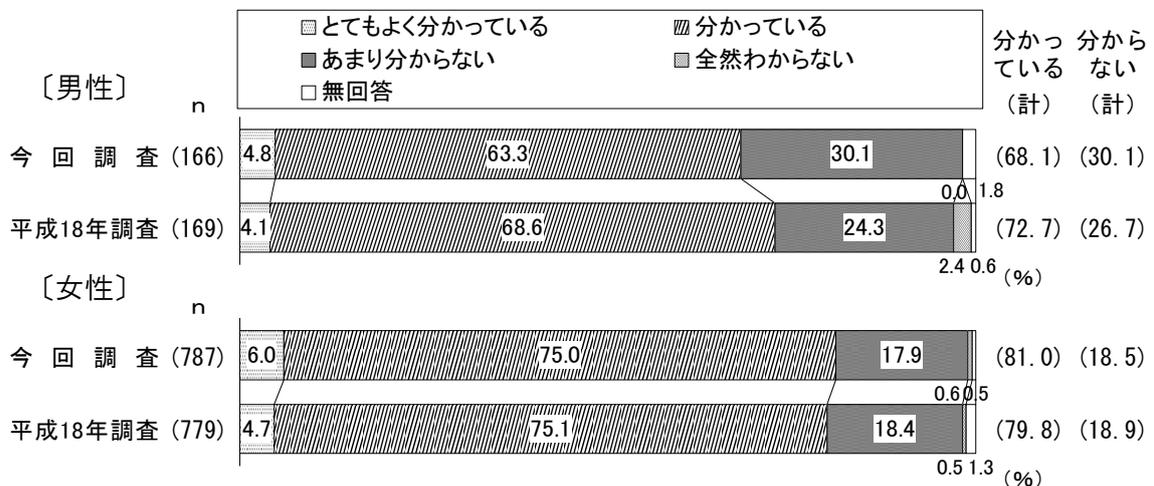
図表 1-3-1



性別にみると、『分かっている (計)』は女性 (81.0%) の方が男性 (68.1%) より12.9ポイント高くなっている。(図表1-3-2)

平成18年調査と比較すると、女性はほぼ同じ傾向になっているが、男性では『分かっている (計)』が4.6ポイント減少し、『分からない (計)』が3.4ポイント増加している。(図表1-3-2)

図表 1-3-2 子どもの気持ちを理解していると思うか (性別経年比較)



(4) 子どもを自然の多いところへ連れて行く頻度

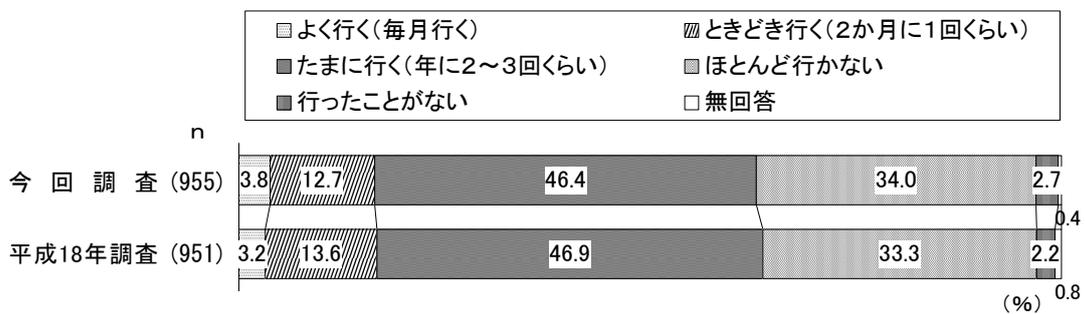
◇「たまに行く（年に2～3回くらい）」が46.4%、「ほとんど行かない」は34.0%

問12 あなたは、学校が休みの日にお子さんを山や海などの自然が多いところに連れて行くことがありますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

学校が休みの日に子どもを自然が多いところに連れて行くことがあるか聞いたところ、「たまに行く（年に2～3回くらい）」が46.4%で最も多く、「ときどき行く（2か月に1回くらい）」は12.7%となっている。一方、「ほとんど行かない」は34.0%、「行ったことがない」は2.7%となっている。

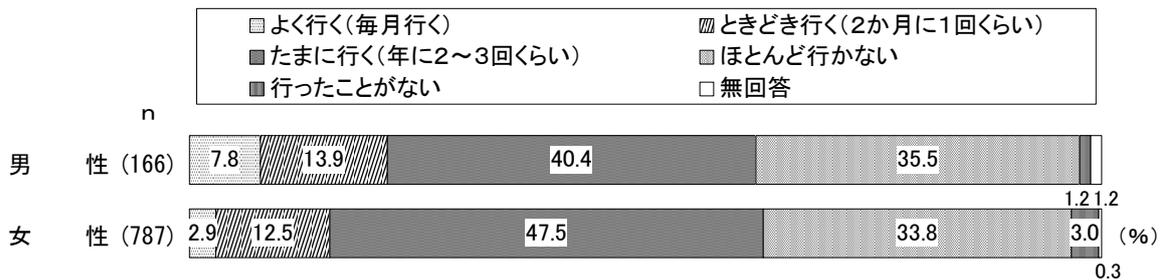
(図表1-4-1)

図表1-4-1



性別にみると、「よく行く（毎月行く）」と「ときどき行く（2か月に1回くらい）」は男性の方が多くなっているが、「ほとんど行かない」と「行ったことがない」の割合は、男女ともほぼ同じ割合となっている。(図表1-4-2)

図表1-4-2 子どもを自然の多いところへ連れて行く頻度（性別）



(5) 3歳までの保育状況

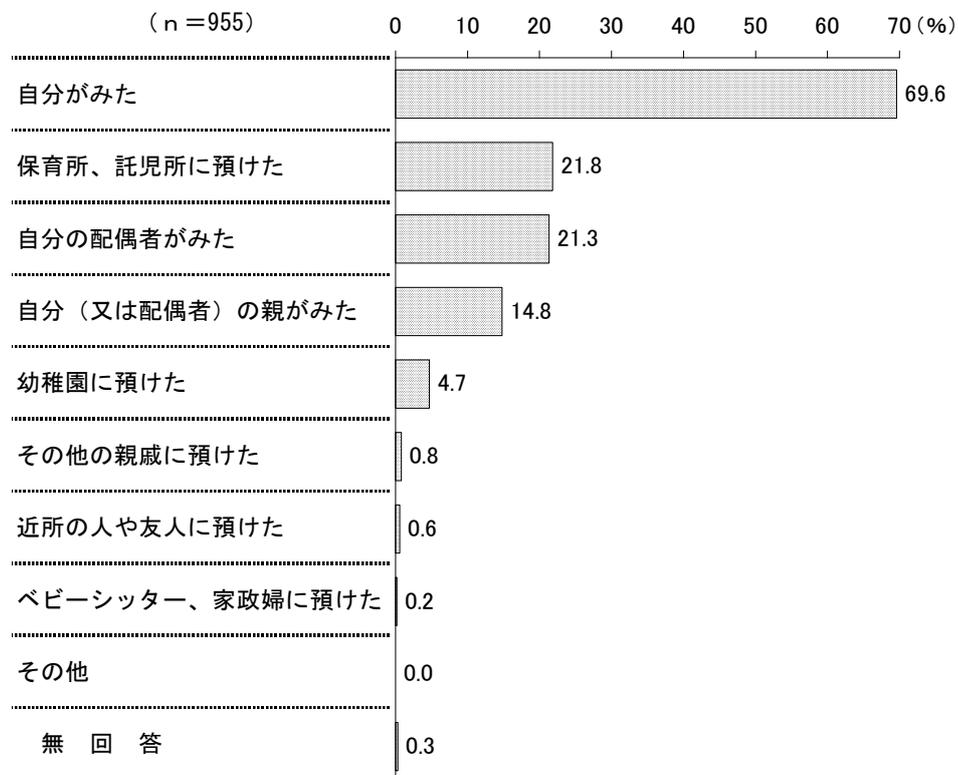
◇「自分がみた」は69.6%、「保育所、託児所に預けた」は21.8%

問13 あなたは、お子さんが3歳になるまでの間、お子さんの身の回りの世話や保育は、平日では、通常どのようにしていましたか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

子どもが3歳になるまでの間、平日の子どもの身の回りの世話や保育は、通常どのようにしていたか聞いたところ、「自分がみた」は69.6%で、「自分の配偶者がみた」は21.3%となっている。「保育所、託児所に預けた」は21.8%、「自分（又は配偶者）の親がみた」は14.8%となっている。

(図表1-5-1)

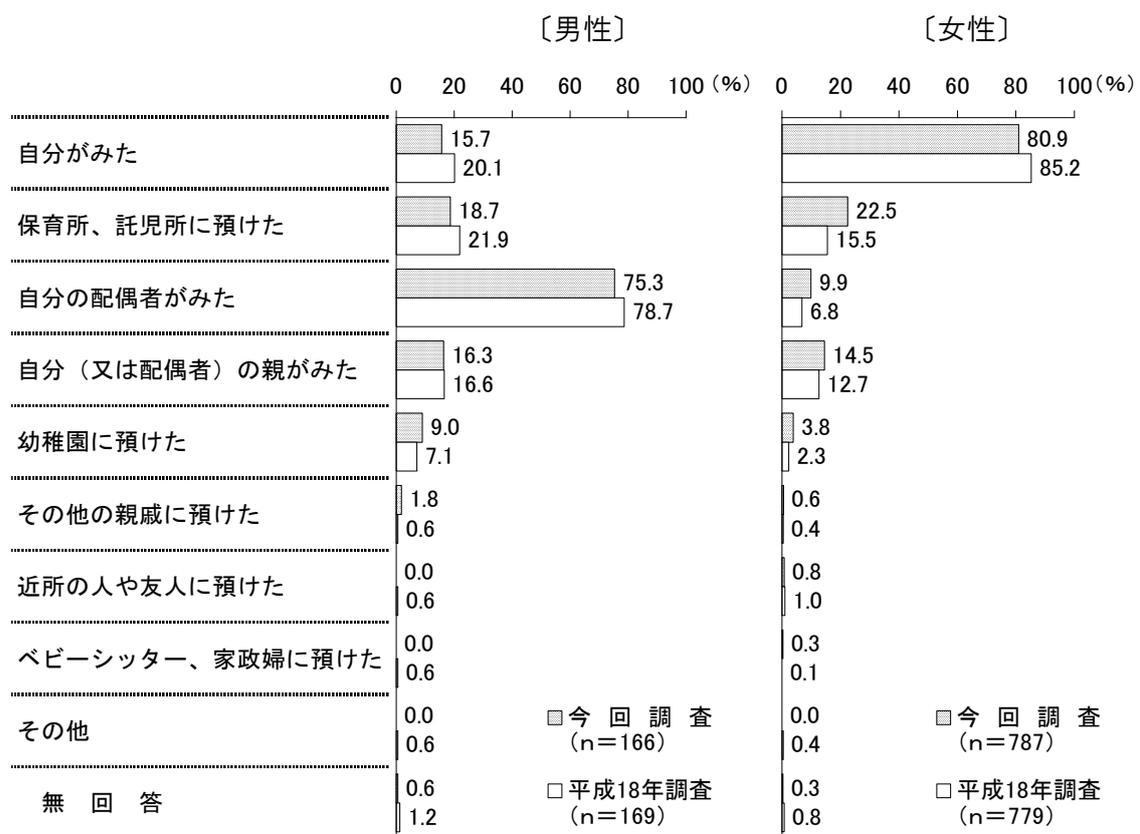
図表1-5-1



性別にみると、男性の「配偶者がみた」は75.3%、女性の「自分がみた」は80.9%で最も多くなっている。男性の「自分がみた」は15.7%、女性の「配偶者がみた」は9.9%となっている。「保育所、託児所に預けた」は男性18.7%・女性22.5%、「自分(又は配偶者)の親がみた」は男性16.3%・女性14.5%となっており、ほぼ同じ割合となっている。(図表1-5-2)

平成18年調査と比較すると、男性の「配偶者がみた」と女性の「自分がみた」はともに減少しており、女性では「保育所、託児所に預けた」が7.0ポイント増加している。(図表1-5-2)

図表1-5-2 3歳までの保育状況(性別経年比較)



## (6) フィルタリングサービスの利用状況

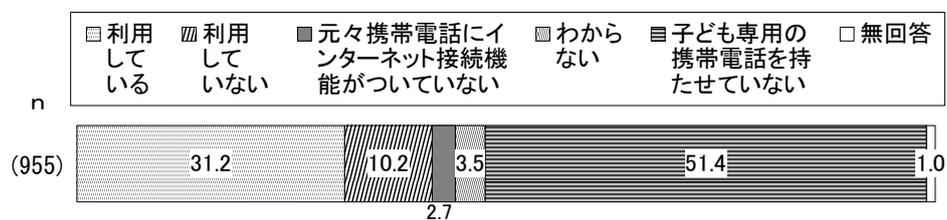
◇子どもに携帯電話を持たせていない人は51.4%、フィルタリングサービスを「利用している」人は31.2%

問14 あなたは、お子さんの携帯電話（PHSを含む）にフィルタリングサービスを利用していますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

（類似質問：満10歳～14歳65ページ、満15歳～30歳164ページ参照）

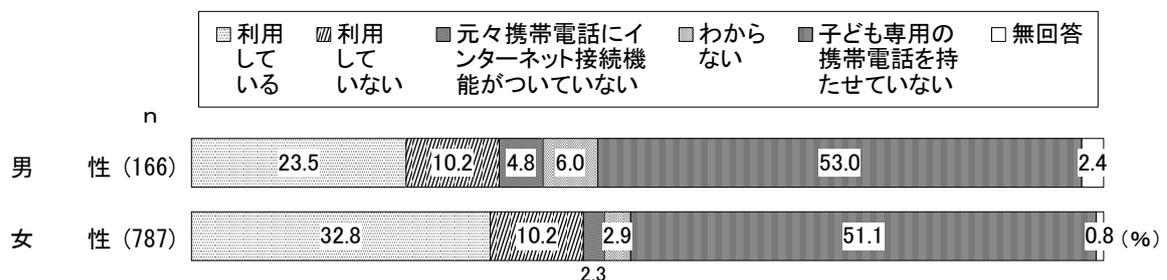
子どもの携帯電話にフィルタリングサービスを利用しているか聞いたところ、「子ども専用の携帯電話を持たせていない」は51.4%、フィルタリングサービスを「利用している」は31.2%、「利用していない」は10.2%となっており、「利用していない」割合は、「利用している」割合のおよそ3分の1となっている。（図表1-6-1）

図表1-6-1



性別にみると、フィルタリングサービスを「利用していない」と答えた保護者は男女とも10.2%となっており、依然としてフィルタリングサービスの必要性を認知していない保護者が一定程度存在することがわかる。（図表1-6-2）

図表1-6-2 フィルタリングサービスの利用状況（性別）



(7) 携帯電話の利用のルール

◇「利用料金についてルールを決めている」が52.0%

(問14で、子ども専用の携帯電話を持たせていると答えた方にうかがいます)

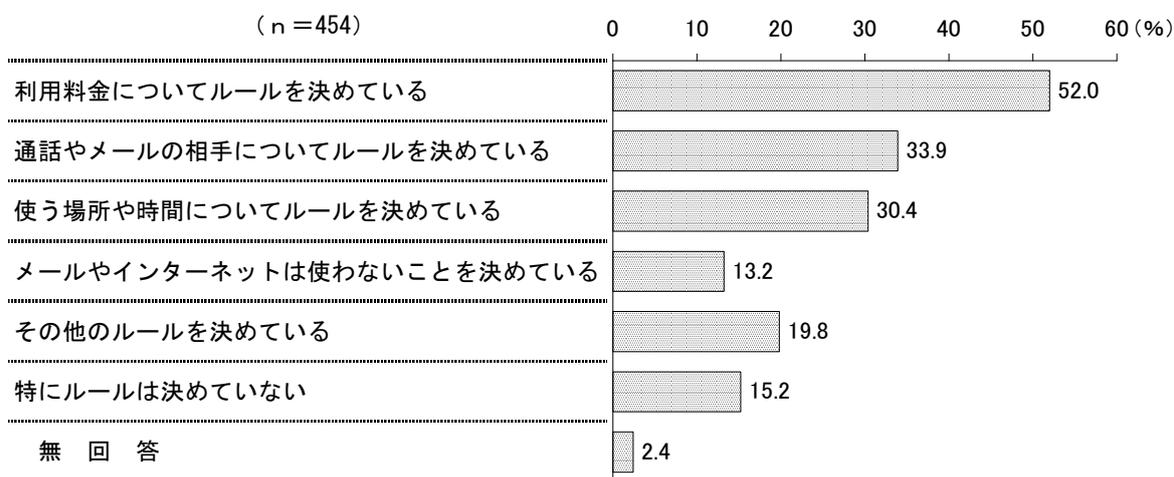
問15 あなたは、お子さんの携帯電話の使用について何かルールを決めていますか。次の中で、あてはまるものすべてに○をしてください。

(類似質問：満10歳～14歳66ページ、満15歳～30歳164ページ参照)

子どもの携帯電話の使用について、ルールを決めているか聞いたところ、「利用料金についてルールを決めている」が52.0%で最も多く、次いで「通話やメールの相手についてルールを決めている」(33.9%)、「使う場所や時間についてルールを決めている」が30.4%などの順となっている。

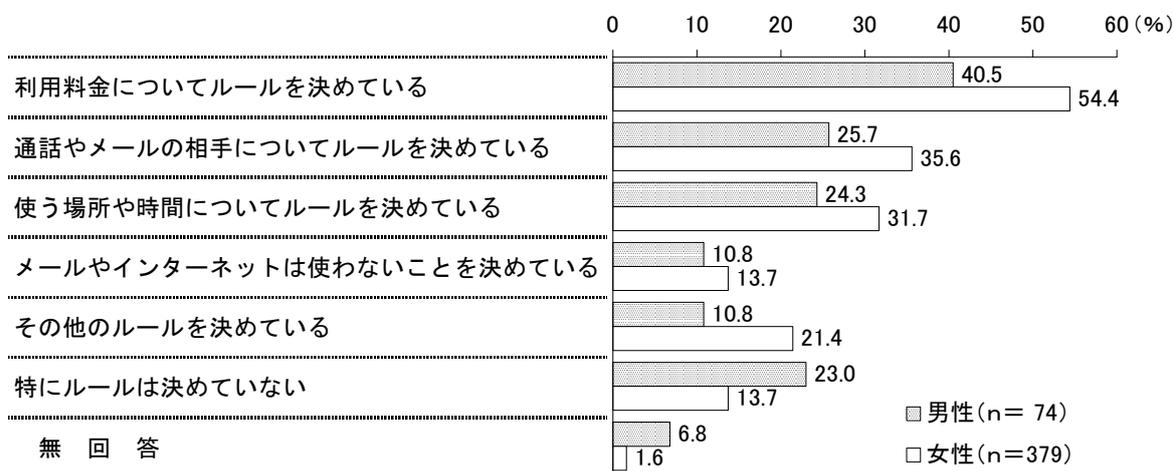
(図表1-7-1)

図表1-7-1



性別にみると、ルールを決めているとする項目のすべてで、男性より女性の方が割合が高くなっており、女性の保護者の方が男性に比べて意識が高くなっている。(図表1-7-2)

図表1-7-2 携帯電話の利用のルール (性別)



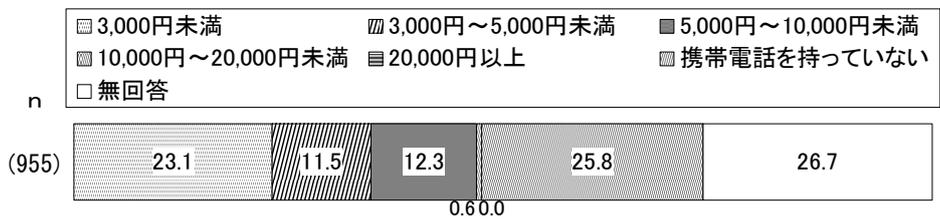
(8) 携帯電話の利用料金

◇「3,000円未満」が23.1%

問16 あなたのお子さんの1か月の携帯電話利用料金はいくらぐらいですか。次の中から1つ選んで○をしてください。(類似質問：満15歳～30歳163ページ参照)

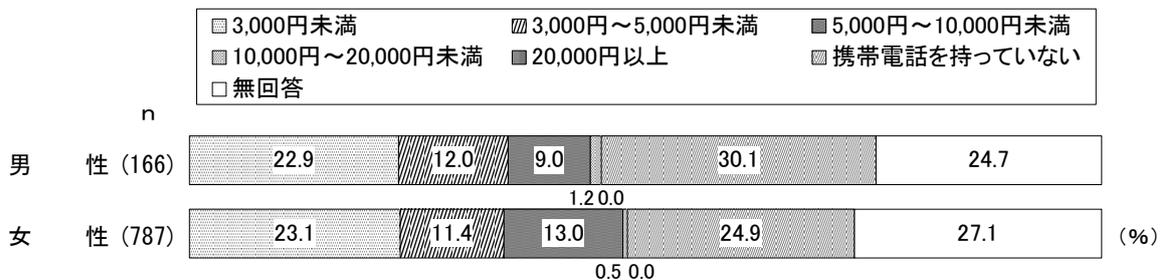
子どもの1か月の携帯電話利用料金を聞いたところ、「3,000円未満」が23.1%、「3,000円～5,000円未満」が11.5%、「5,000円～10,000円未満」が12.3%、「10,000円～20,000円未満」が25.8%、「20,000円以上」が26.7%などとなっている。10,000円以上はわずかである。(図表1-8-1)

図表1-8-1



性別にみると、ほぼ同じ傾向になっている。(図表1-8-2)

図表1-8-2 携帯電話の利用料金 (性別)



(9) 子どものことで知っていること

◇<担任の先生の名前>と<学校の成績>は、「知っている」が8割を超える

問17 あなたは、お子さんにかかわることをどのくらい知っていますか。それぞれについて、1つ選んで○をしてください。

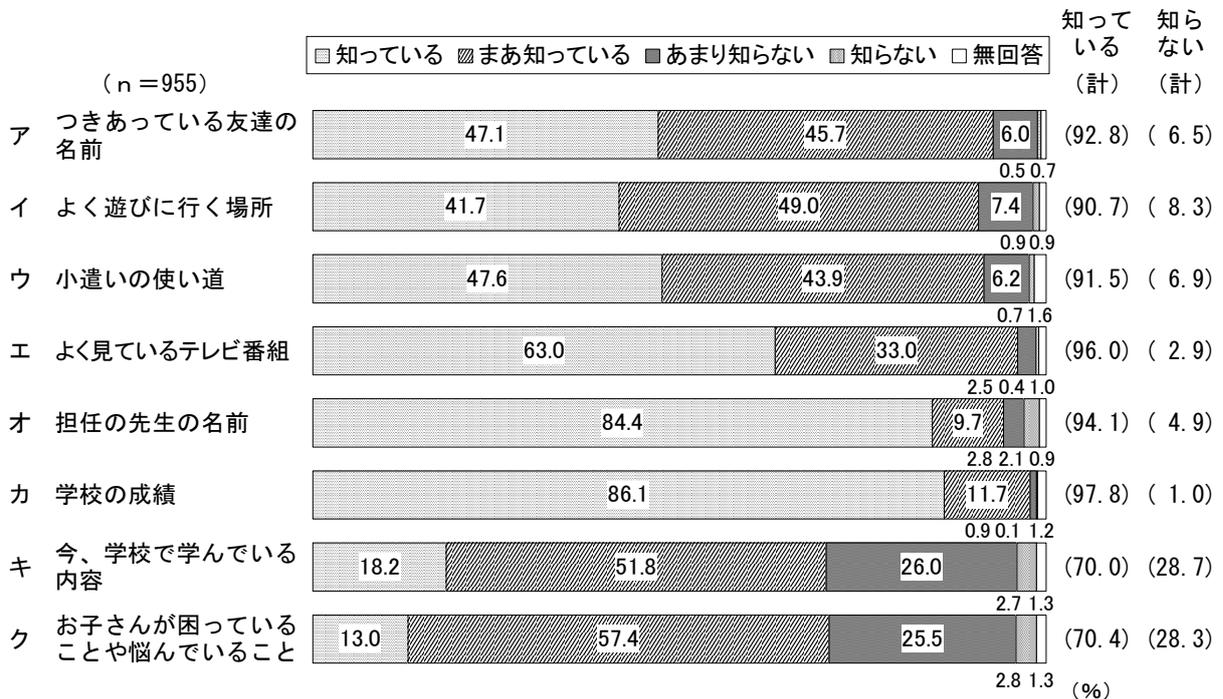
子どもに関わることをどの程度知っているか、8項目に分けて聞いた。

<ア つきあっている友達の名前>、<イ よく遊びに行く場所>、<ウ 小遣いの使い道>、<エ よく見ているテレビ番組>といった日常生活に関する項目は、「知っている」と「まあ知っている」の2つを合わせた『知っている(計)』の割合がいずれも9割を超えている。

学校生活に関する項目では、<オ 担任の先生の名前>と<カ 学校の成績>は、「知っている」が8割を超えて特に認知度が高いのに対し、<キ 今、学校で学んでいる内容>は、「知っている」は18.2%で、これと「まあ知っている」を合わせた『知っている(計)』の割合も70.0%にとどまっている。

<ク お子さんが困っていることや悩んでいること>でも、『知っている(計)』は70.4%にとどまっている。(図表1-9-1)

図表1-9-1

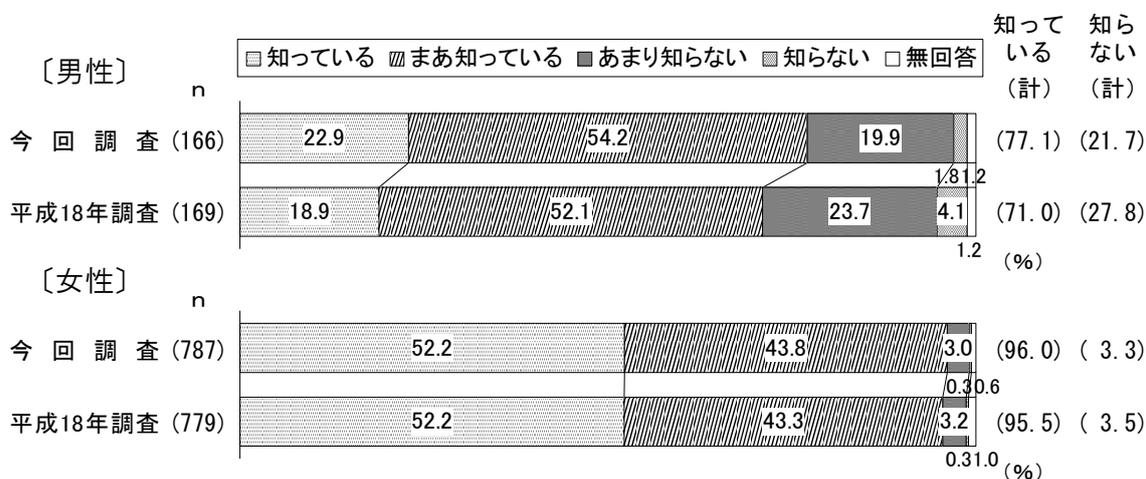


性別にみると、『知っている（計）』の割合は、8項目すべてで男性より女性で割合が高くなっている。（図表1-9-2、図表1-9-3、図表1-9-4）

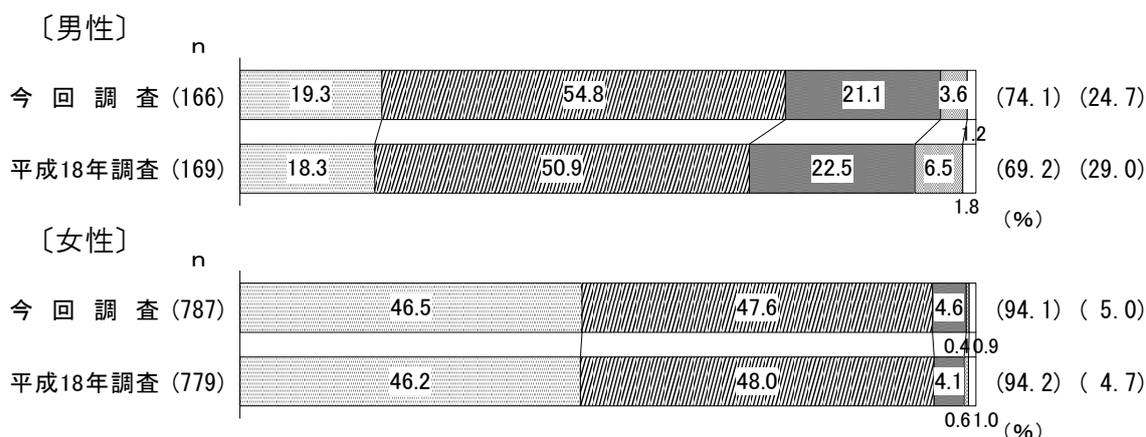
平成18年調査と比較すると、女性では<キ 今、学校で学んでいる内容>を『知っている（計）』と答えた保護者が7.3ポイント増加しているほかは、ほぼ同じ傾向になっている。男性では、<ウ 小遣いの使い道>と<カ 学校の成績>、<ク お子さんが困っていることや悩んでいること>の3項目で『知っている（計）』の割合が減少しているが、それ以外の項目では、『知っている（計）』の割合は増加傾向にある。（図表1-9-2、図表1-9-3、図表1-9-4）

図表1-9-2 子どものことで知っていること（性別経年比較）

ア つきあっている友達の名前

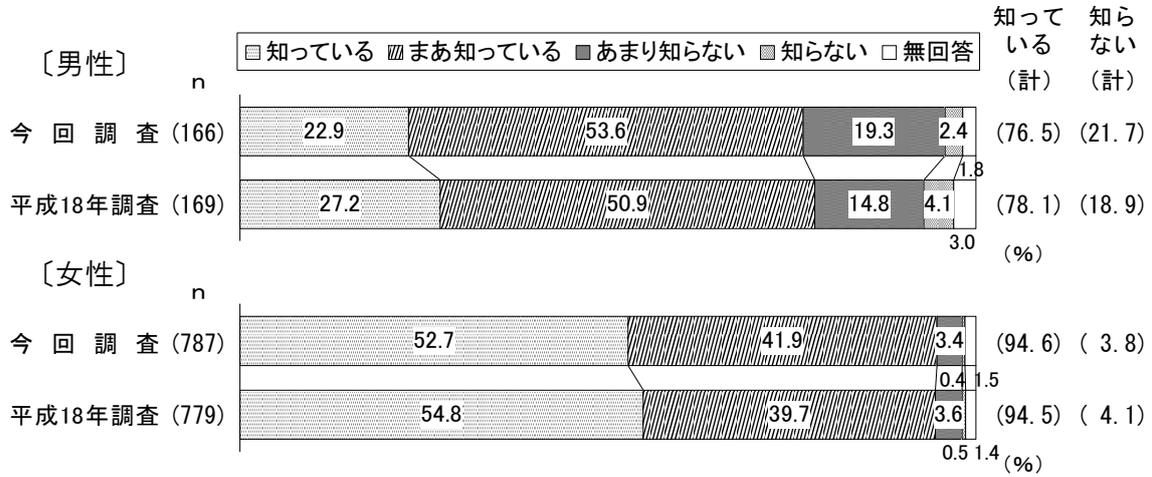


イ よく遊びに行く場所

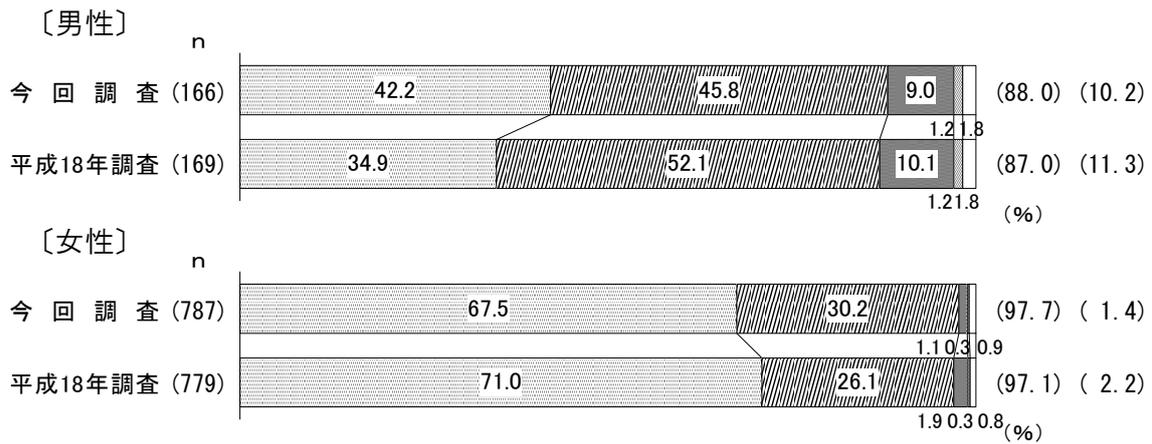


図表 1-9-3 子どものことで知っていること（性別経年比較）（つづき）

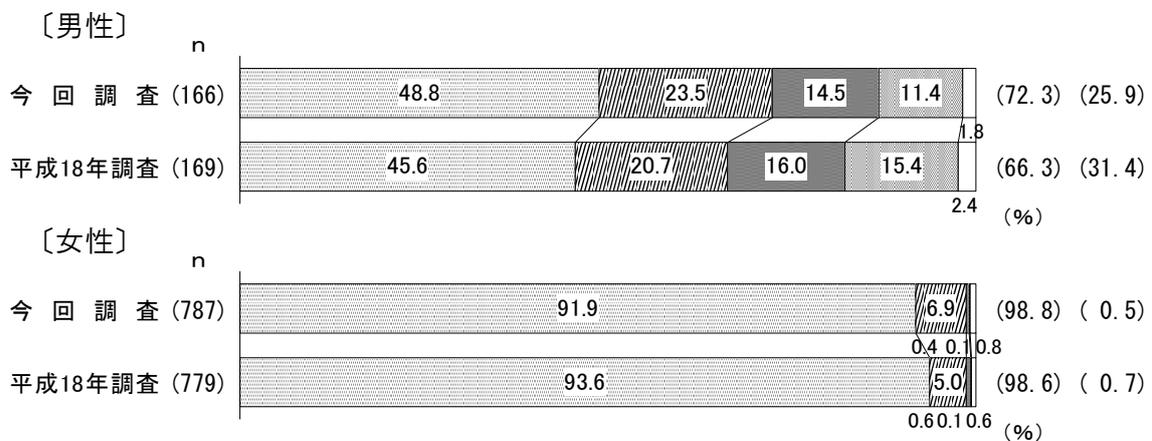
ウ 小遣いの使い道



エ よく見ているテレビ番組

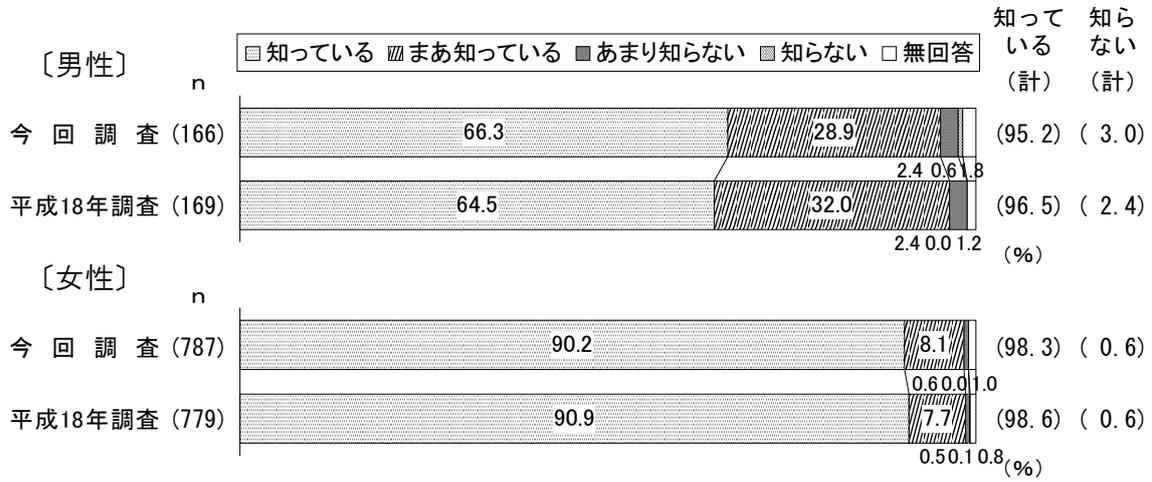


オ 担任の先生の名前

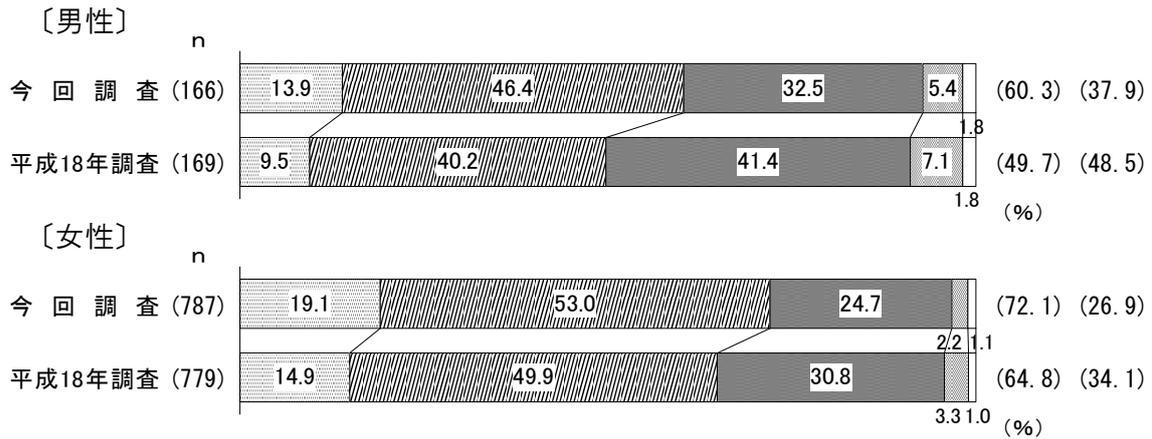


図表 1-9-4 子どものことで知っていること（性別経年比較）（つづき）

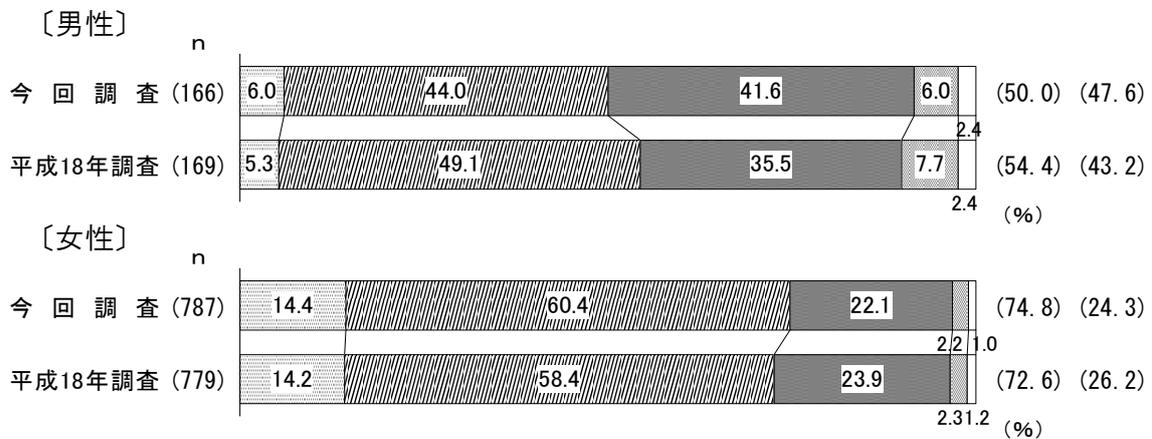
カ 学校の成績



キ 今、学校で学んでいる内容



ク お子さんが困っていることや悩んでいること



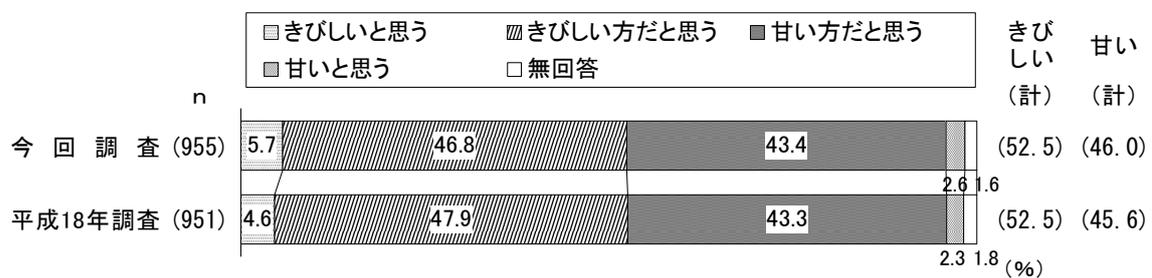
(10) しつけの厳しさに対する意識

◇『きびしい（計）』は52.5%、『甘い（計）』は46.0%

問18 あなたは、お子さんに対するしつけについてどう感じていますか。それぞれの中で、1つ選んで○をしてください。（類似質問：満10歳～14歳15ページ参照）

子どもに対するしつけをどう感じているか聞いたところ、「きびしいと思う」が5.7%、「きびしい方だと思う」が46.8%で、この2つを合わせた『きびしい（計）』は52.5%である。一方、「甘い方だと思う」（43.4%）と「甘いと思う」（2.6%）の2つを合わせた『甘い（計）』は46.0%である。（図表1-10-1）

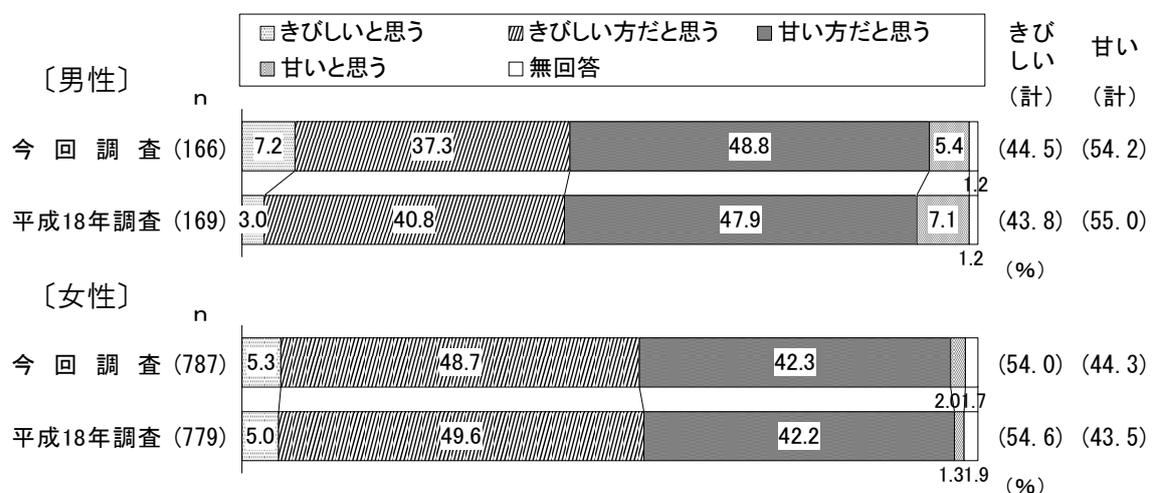
図表1-10-1



性別にみると、『きびしい（計）』は女性（54.0%）の方が男性（44.5%）より9.5ポイント高くなっている。（図表1-10-2）

平成18年調査と比較すると、男性で「きびしいと思う」が4.2ポイント増加しているが、全体としてはほぼ同じ傾向にあるといえる。（図表1-10-2）

図表1-10-2 しつけの厳しさに対する意識（性別経年比較）



(11) 教育やしつけについて心がけていること

◇『心がけている（計）』は、＜自分でできる事は任せている＞で92.2%

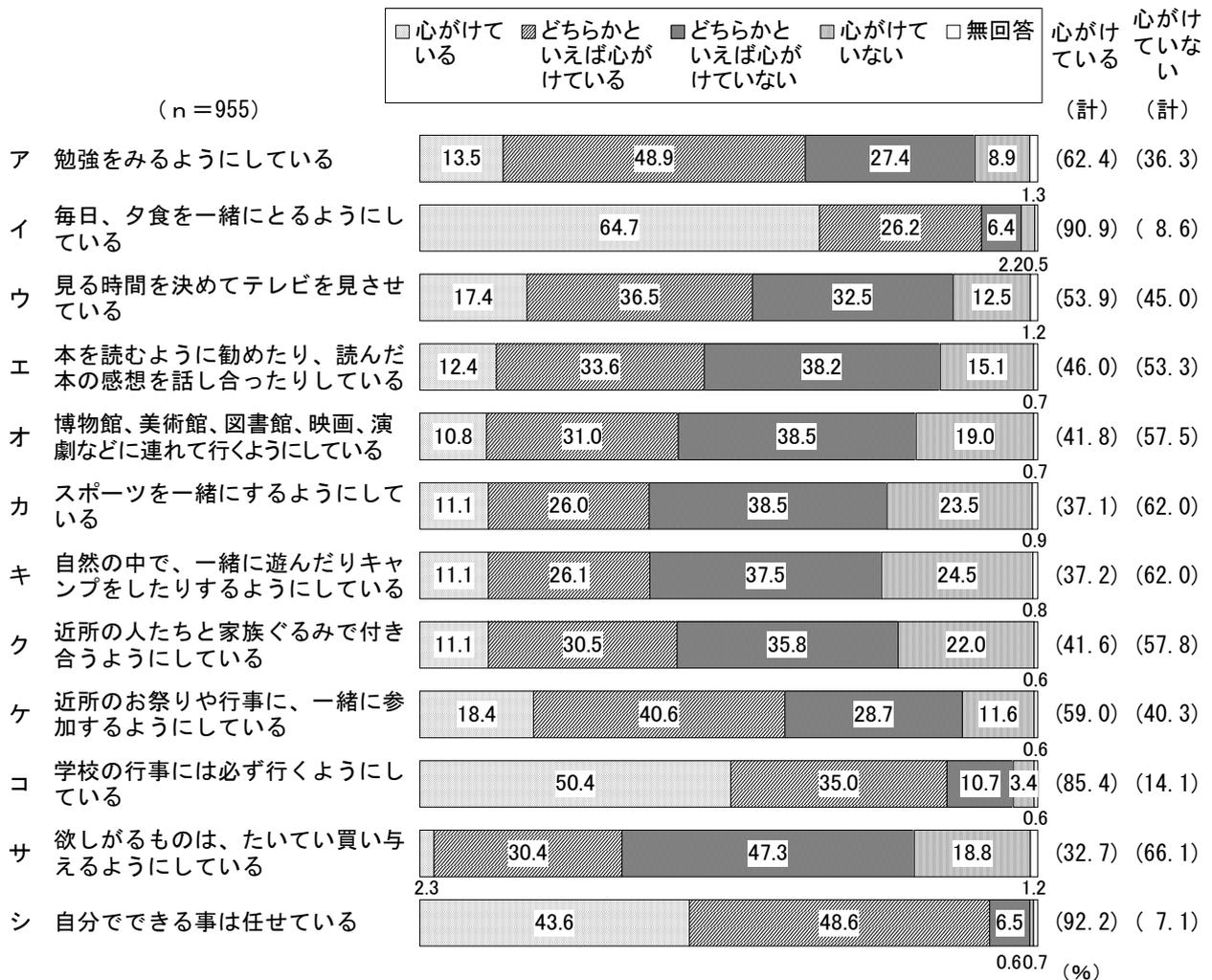
問19 お子さんの教育やしつけについて、あなたが心がけている事をうかがいます。それぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をしてください。

子どもの教育やしつけについて心がけていることを12項目に分けて聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」の2つを合わせた『心がけている（計）』の割合は、＜シ 自分でできる事は任せている＞（92.2%）、＜イ 毎日、夕食を一緒にとるようにしている＞（90.9%）と＜コ 学校の行事には必ず行くようにしている＞（85.4%）の3項目で8割を超えて特に多くなっている。

また、「心がけていない」と「どちらかといえば心がけていない」の2つを合わせた『心がけていない（計）』の割合は、＜サ 欲しがるものは、たいてい買い与えるようにしている＞（66.1%）、＜カ スポーツを一緒にするようにしている＞（62.0%）、＜キ 自然の中で、一緒に遊んだりキャンプをしたりするようにしている＞（62.0%）の3項目で6割を超えて多くなっている。

(図表1-11-1)

図表1-11-1

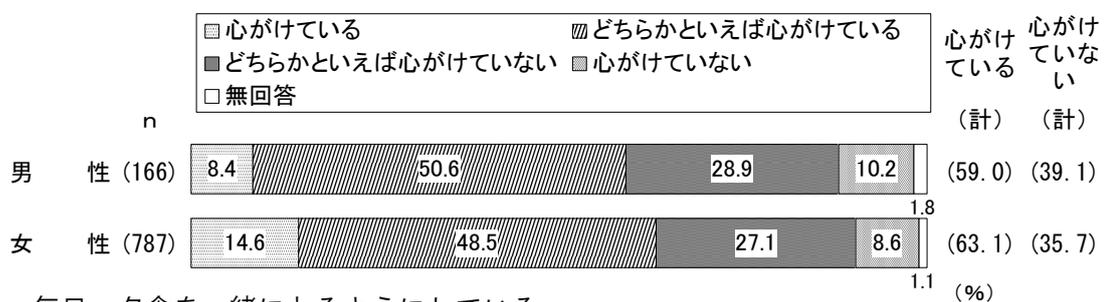


性別にみると、『心がけている（計）』の割合は、＜コ 学校の行事には必ず行くようにしている＞は女性（89.2%）の方が男性（66.9%）より22.3ポイント高く、＜イ 毎日、夕食を一緒にとるようにしている＞は女性（94.5%）の方が男性（74.1%）より20.4ポイント高くなっている。＜エ 本を読むように勧めたり、読んだ本の感想を話し合ったりしている＞も、女性の方が男性より16.9ポイント高くなっている。一方、＜カ スポーツを一緒にするようにしている＞は、男性（45.8%）の方が女性（35.2%）より10.6ポイント高くなっている。

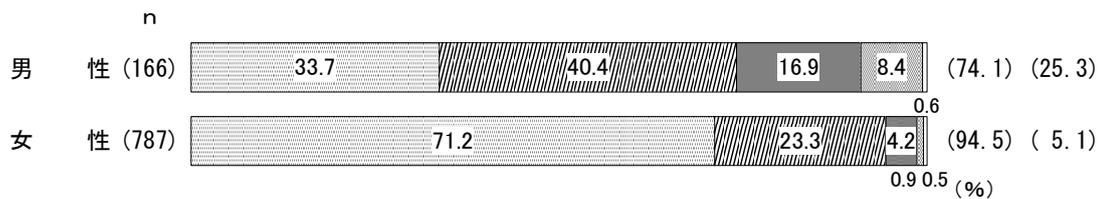
（図表1-11-2、図表1-11-3）

図表1-11-2 教育やしつけについて心がけていること（性別）

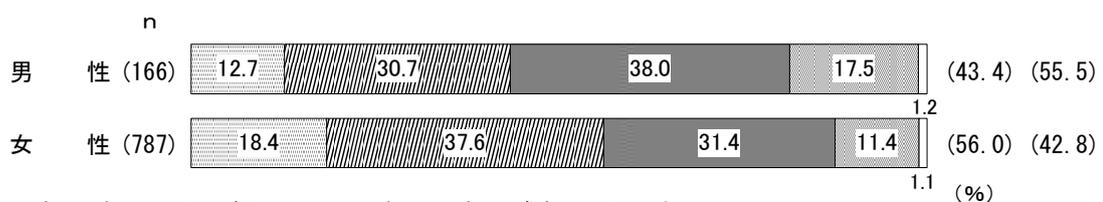
ア 勉強をみるようにしている



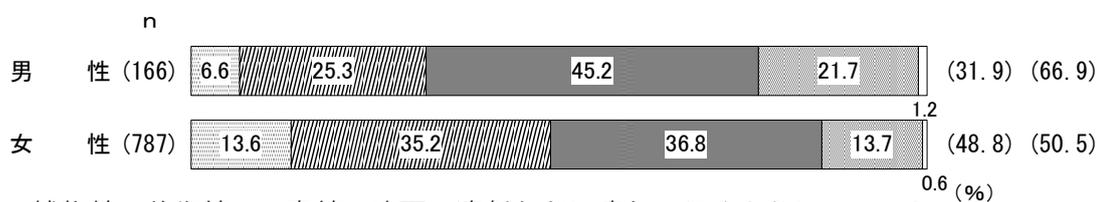
イ 毎日、夕食を一緒にとるようにしている



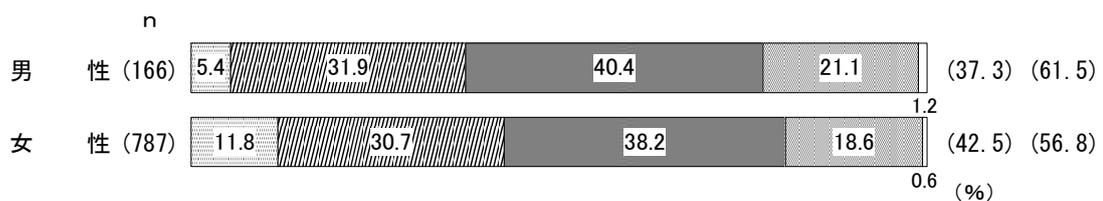
ウ 見る時間を決めてテレビを見させている



エ 本を読むように勧めたり、読んだ本の感想を話し合ったりしている

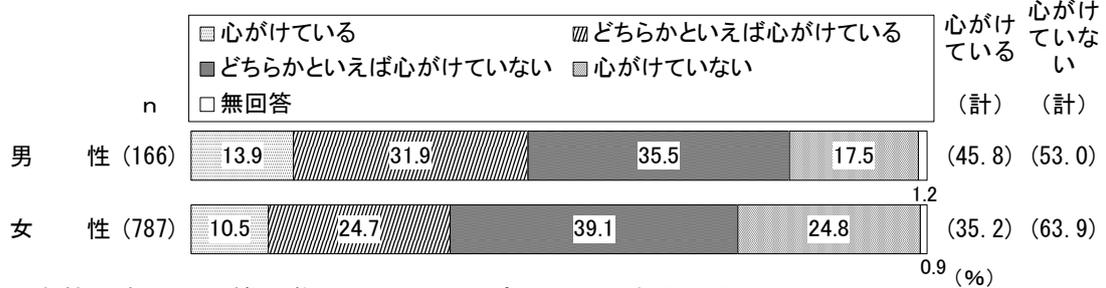


オ 博物館、美術館、図書館、映画、演劇などに連れて行くようにしている

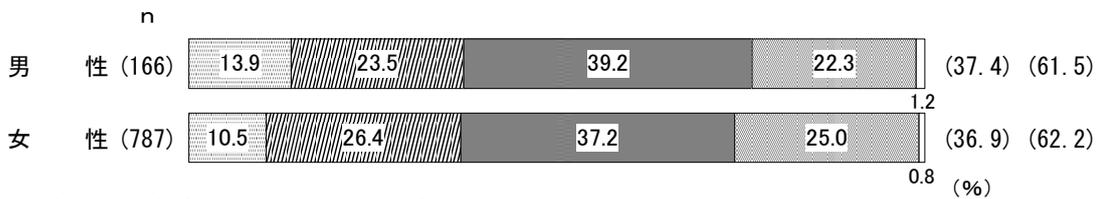


図表 1-11-3 教育やしつけについて心がけていること（性別）（つづき）

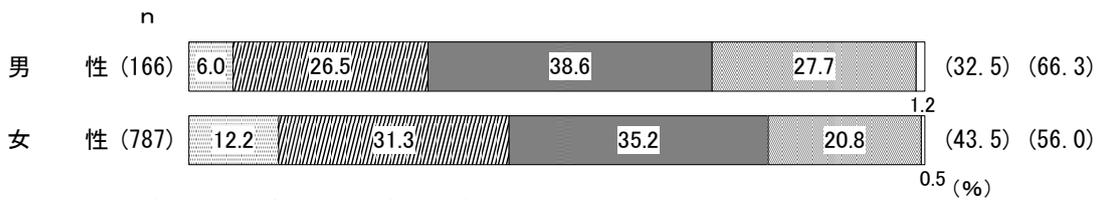
カ スポーツを一緒にするようにしている



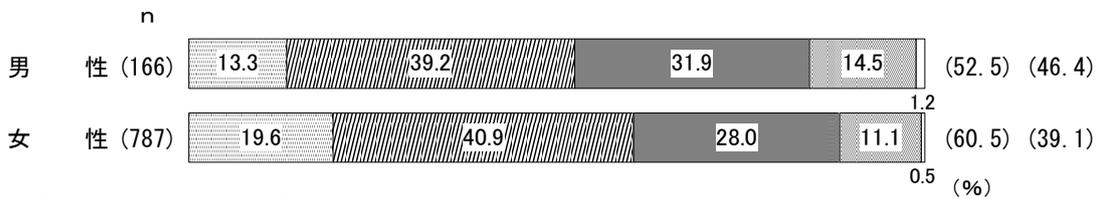
キ 自然の中で、一緒に遊んだりキャンプをしたりするようにしている



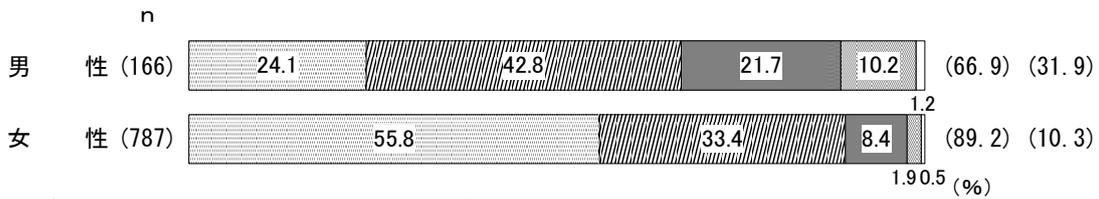
ク 近所の人たちと家族ぐるみで付き合うようにしている



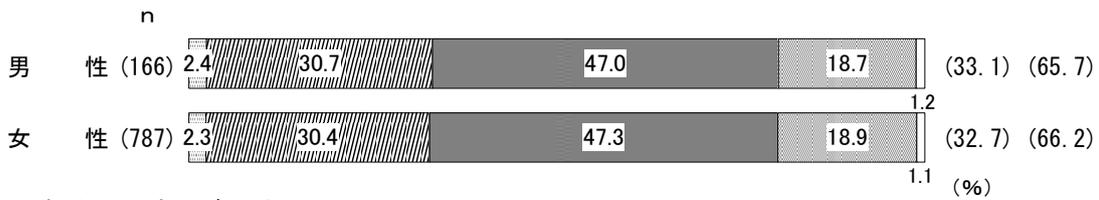
ケ 近所のお祭りや行事に、一緒に参加するようにしている



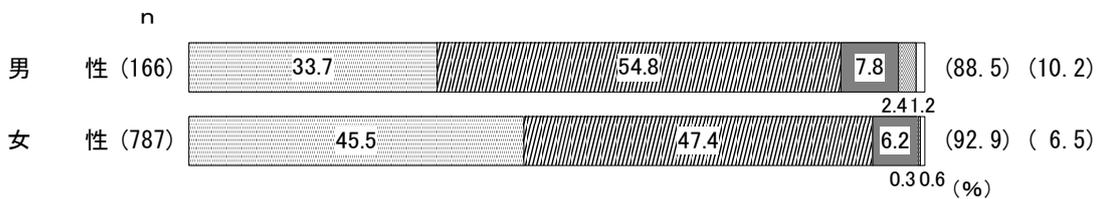
コ 学校の行事には必ず行くようにしている



サ 欲しいものは、たいてい買い与えるようにしている



シ 自分でできる事は任せている

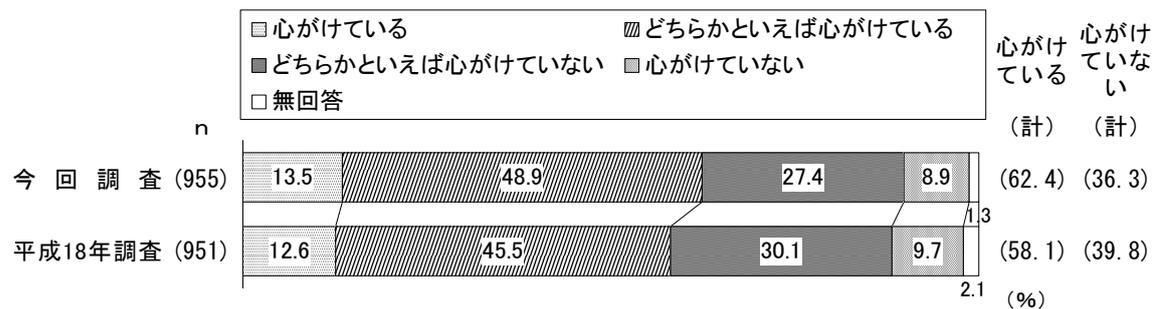


平成18年調査と比較すると、＜ア 勉強をみるようにしている＞では『心がけている（計）』の割合が4.3ポイント増加している。一方、＜ウ 見る時間を決めてテレビを見させている＞、＜エ 本を読むように勧めたり、読んだ本の感想を話し合ったりしている＞、＜カ スポーツを一緒にするようになっている＞、＜キ 自然の中で、一緒に遊んだりキャンプをしたりするようになっている＞などの項目では、『心がけていない（計）』の割合が増加傾向にある。

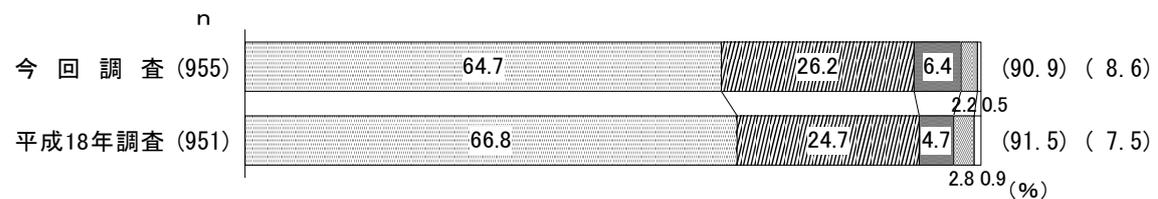
（図表1-11-4、図表1-11-5、図表1-11-6）

図表1-11-4 教育やしつけについて心がけていること（経年比較）

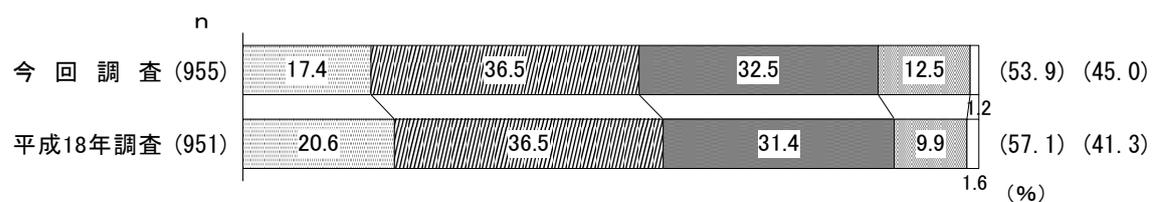
ア 勉強をみるようにしている



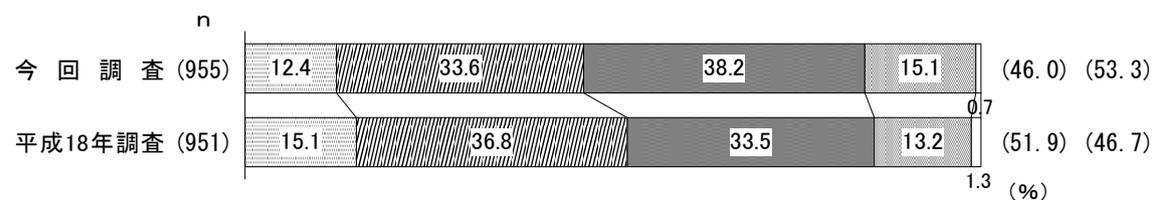
イ 毎日、夕食を一緒にとるようにしている



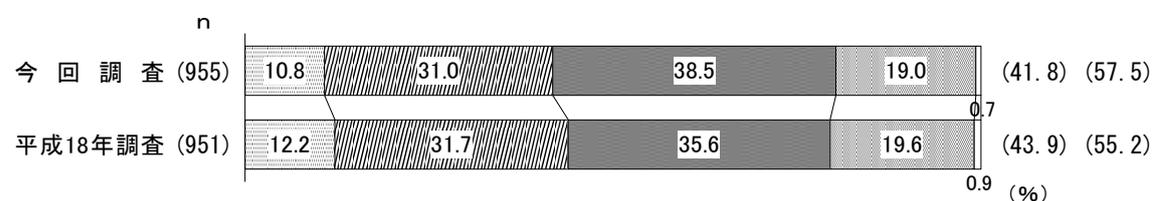
ウ 見る時間を決めてテレビを見させている



エ 本を読むように勧めたり、読んだ本の感想を話し合ったりしている

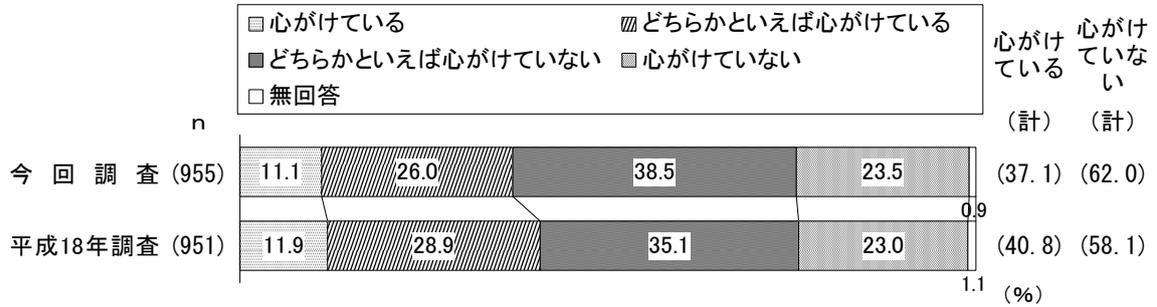


オ 博物館、美術館、図書館、映画、演劇などに連れて行くようになっている

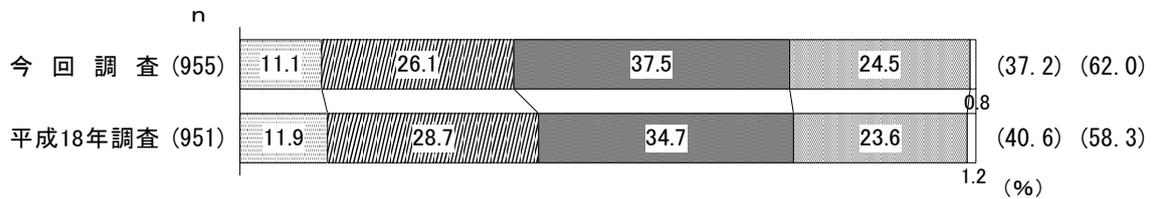


図表 1-11-5 教育やしつけについて心がけていること（経年比較）（つづき）

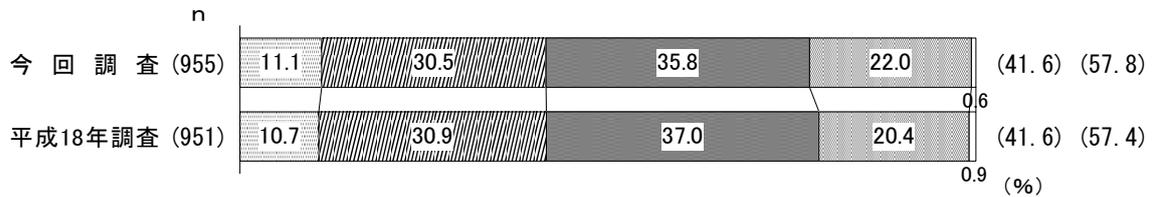
カ スポーツを一緒にするようにしている



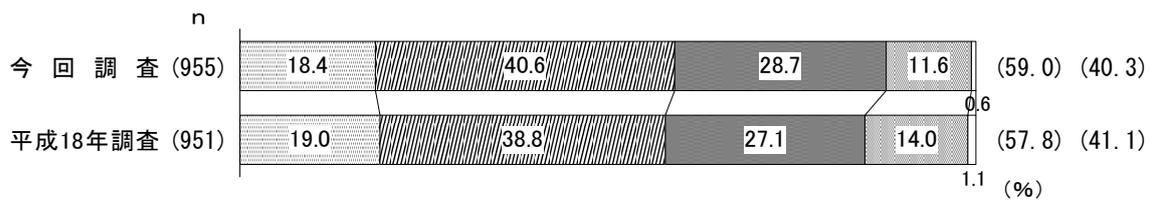
キ 自然の中で、一緒に遊んだりキャンプをしたりするようにしている



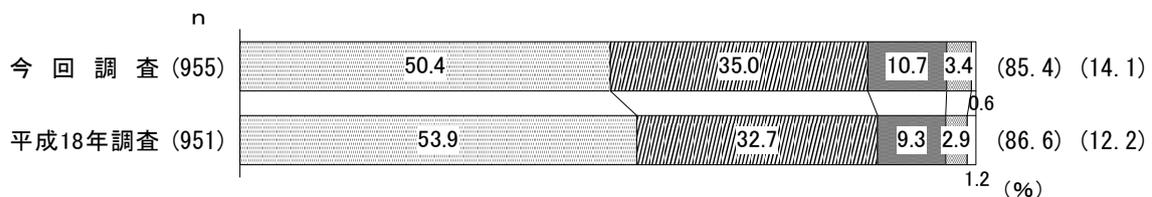
ク 近所の人たちと家族ぐるみで付き合うようにしている



ケ 近所のお祭りや行事に、一緒に参加するようにしている

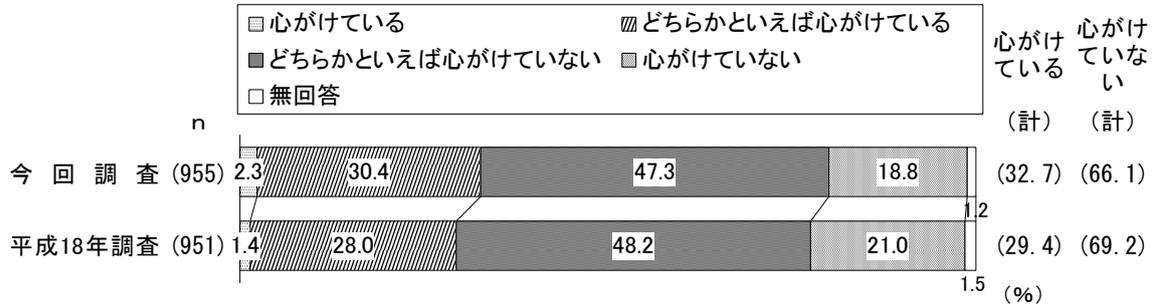


コ 学校の行事には必ず行くようにしている

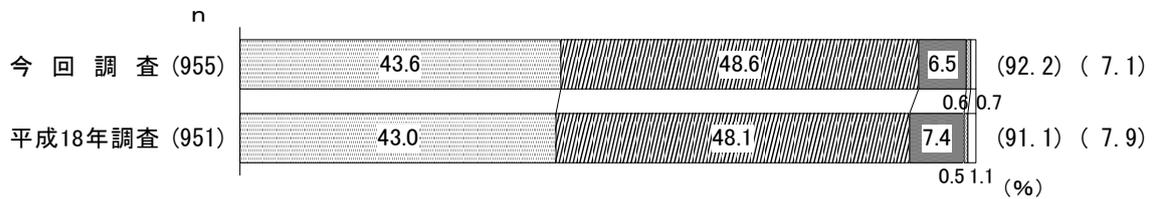


図表 1-11-6 教育やしつけについて心がけていること（経年比較）（つづき）

サ 欲しがるものは、たいてい買い与えるようにしている



シ 自分でできる事は任せている



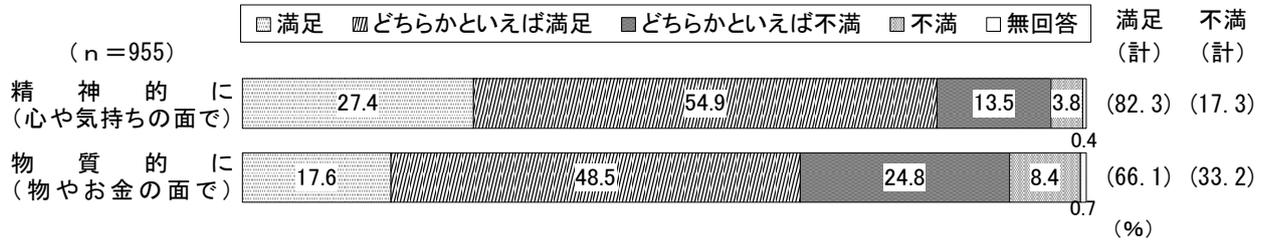
(12) 家庭・家族の満足度

◇『満足（計）』は＜精神的に＞で82.3%、＜物質的に＞で66.1%

問20 あなたは家庭や家族のことで満足していますか。「精神的に」「物質的に」のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をしてください。  
 （類似質問：満10歳～14歳30ページ、満15歳～30歳112ページ参照）

家族や家庭のことで満足しているか聞いたところ、「満足」と「どちらかといえば満足」の2つを合わせた『満足（計）』の割合は、＜精神的に（心や気持ちの面で）＞では82.3%、＜物質的に（物やお金の面で）＞では66.1%となっている。（図表1-12-1）

図表1-12-1

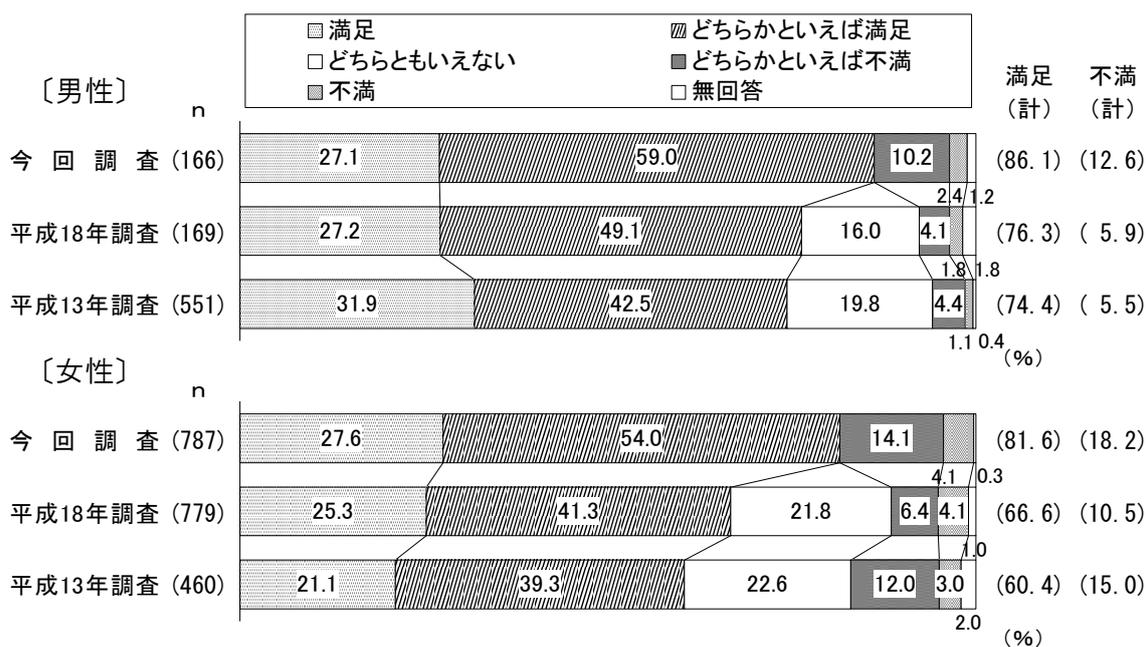


性別にみると、＜精神的に（心や気持ちの面で）＞は、『満足（計）』の割合は男性（86.1%）の方が女性（81.6%）より4.5ポイント高くなっている。（図表1-12-2）

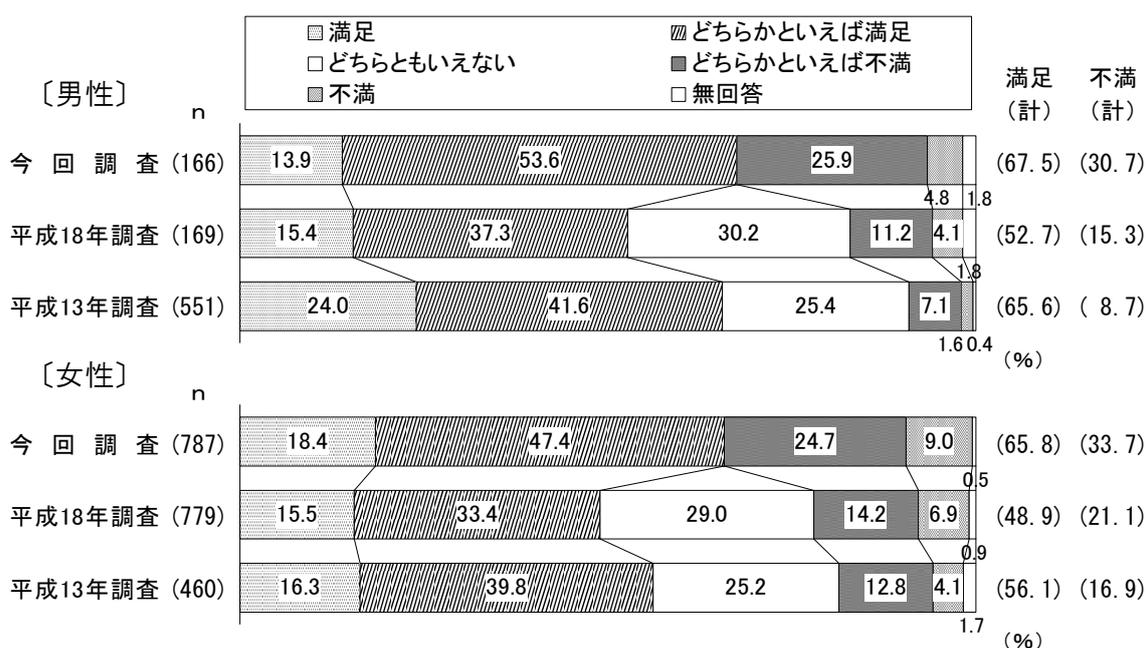
＜物質的に（物やお金の面で）＞では、『満足（計）』の割合は男性（67.5%）、女性（65.8%）ともに6割台で、ほぼ同じ傾向になっている。（図表1-12-3）

また、過去の調査との比較は、今回調査では「どちらともいえない」の選択肢を省いているため参考に掲載する。（図表1-12-2、図表1-12-3）

図表1-12-2 家庭・家族の満足度＜精神的に（心や気持ちの面で）＞（性別経年比較）



図表1-12-3 家庭・家族の満足度＜物質的に（物やお金の面で）＞（性別経年比較）



(注)「どちらともいえない」の選択肢は今回調査では省いているため、過去の調査との比較は参考にとどまる。

## 2 子育ての方針や悩みについて

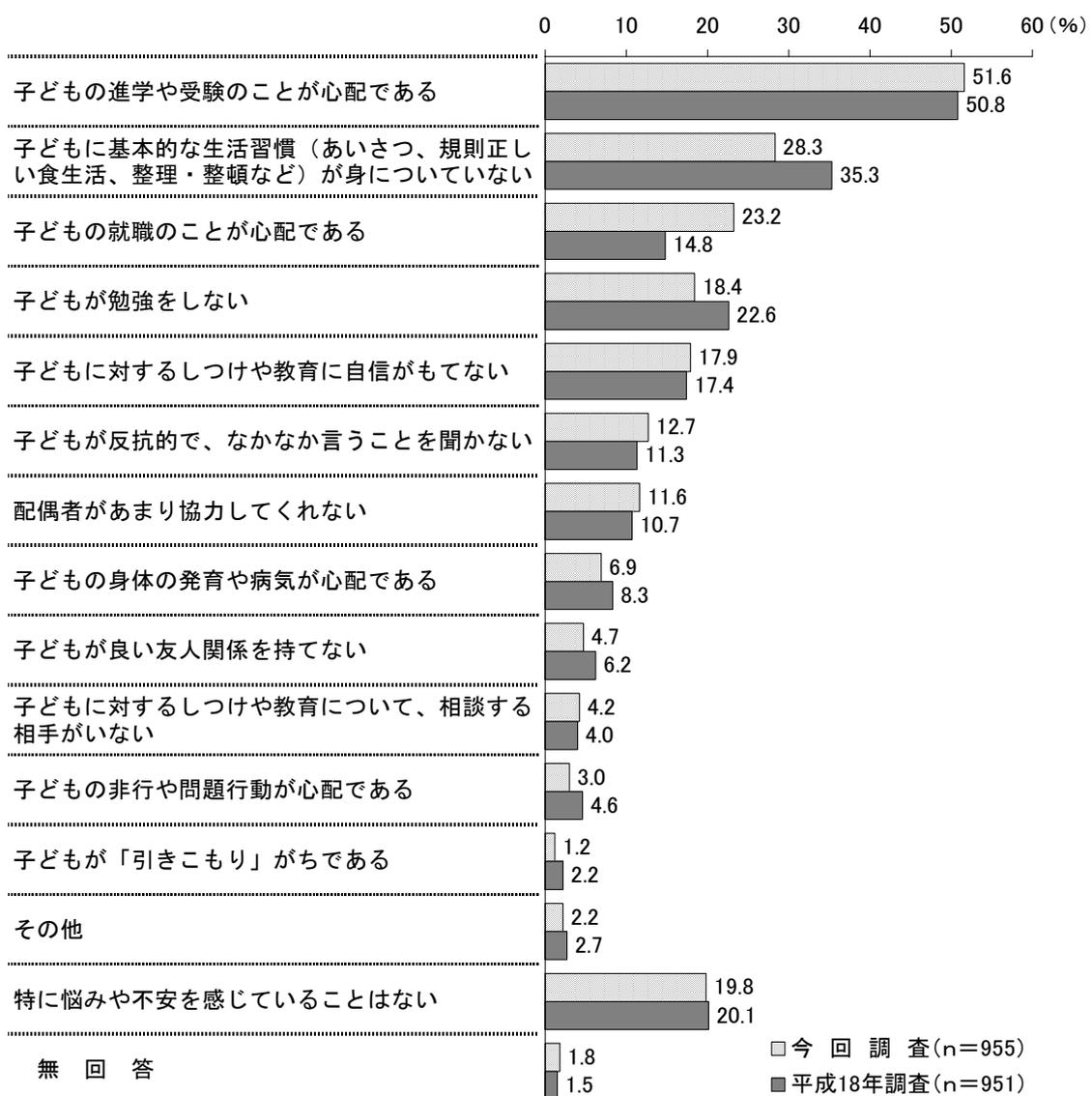
### (1) 子どものしつけや教育での悩み・不安

◇「子どもの進学や受験のことが心配である」が51.6%

問21 あなたは、お子さんのしつけや教育について、悩んだり、不安を感じていることがありますか。あるとすればどのようなことでしょうか。次の中からあてはまるものすべてに○をしてください。

子どものしつけや教育について、悩んだり不安を感じていることを聞いたところ、「子どもの進学や受験のことが心配である」が51.6%で最も多く、次いで「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身につけていない」（28.3%）、「子どもの就職のことが心配である」（23.2%）、「子どもが勉強をしない」（18.4%）、「子どもに対するしつけや教育に自信がもてない」（17.9%）などの順となっている。（図表2-1-1）

図表2-1-1

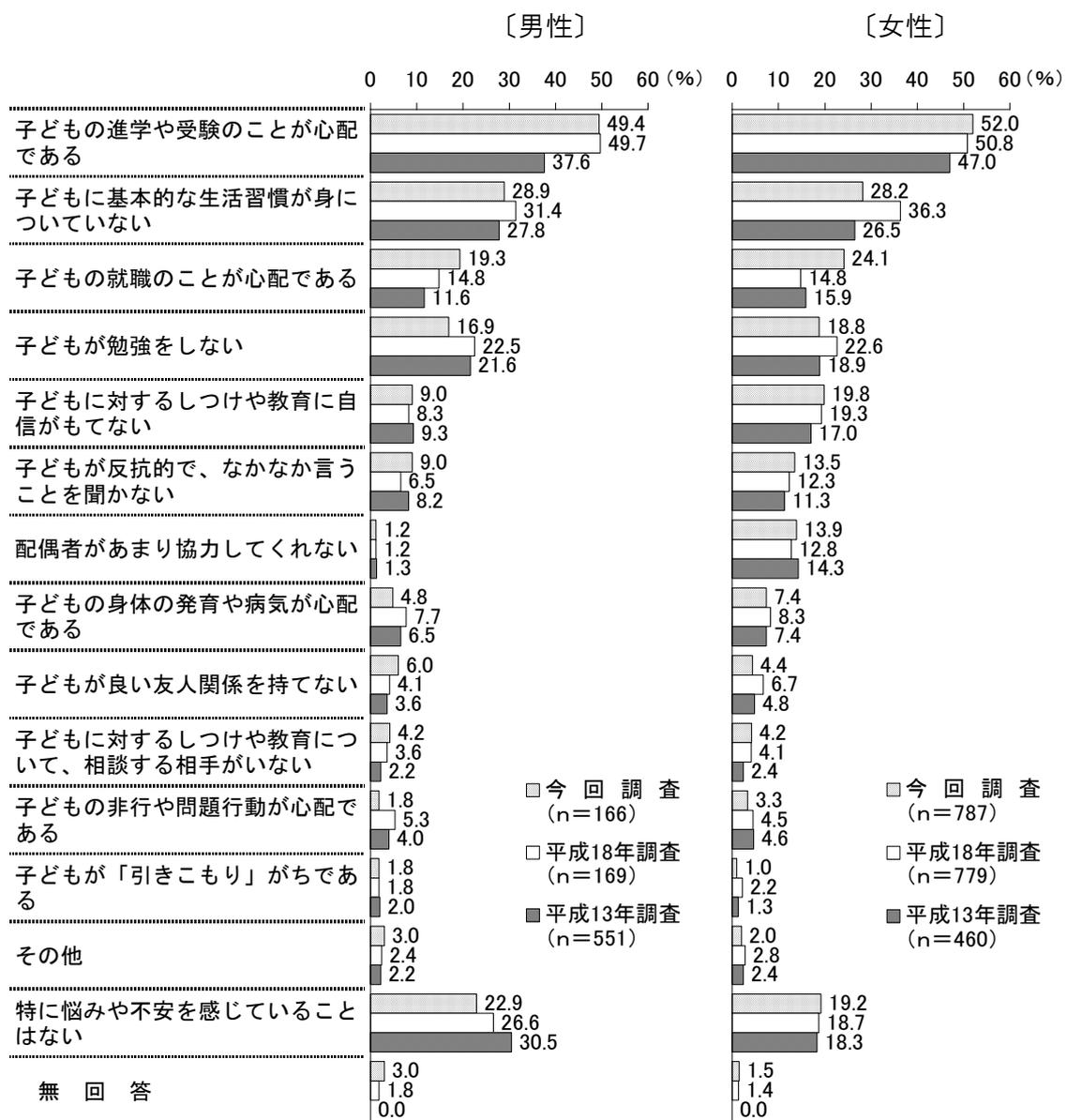


性別にみると、「配偶者があまり協力してくれない」は女性（13.9%）の方が男性（1.2%）より12.7ポイント高く、「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」も女性（19.8%）の方が男性（9.0%）より10.8ポイント高くなっている。また、「子どもの就職のことが心配である」（男性19.3%・女性24.1%）や「子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない」（男性9.0%・女性13.5%）も男性より女性で割合が高くなっている。（図表2-1-2）

平成18年調査と比較すると、「子どもに基本的な生活習慣が身についていない」は女性で8.1ポイント減少している。「子どもの就職のことが心配である」は男女とも増加傾向にあり、特に女性では9.3ポイント増加している。「子どもが勉強をしない」は男性で5.6ポイント減少している。

（図表2-1-2）

図表2-1-2 子どものしつけや教育での悩み・不安（性別経年比較）



(2) 子どものしつけや教育で参考とするもの

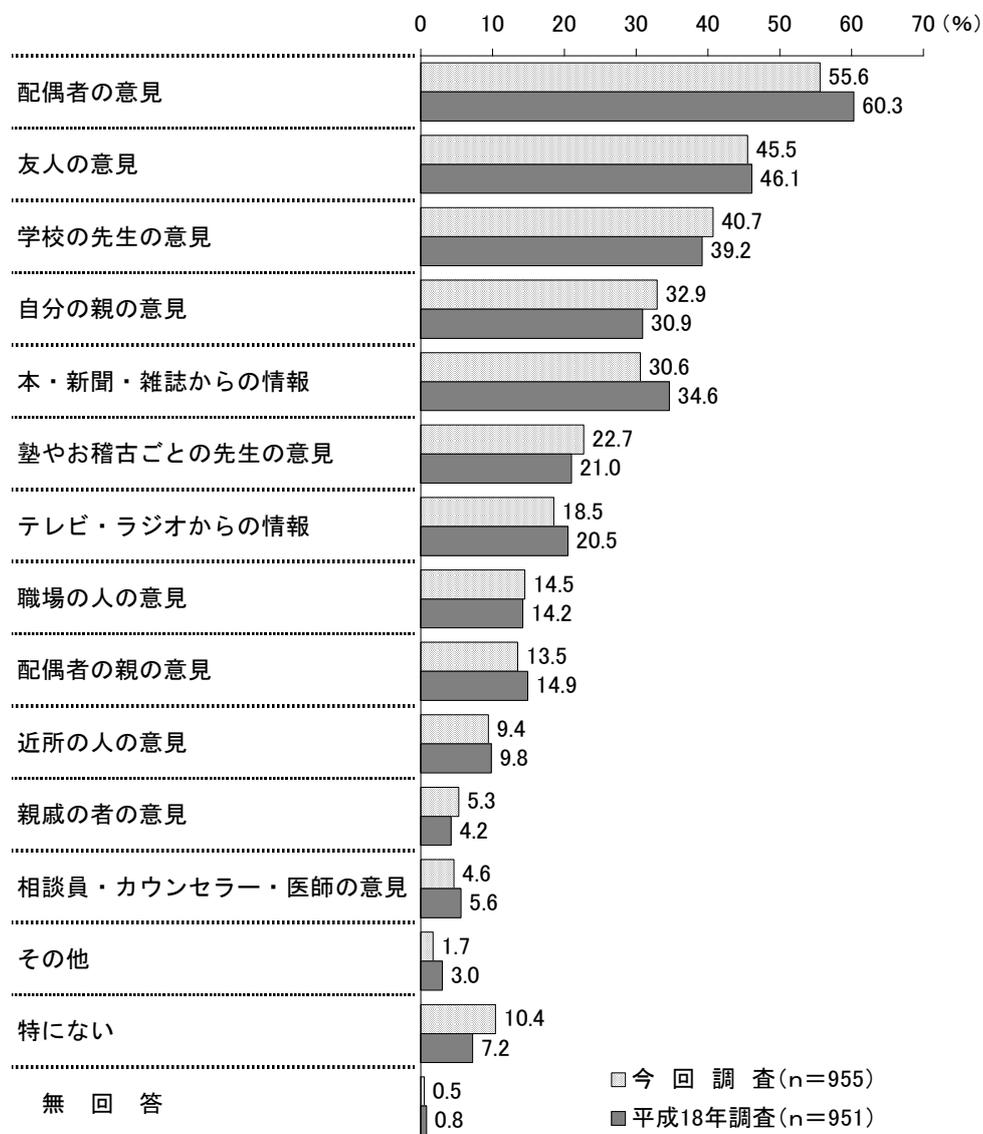
◇「配偶者の意見」が55.6%、「友人の意見」が45.5%

問22 お子さんのしつけや教育に当たって、あなたが特に参考とするものは何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をしてください。

子どものしつけや教育に当たって特に参考とするものを聞いたところ、「配偶者の意見」が55.6%で最も多く、次いで「友人の意見」(45.5%)、「学校の先生の意見」(40.7%)、「自分の親の意見」(32.9%)、「本・新聞・雑誌からの情報」(30.6%)などの順となっている。

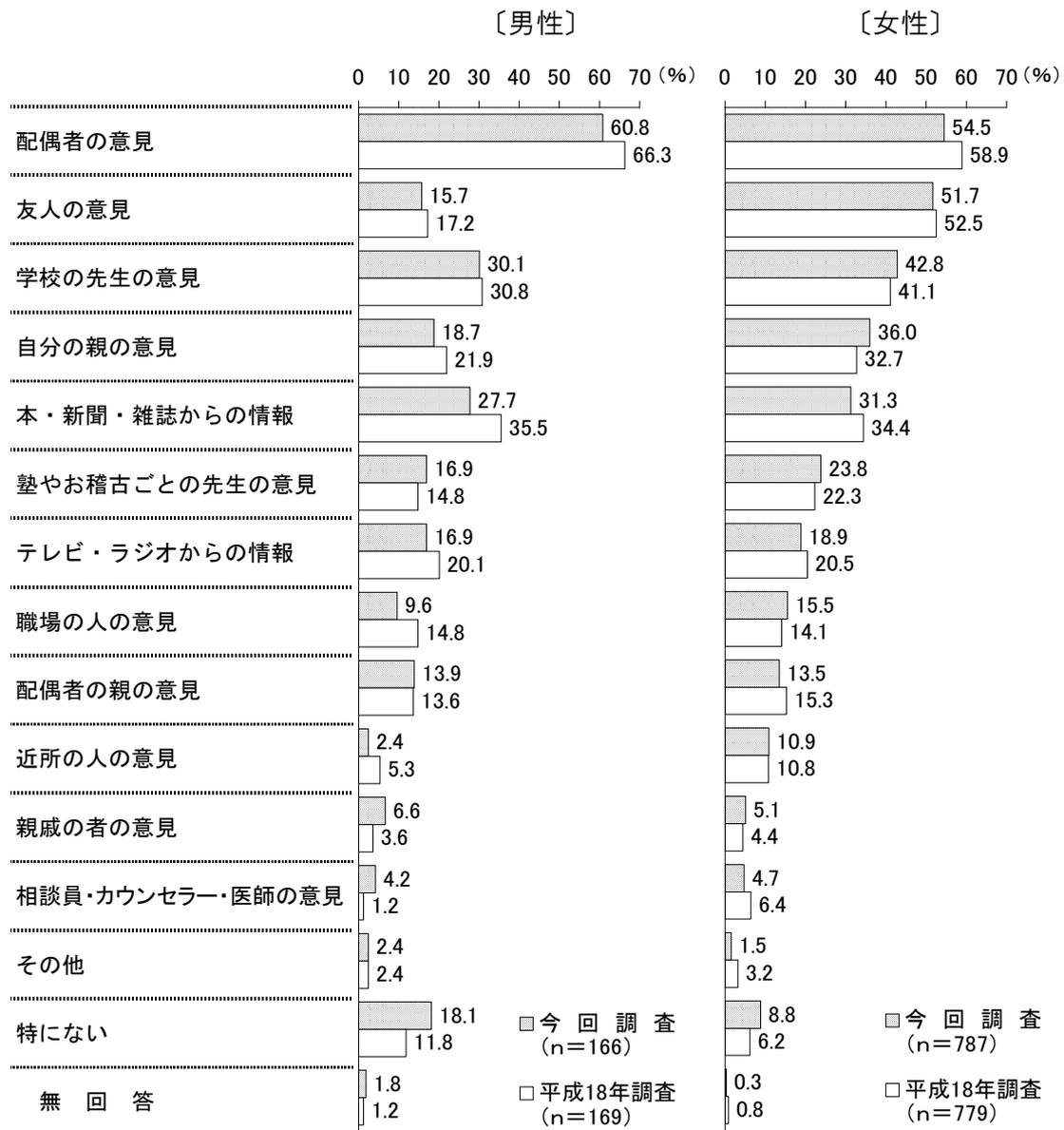
(図表2-2-1)

図表2-2-1



性別にみると、「配偶者の意見」は男性（60.8%）の方が女性（54.5%）より6.3ポイント高くなっている。それ以外の項目では、「友人の意見」、「学校の先生の意見」、「自分の親の意見」、「本・新聞・雑誌からの情報」、「塾やお稽古ごとの先生の意見」、「テレビ・ラジオからの情報」、「職場の人の意見」など、女性の方が割合の高い項目が多くなっている。（図表2-2-2）

図表2-2-2 子どものしつけや教育で参考とするもの（性別経年比較）



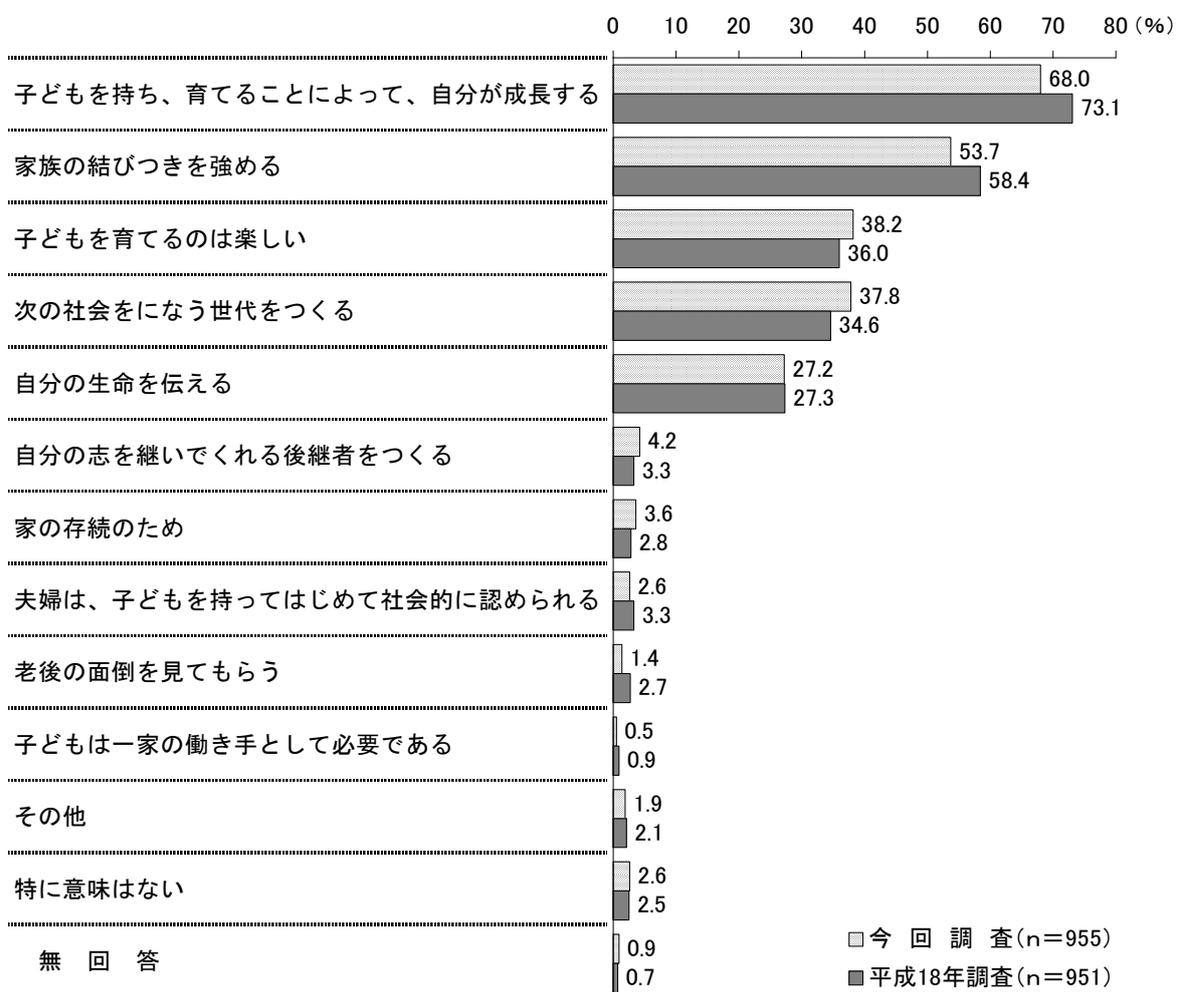
### (3) 子どもを持ち、育てることの意味

◇「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」が68.0%

問23 あなたにとって、子どもを持ち、育てるといことはどのような意味を持っていますか。次の中から主なものを3つまで選んで○をしてください。

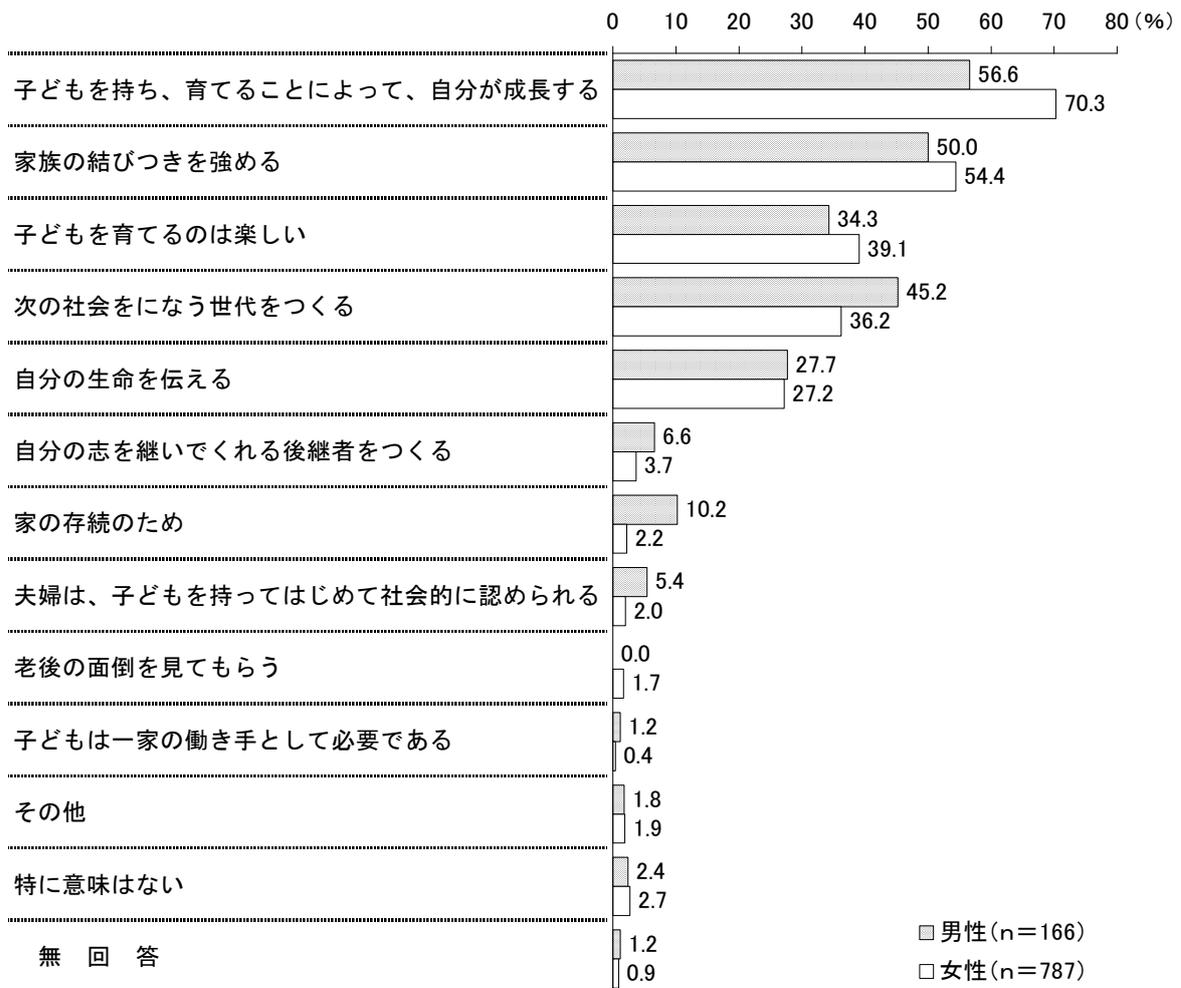
子どもを持ち、育てるといことはどのような意味を持っているか聞いたところ、「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」が68.0%で最も多く、次いで「家族の結びつきを強める」(53.7%)、「子どもを育てるのは楽しい」(38.2%)、「次の社会をになう世代をつくる」(37.8%)、「自分の生命を伝える」(27.2%)などの順となっている。(図表2-3-1)

図表2-3-1



性別にみると、「子どもを持ち、育てることによって、自分が成長する」は女性（70.3%）の方が男性（56.6%）より13.7ポイント高くなっている。「次の社会をになう世代をつくる」は男性（45.2%）の方が女性（36.2%）より9.0ポイント高く、「家の存続のため」も男性（10.2%）の方が女性（2.2%）より8.0ポイント高くなっている。（図表2-3-2）

図表2-3-2 子どもを持ち、育てることの意味（性別）



(4) 子育てへの考え方

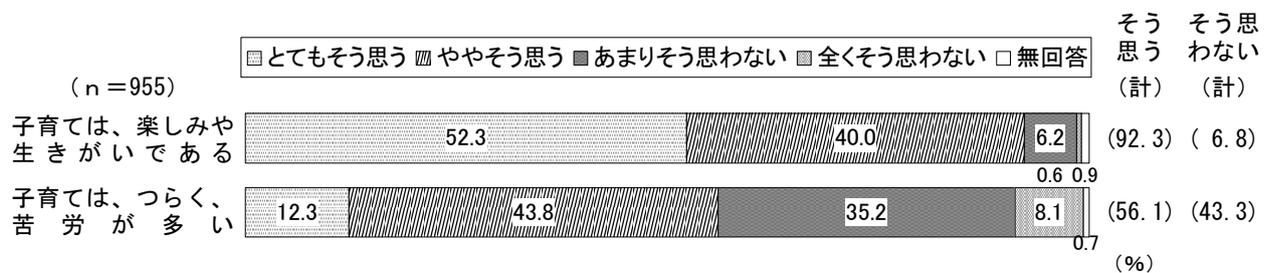
◇<子育ては、楽しみや生きがいである>は、『そう思う（計）』が92.3%

問24 子育てに関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。それぞれ、あてはまるものを1つ選んで○をしてください。

子育てに関する2つの意見について、どのように思うか聞いたところ、<子育ては、楽しみや生きがいである>については、「とてもそう思う」（52.3%）と「ややそう思う」（40.0%）の2つを合わせた『そう思う（計）』が92.3%で特に多くなっている。<子育ては、つらく、苦勞が多い>については、『そう思う（計）』は56.1%で、「あまりそう思わない」（35.2%）と「全くそう思わない」（8.1%）の2つを合わせた『そう思わない（計）』（43.3%）を上回っている。

(図表2-4-1)

図表2-4-1

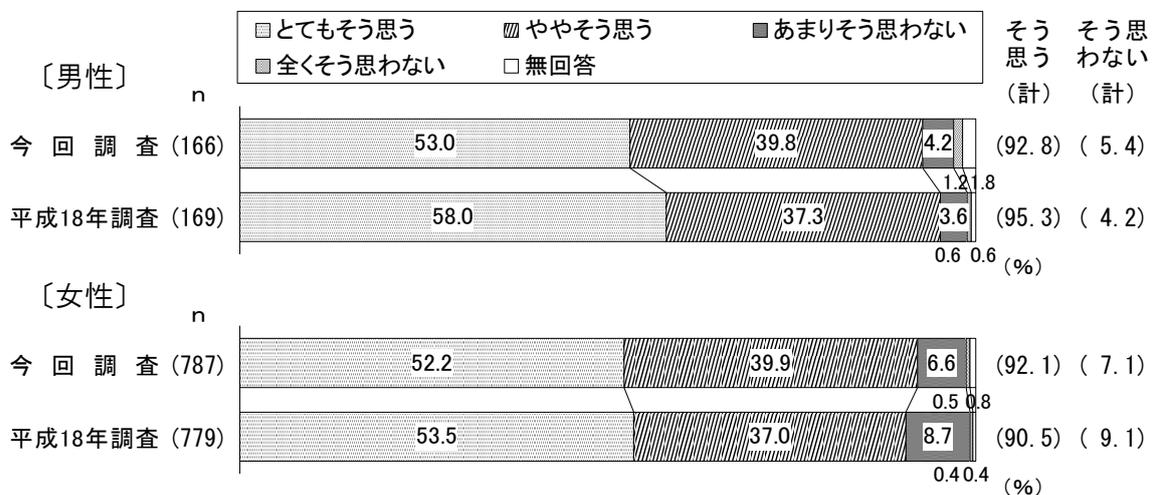


性別にみると、＜子育ては、楽しみや生きがいである＞については、男女ともほぼ同じ傾向になっている。＜子育ては、つらく、苦勞が多い＞については、男性では、『そう思う（計）』（50.6%）と『そう思わない（計）』（48.7%）がほぼ同じ割合であるのに対し、女性では、『そう思う（計）』（57.0%）の方が『そう思わない（計）』（42.2%）を14.8ポイント上回っている。

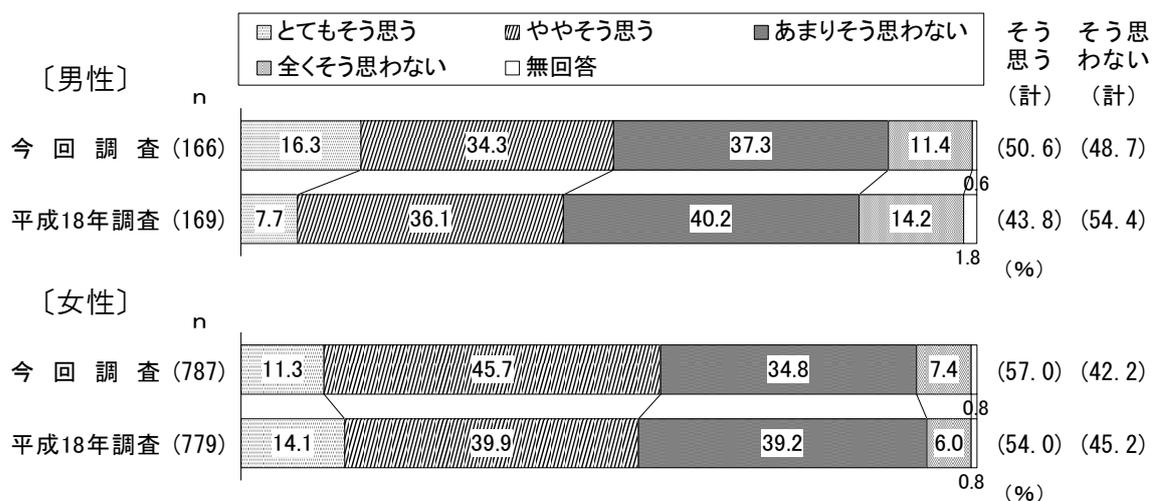
（図表2-4-2、図表2-4-3）

平成18年調査と比較すると、＜子育ては、楽しみや生きがいである＞についてはほぼ同じ傾向になっている。＜子育ては、つらく、苦勞が多い＞については、男女とも『そう思う（計）』の割合が増加傾向にある。（図表2-4-2、図表2-4-3）

図表2-4-2 子育てへの考え方＜子育ては、楽しみや生きがいである＞（性別経年比較）



図表2-4-3 子育てへの考え方＜子育ては、つらく、苦勞が多い＞（性別経年比較）



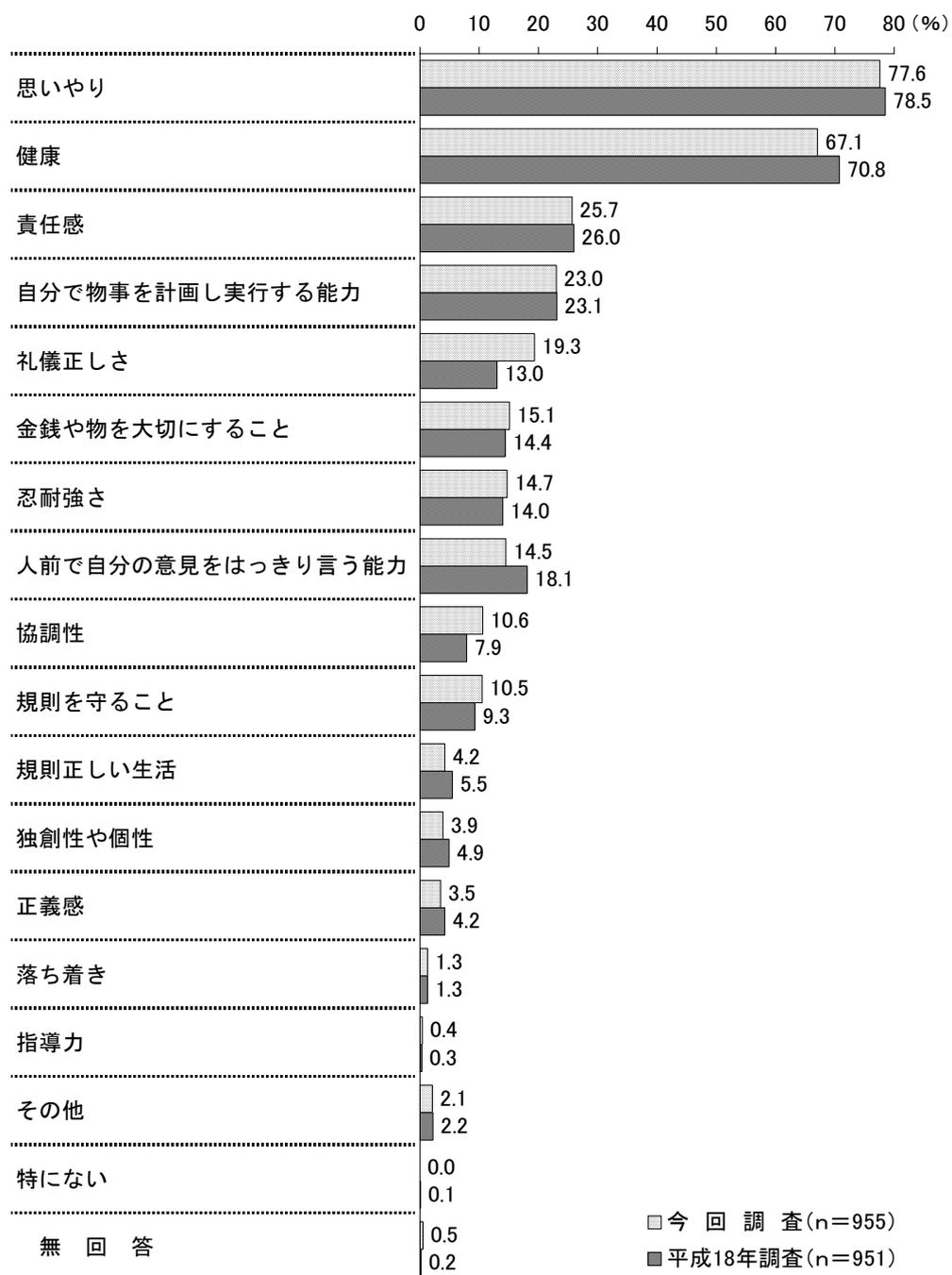
(5) 子どもに望むこと

◇「思いやり」が77.6%、「健康」が67.1%

問25 あなたがお子さんに望むことは何ですか。次の中から主なものを3つまで選んで○をしてください。

子どもに望むことを3つまで選んでもらったところ、「思いやり」(77.6%)と「健康」(67.1%)の2項目が特に多く、次いで「責任感」(25.7%)、「自分で物事を計画し実行する能力」(23.0%)、「礼儀正しさ」(19.3%)などの順となっている。(図表2-5-1)

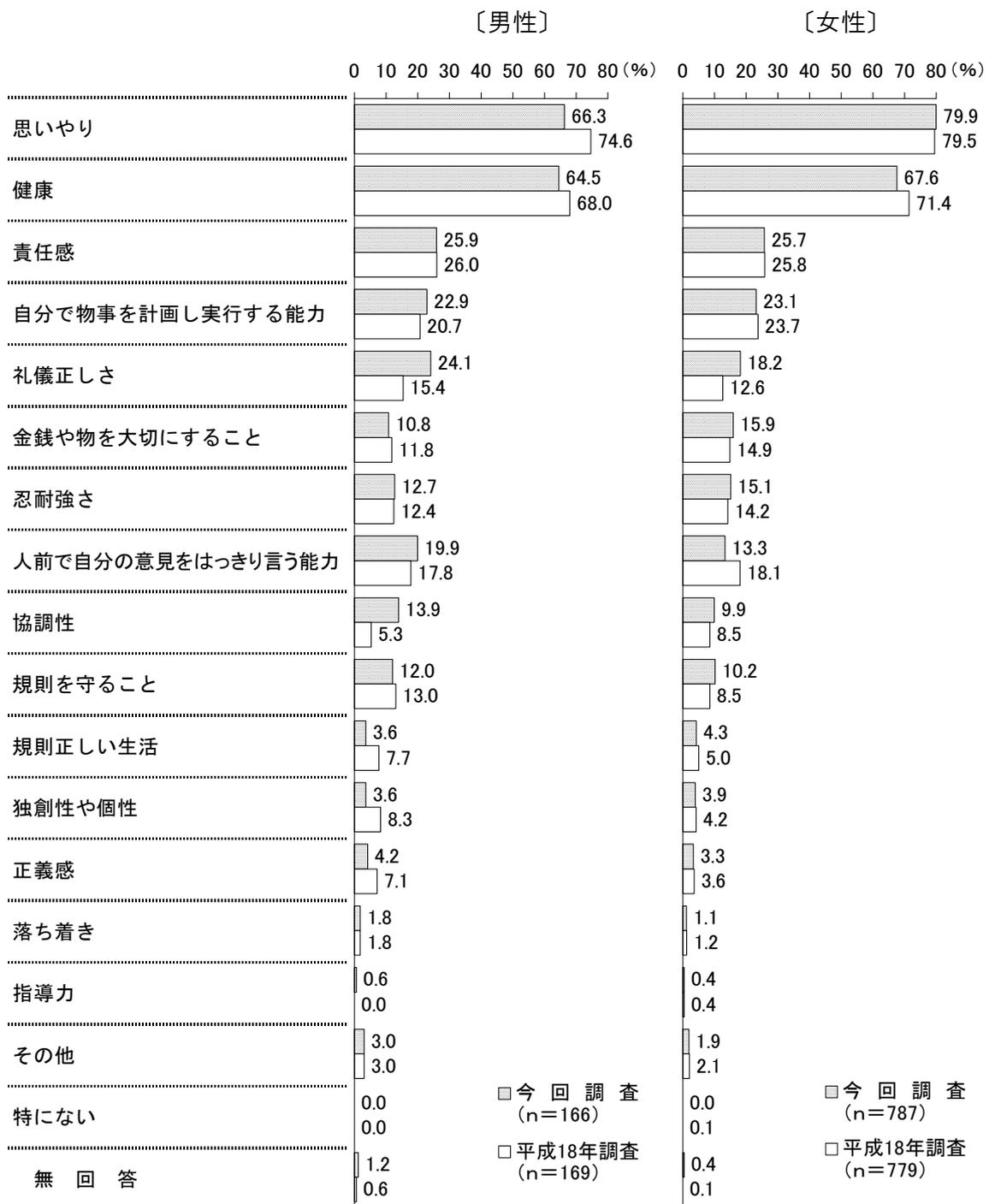
図表2-5-1



性別にみると、「思いやり」は女性（79.9%）の方が男性（66.3%）より13.6ポイント高くなっている。「人前で自分の意見をはっきり言う能力」は男性（19.9%）の方が女性（13.3%）より6.6ポイント高く、「礼儀正しさ」も男性（24.1%）の方が女性（18.2%）より5.9ポイント高くなっている。（図表2-5-2）

平成18年調査と比較すると、男性では「礼儀正しさ」が8.7ポイント、「協調性」が8.6ポイント、それぞれ増加し、「思いやり」は8.3ポイント減少している。女性では、「礼儀正しさ」が5.6ポイント増加している。（図表2-5-2）

図表2-5-2 子どもに望むこと（性別経年比較）



(6) 夢や希望をかなえるためにやらなければいけないこと

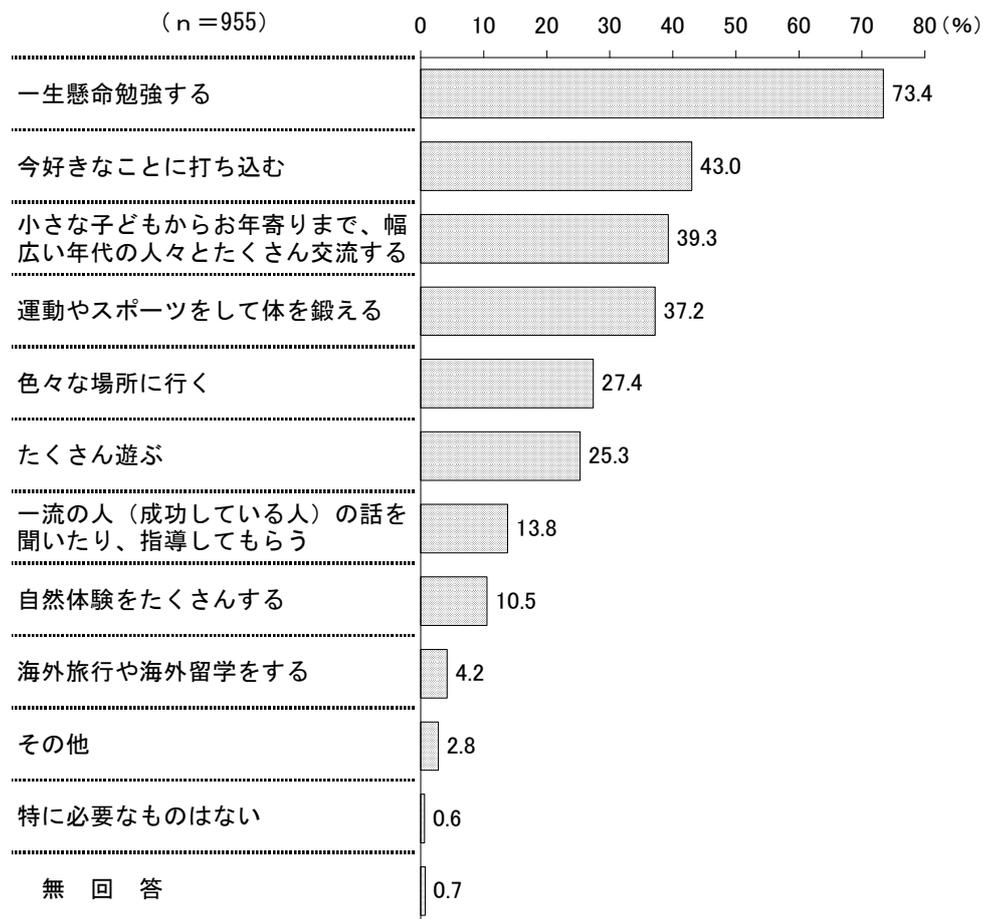
◇「一生懸命勉強する」が73.4%

問26 あなたは、あなたのお子さんが将来「夢を実現する」、「希望の職業に就く」ためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をしてください。

(類似質問：満10歳～14歳58ページ、満15歳～30歳148ページ参照)

子どもが将来夢を実現したり、希望の職業に就くためには、どのようなことが必要だと思うか聞いたところ、「一生懸命勉強する」が73.4%で最も多く、次いで「今好きなことに打ち込む」(43.0%)、「小さな子どもからお年寄りまで、幅広い世代の人々とたくさん交流する」(39.3%)、「運動やスポーツをして体を鍛える」(37.2%)、「色々な場所に行く」(27.4%)、「たくさん遊ぶ」(25.3%)などの順となっている。(図表2-6-1)

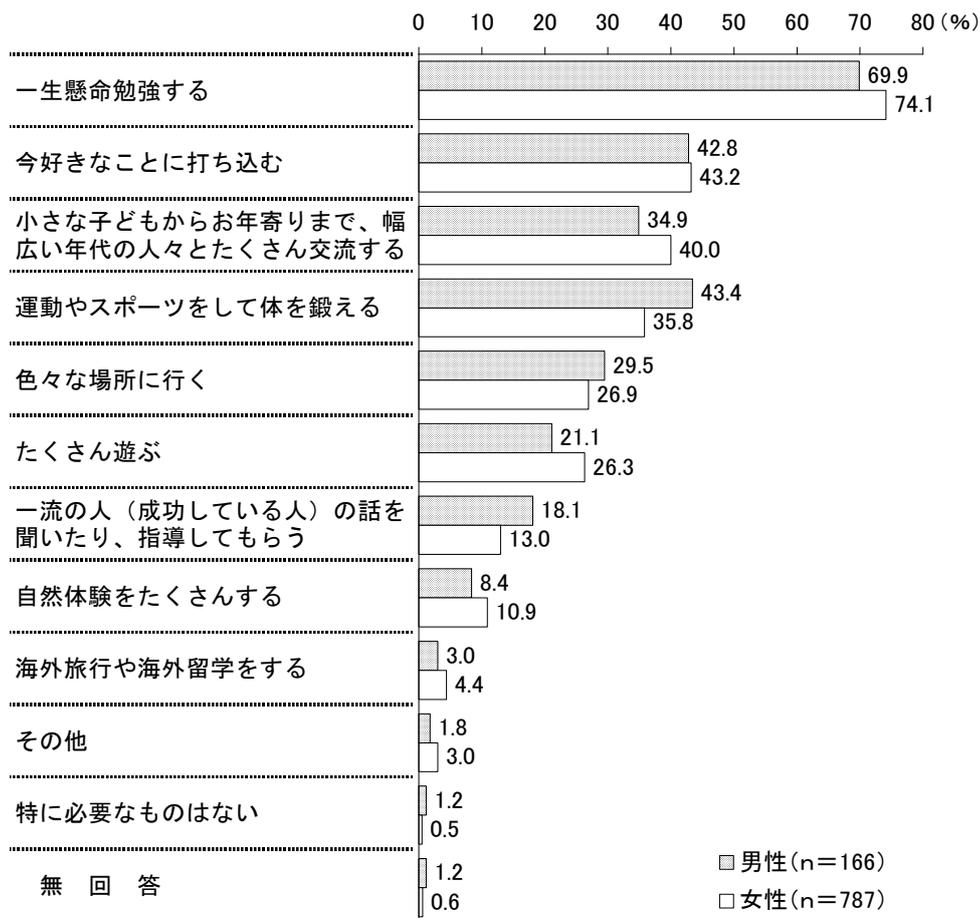
図表2-6-1



性別にみると、「運動やスポーツをして体を鍛える」は男性（43.4%）の方が女性（35.8%）より7.6ポイント高く、「一流の人（成功している人）の話を聞いたり、指導してもら」も男性（18.1%）の方が女性（13.0%）より5.1ポイント高くなっている。「たくさん遊ぶ」は女性（26.3%）の方が男性（21.1%）より5.2ポイント高く、「小さな子どもからお年寄りまで、幅広い世代の人々とたくさん交流する」も女性（40.0%）の方が男性（34.9%）より5.1ポイント高くなっている。

（図表2-6-2）

図表2-6-2 夢や希望をかなえるためにやらなければならないこと（性別）



### 3 人生観や性別役割感について

#### (1) 子育てに関する役割分担

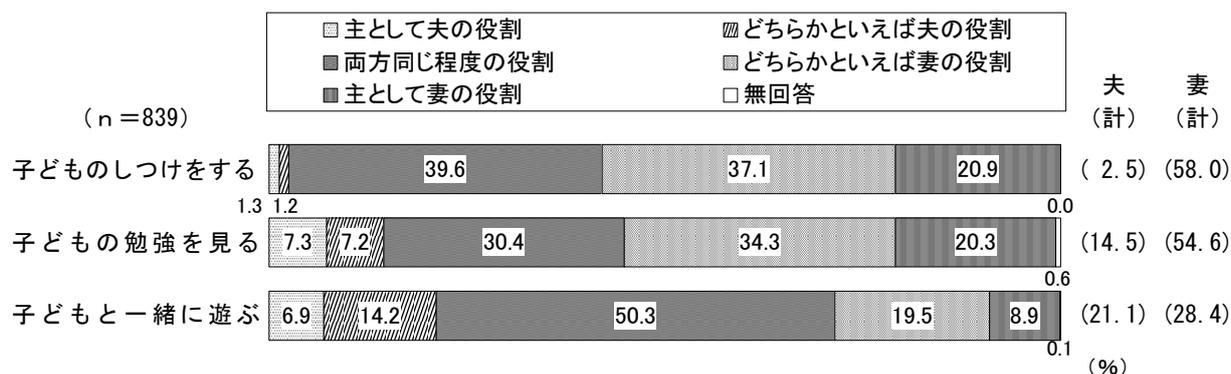
◇<子どものしつけをする>では、妻の役割と答えた人が58.0%

(「結婚している(現在、配偶者がいる)」と答えた方にうかがいます)

問28 あなたの家庭で、次のような事柄は、どなたの役割でしょうか。それぞれについて1つずつ選んで○をしてください。

子育てに関する役割分担について、3項目に分けて聞いたところ、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の2つを合わせた『妻(計)』の割合は、<子どものしつけをする>で58.0%、<子どもの勉強を見る>で54.6%と多くなっている。<子どもと一緒に遊ぶ>は、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」の2つを合わせた『夫(計)』が21.1%、『妻(計)』が28.4%となっている。(図表3-1-1)

図表3-1-1

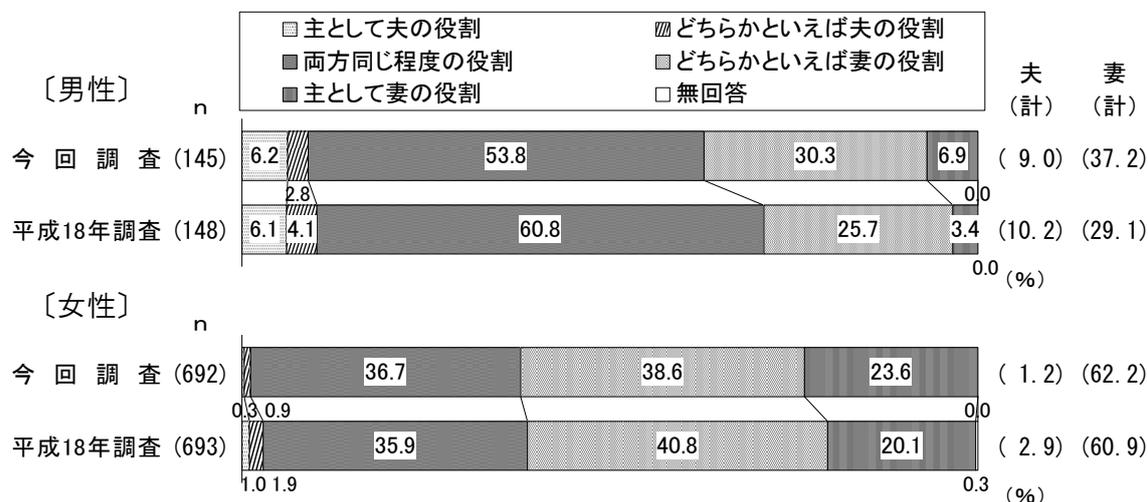


<子どものしつけをする>について性別にみると、男性では「両方同じ程度の役割」が53.8%、『妻(計)』が37.2%となっているが、女性では「両方同じ程度の役割」は36.7%にとどまり、『妻(計)』が62.2%と多くなっている。(図表3-1-2)

平成18年調査と比較すると、男性では『妻(計)』が8.1ポイント増加している。

(図表3-1-2)

図表3-1-2 子育てに関する役割分担<子どものしつけをする> (性別経年比較)

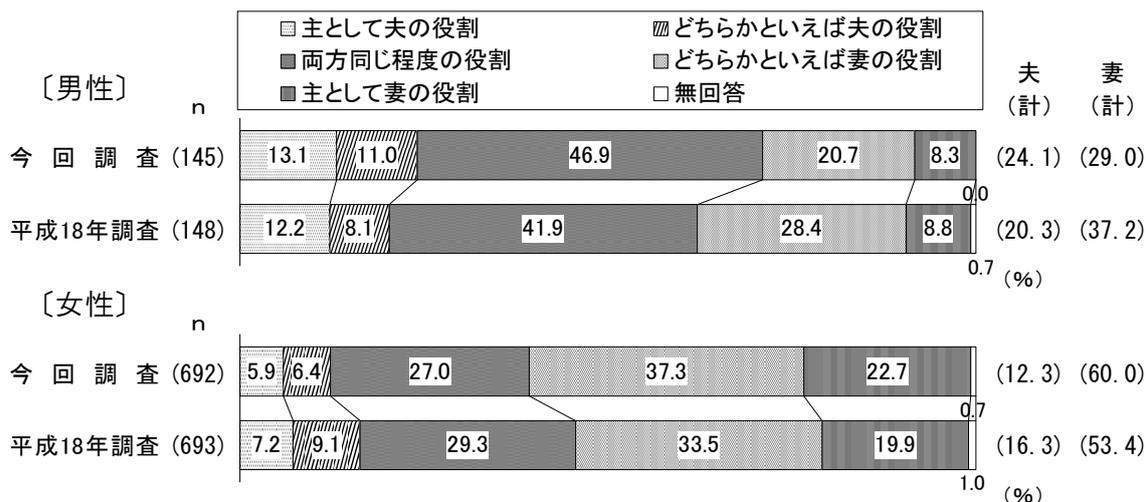


<子どもの勉強をみる>について性別にみると、男性では「両方同じ程度の役割」が46.9%と多くなっているが、女性では、「両方同じ程度の役割」は27.0%にとどまっている。

(図表3-1-3)

平成18年調査と比較すると、男性では『夫(計)』が3.8ポイント増加し、女性では『妻(計)』が6.6ポイント増加している。(図表3-1-3)

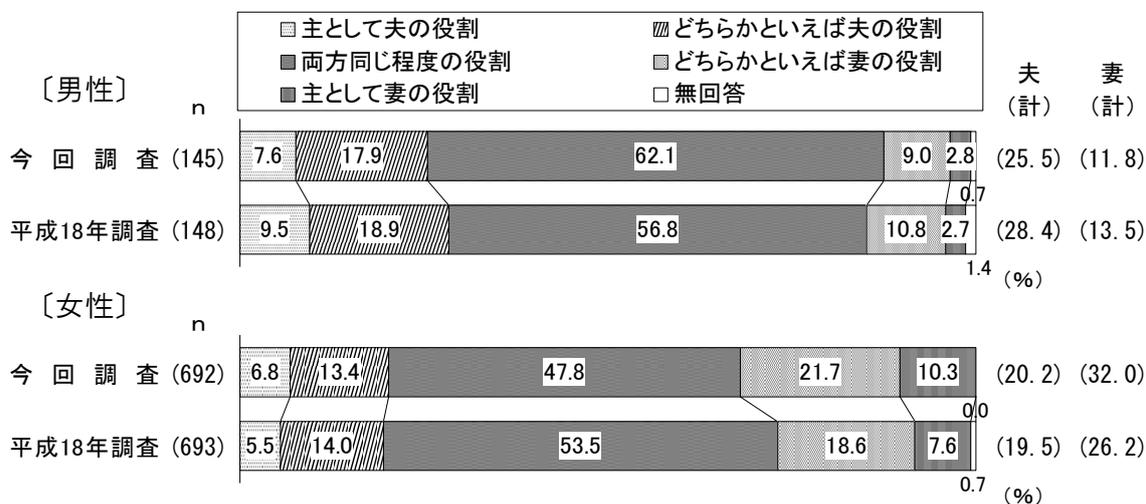
図表3-1-3 子育てに関する役割分担<子どもの勉強をみる> (性別経年比較)



<子どもと一緒に遊ぶ>について性別にみると、男性では「両方同じ程度の役割」が62.1%で、『夫(計)』(25.5%)の方が『妻(計)』(11.8%)より13.7ポイント高くなっている。女性では、「両方同じ程度の役割」は47.8%で、『妻(計)』(32.0%)の方が『夫(計)』(20.2%)より11.8ポイント高くなっている。(図表3-1-4)

平成18年調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図表3-1-4)

図表3-1-4 子育てに関する役割分担<子どもと一緒に遊ぶ> (性別経年比較)



(2) ワーク・ライフ・バランスに関する意識

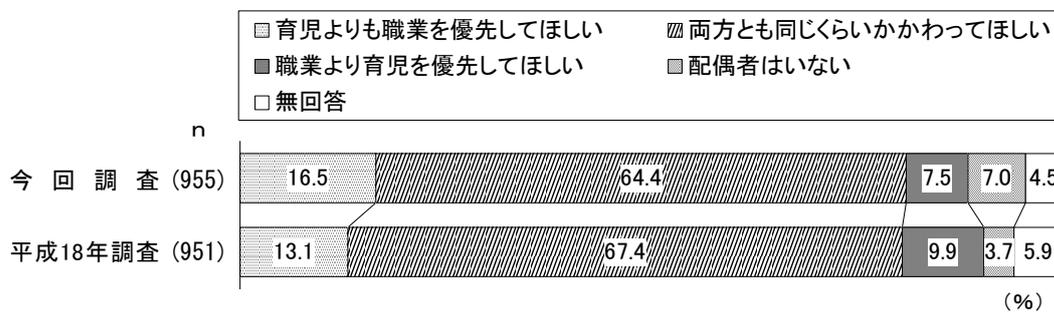
◇「両方とも同じくらい関わってほしい」は夫に対しては68.1%、妻に対しては47.0%

問29 あなたの配偶者には、職業と育児（子育て）のバランスをどのようにしてほしいと思いますか。配偶者が職業に就いていない方もお答えください。次の中から1つ選んで○をしてください。

配偶者に対して、ワーク・ライフ・バランス（仕事との生活の調和）をどのようにしてほしいか聞いたところ、「両方とも同じくらい関わってほしい」が64.4%で最も多くなっている。

(図表3-2-1)

図表3-2-1



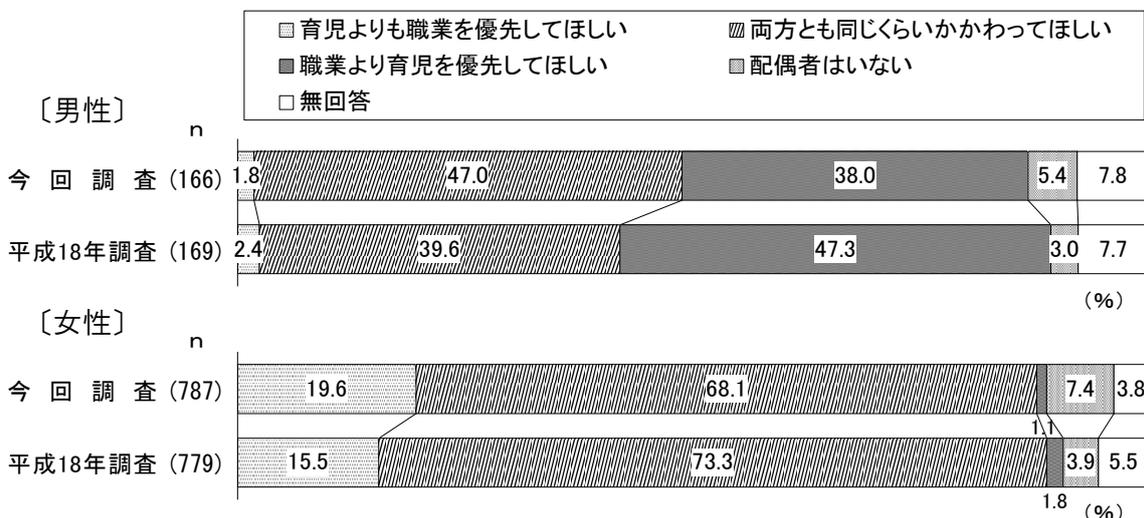
性別にみると、男性（妻に対する意識）は、「職業より育児を優先してほしい」が38.0%、「両方とも同じくらい関わってほしい」が47.0%となっている。

女性（夫に対する意識）は、「育児よりも職業を優先してほしい」が19.6%、「両方とも同じくらい関わってほしい」が68.1%となっている。（図表3-2-2）

平成18年調査と比較すると、男性（妻に対する意識）では、「職業より育児を優先してほしい」が9.3ポイント減少し、「両方とも同じくらい関わってほしい」は7.4ポイント増加している。

女性（夫に対する意識）では、「育児よりも職業を優先してほしい」が4.1ポイント増加し、「両方とも同じくらい関わってほしい」が5.2ポイント減少している。（図表3-2-2）

図表3-2-2 ワーク・ライフ・バランスに関する意識（性別経年比較）



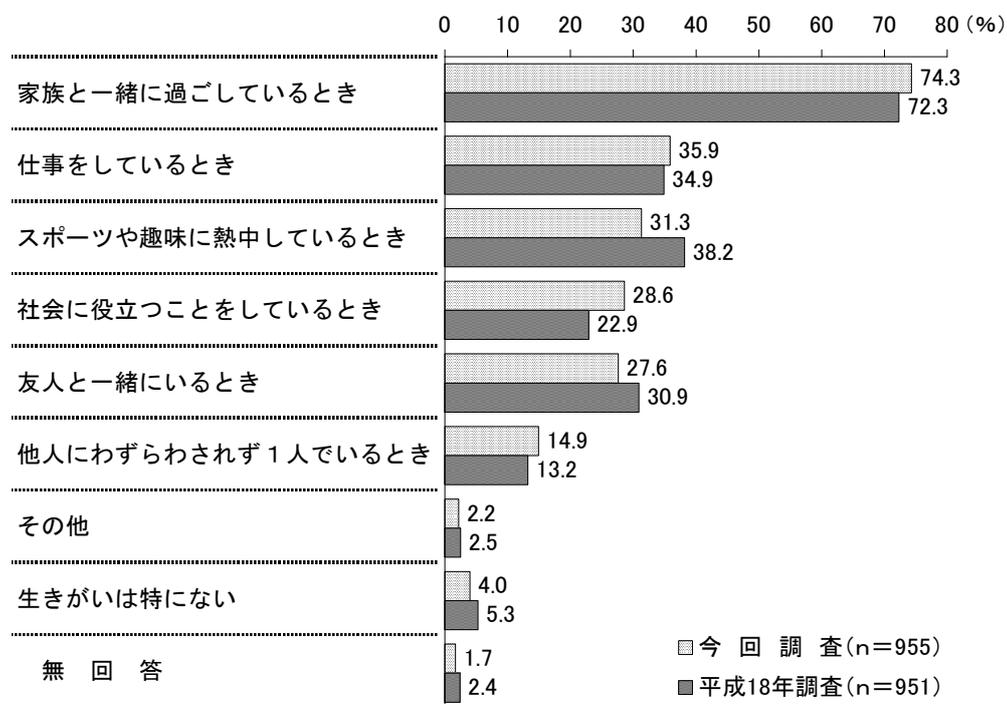
### (3) 生きがいを感じる事

◇「家族と一緒に過ごしているとき」が74.3%

問30 あなたは、普段の生活の中で、どのようなときに生きがいを感じますか。次の中からあてはまるものすべてに○をしてください。

普段の生活の中でどのようなときに生きがいを感じるか聞いたところ、「家族と一緒に過ごしているとき」が74.3%で最も多く、次いで「仕事をしているとき」(35.9%)、「スポーツや趣味に熱中しているとき」(31.3%)、「社会に役立つことをしているとき」(28.6%)、「友人と一緒にいるとき」(27.6%)などの順となっている。(図表3-3-1)

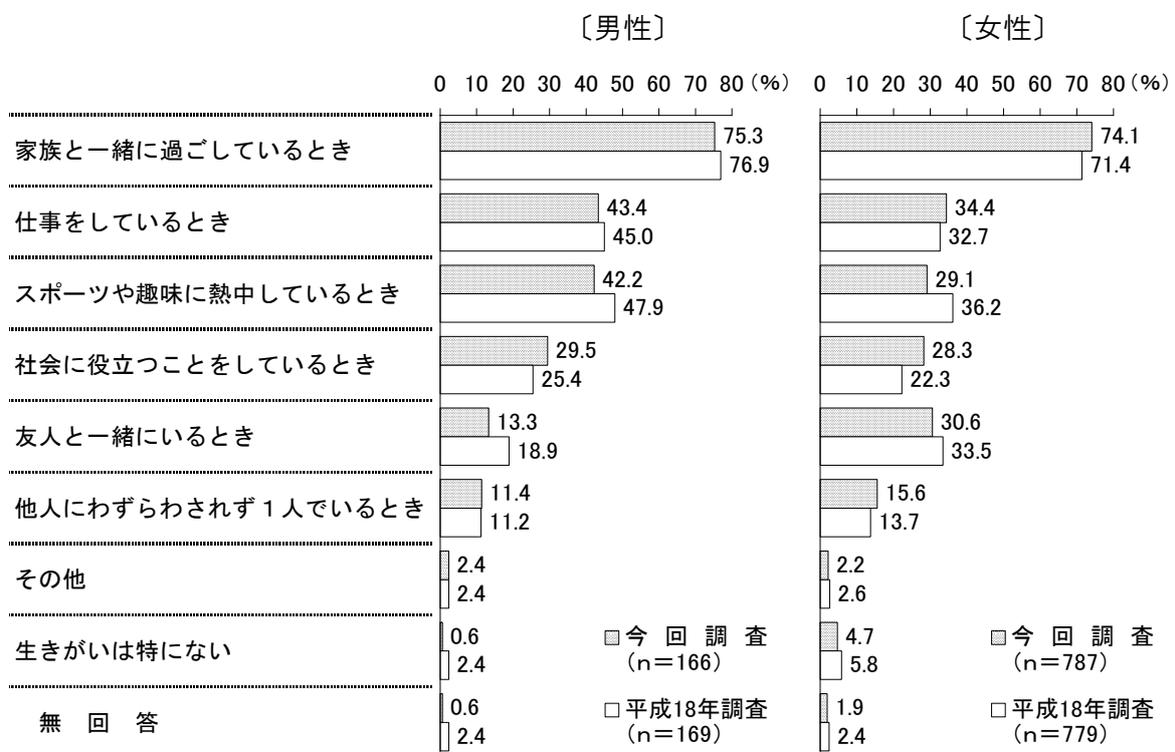
図表3-3-1



性別にみると、「スポーツや趣味に熱中しているとき」は男性（42.2%）の方が女性（29.1%）より13.1ポイント高く、「仕事をしているとき」も男性（43.4%）の方が女性（34.4%）より9.0ポイント高くなっている。「友人と一緒にいるとき」は女性（30.6%）の方が男性（13.3%）より17.3ポイント高くなっている。（図表3-3-2）

平成18年調査と比較すると、「社会に役立つことをしているとき」は女性で6.0ポイント、男性で4.1ポイント、それぞれ増加している。「スポーツや趣味に熱中しているとき」は女性で7.1ポイント、男性で5.7ポイント、それぞれ減少している。「友人と一緒にいるとき」は男性で5.6ポイント減少している。（図表3-3-2）

図表3-3-2 生きがいを感じること（性別経年比較）



(4) 未成年者の非行に関する意識

◇「ある程度よい」は、＜夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける＞で40.7%

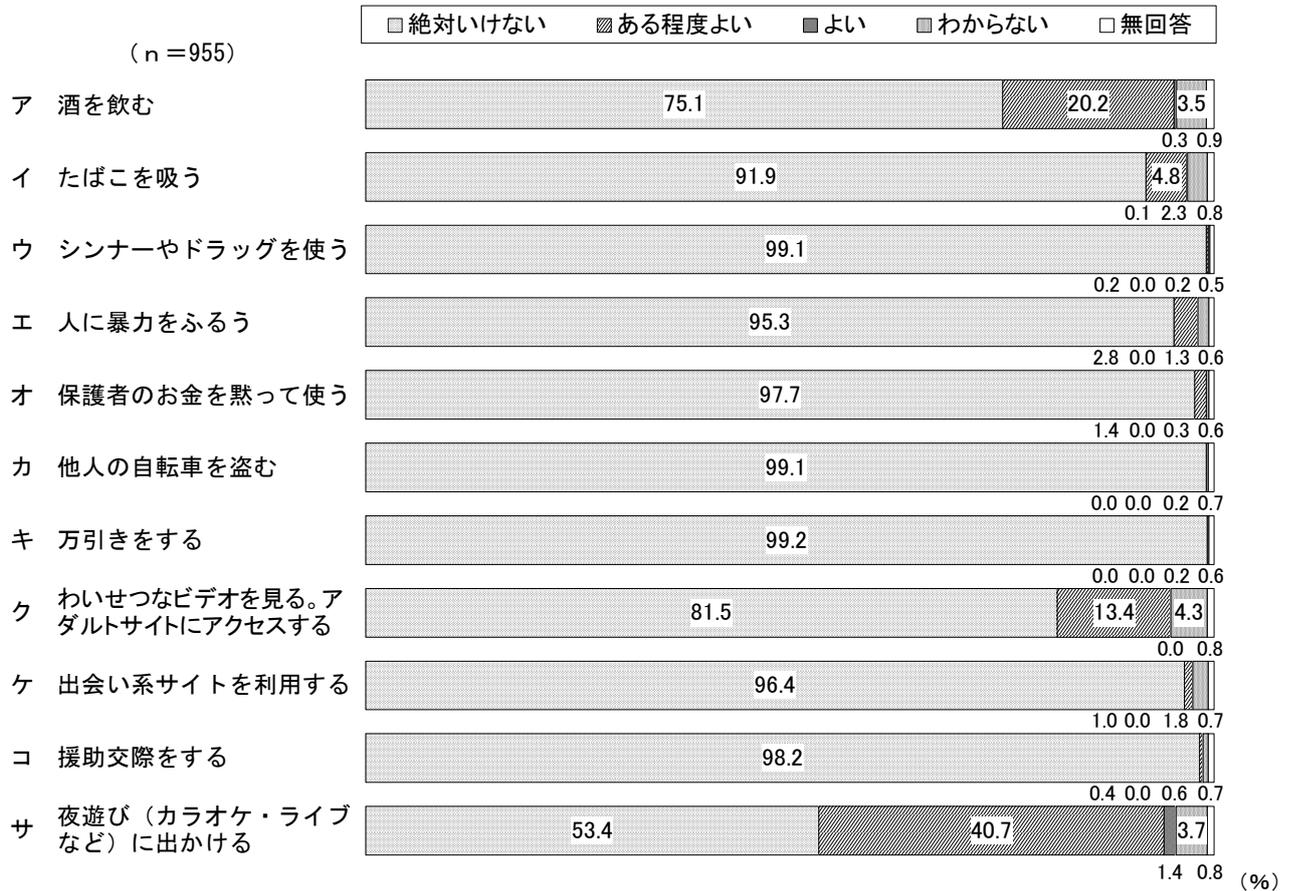
問31 あなたは、未成年者が次のようなことを行うことについてどう思いますか。それぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をしてください。

未成年者の非行に関する意識について、11項目に分けて聞いた。

すべての項目で「絶対いけない」が最も多くなっている。「ある程度よい」は、＜サ 夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける＞（40.7%）、＜ア 酒を飲む＞（20.2%）、＜ク わいせつなビデオを見る。アダルトサイトにアクセスする＞（13.4%）などで多くなっている。

(図表3-4-1)

図表3-4-1



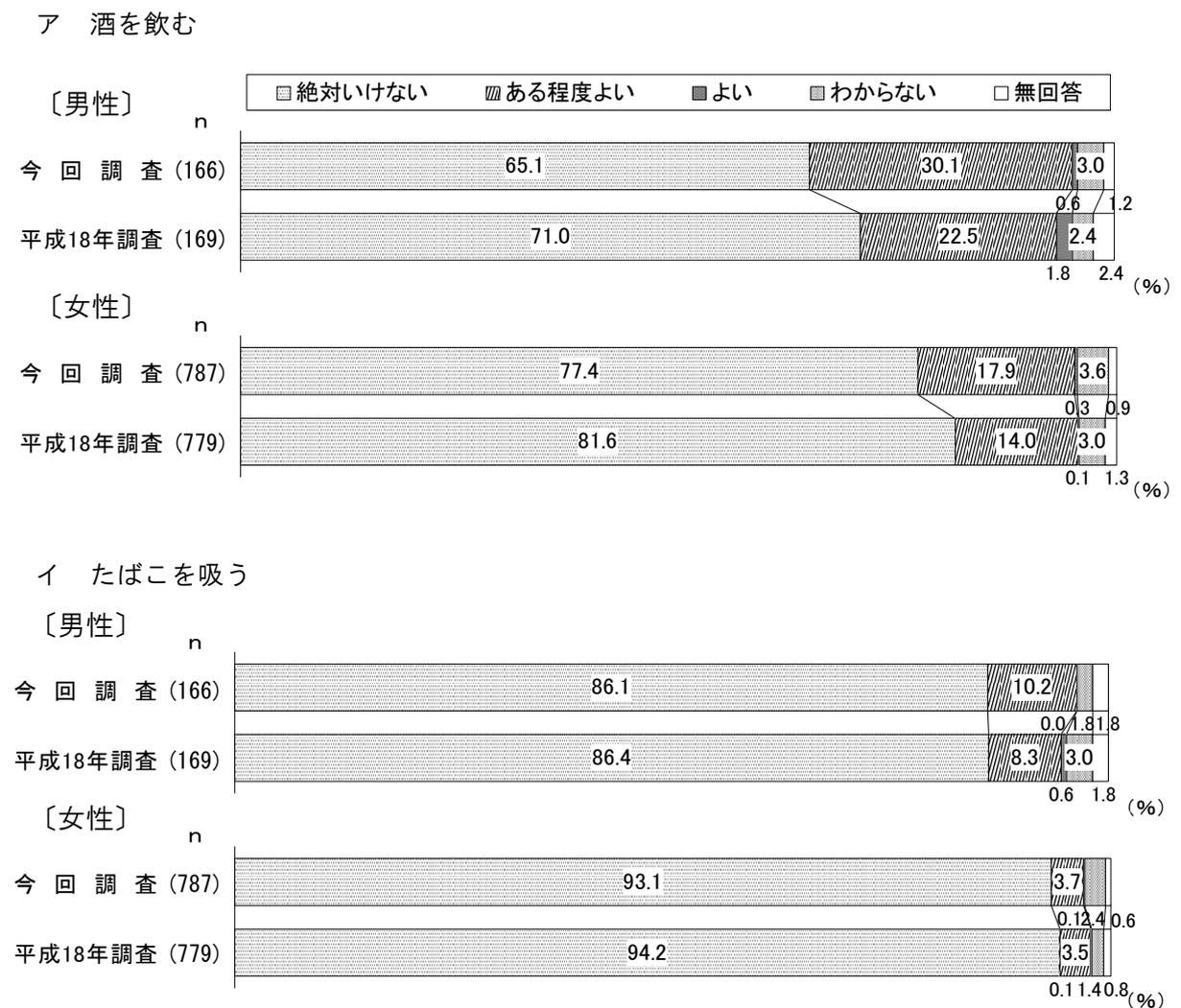
性別にみると、＜ア 酒を飲む＞（男性30.7%・女性18.2%）、＜ク わいせつなビデオを見る。アダルトサイトにアクセスする＞（男性24.7%・女性10.8%）、＜イ たばこを吸う＞（男性10.2%・女性3.8%）の3項目は、女性より男性の方が許容する人の割合が高くなっている。＜サ 夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける＞（男性41.0%・女性42.2%）は男女とも許容する人の割合が4割を超えている。

（図表3-4-2、図表3-4-3、図表3-4-4、図表3-4-5）

平成18年調査と比較すると、＜ア 酒を飲む＞は男女とも許容する人の割合が増加傾向にあるが、それ以外の10項目では大きな傾向の変化はみられない。

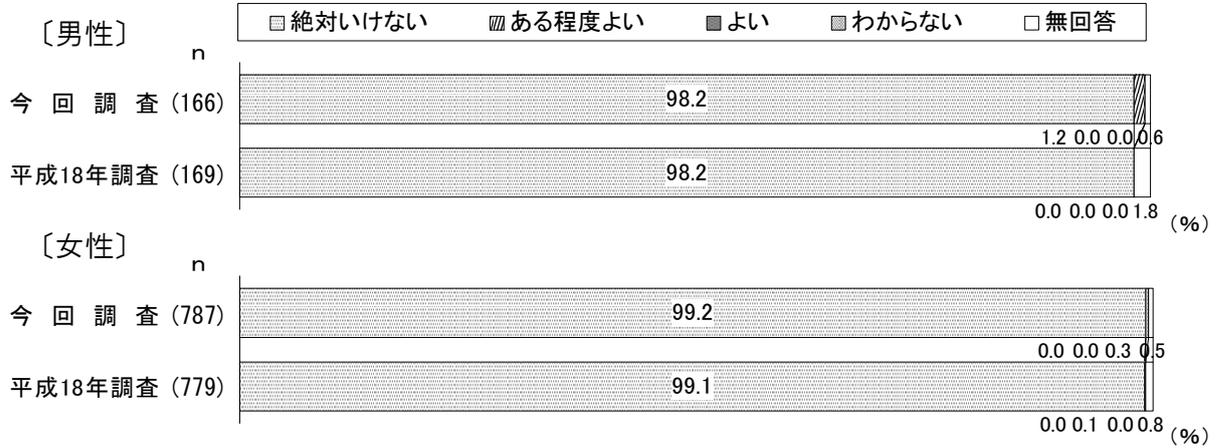
（図表3-4-2、図表3-4-3、図表3-4-4、図表3-4-5）

図表3-4-2 未成年者の非行に関する意識（性別経年比較）

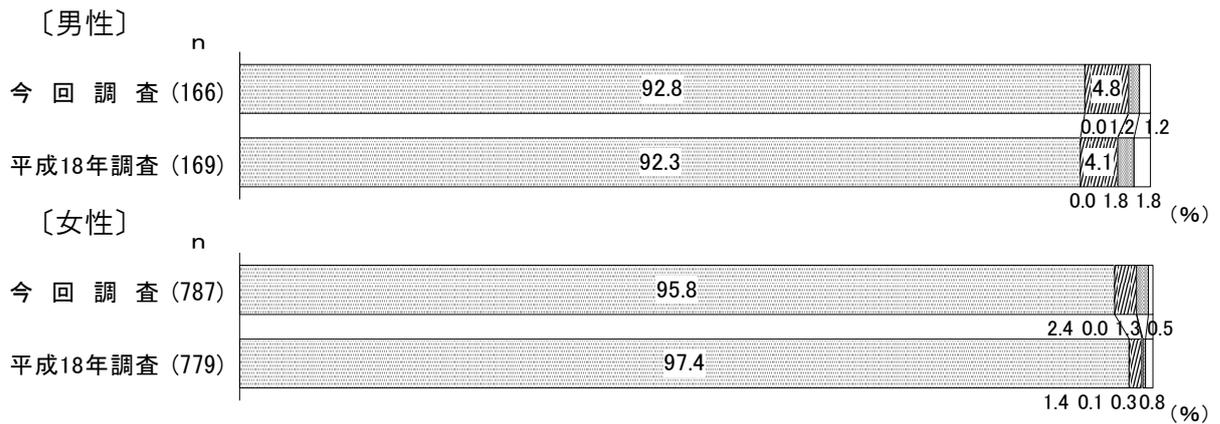


図表3-4-3 未成年者の非行に関する意識（性別経年比較）（つづき）

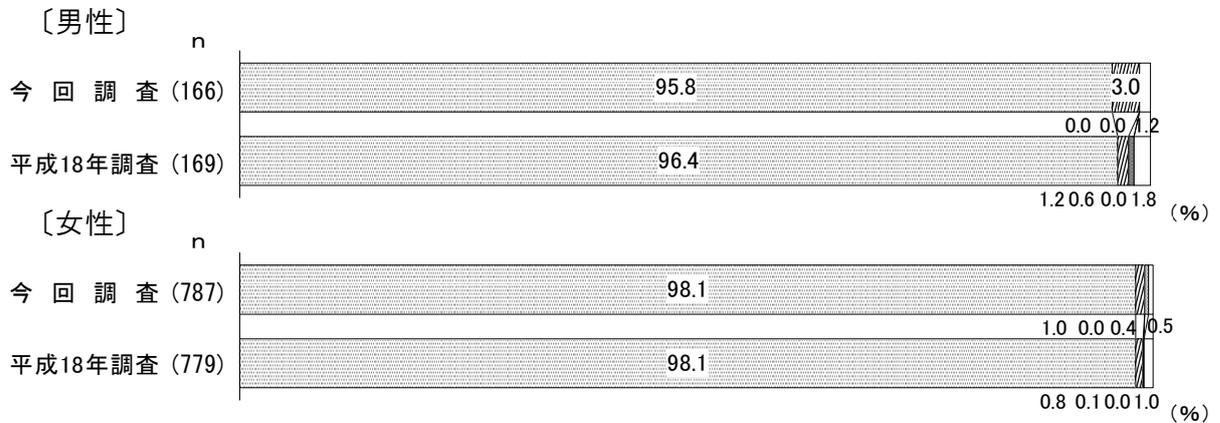
ウ シンナーやドラッグを使う



エ 人に暴力をふるう

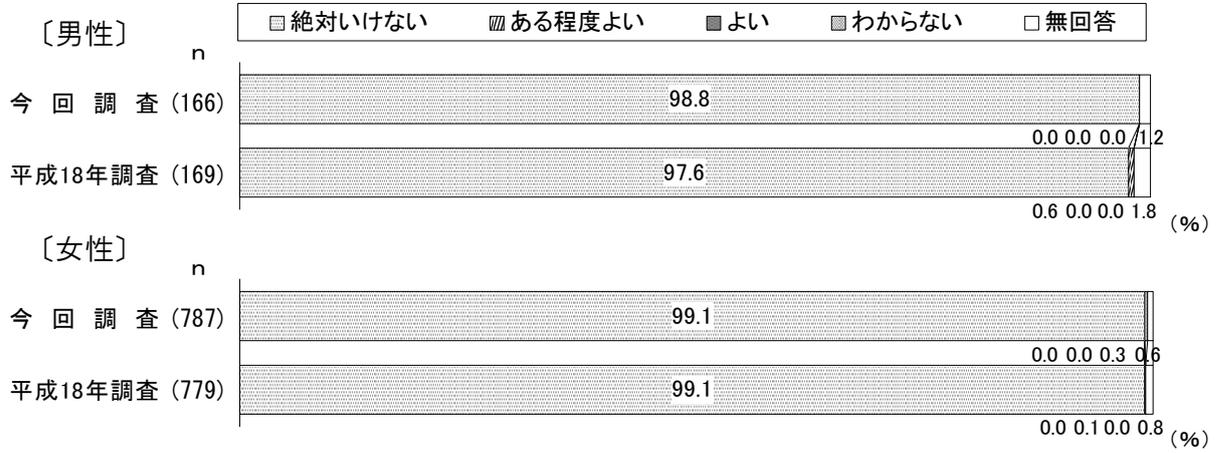


オ 保護者のお金を黙って使う

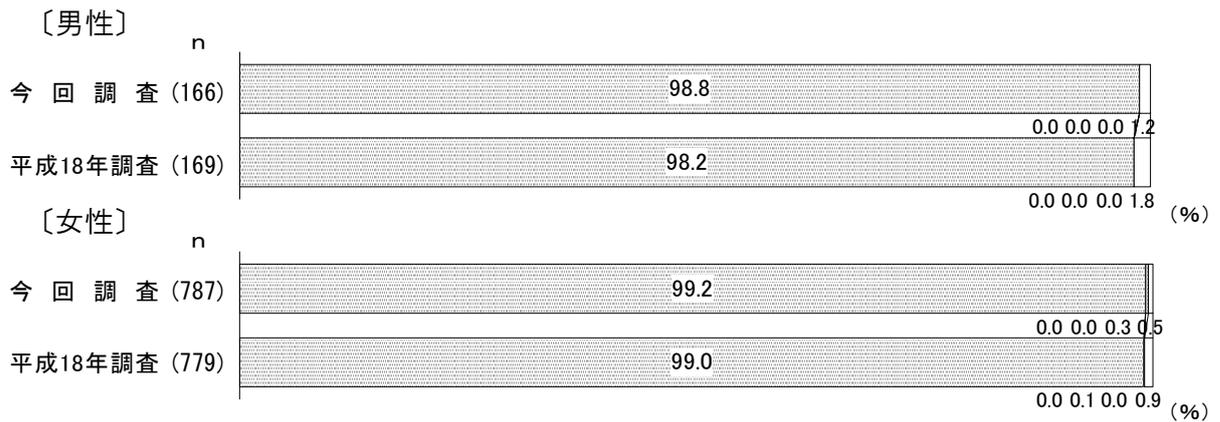


図表3-4-4 未成年者の非行に関する意識（性別経年比較）（つづき）

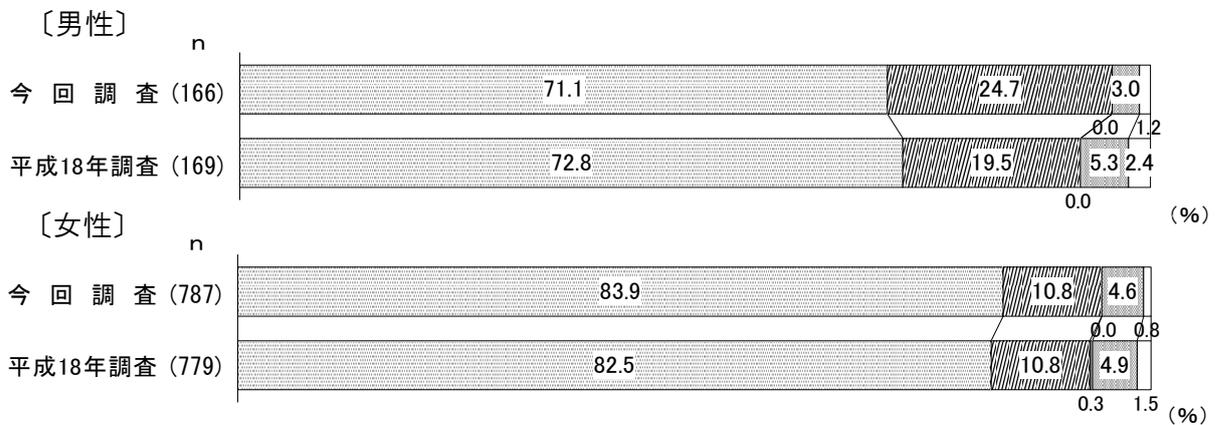
カ 他人の自転車を盗む



キ 万引きをする

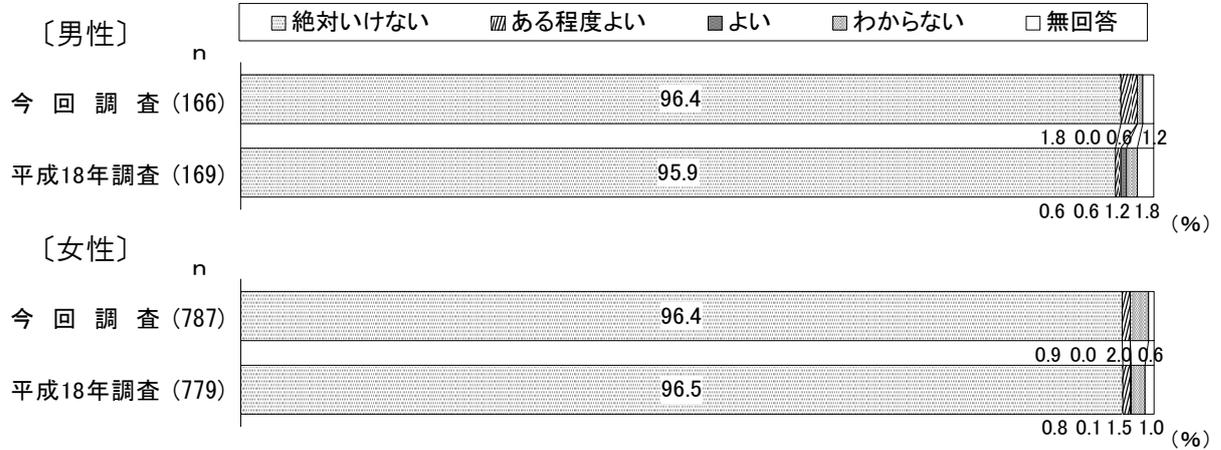


ク わいせつなビデオを見る。アダルトサイトにアクセスする

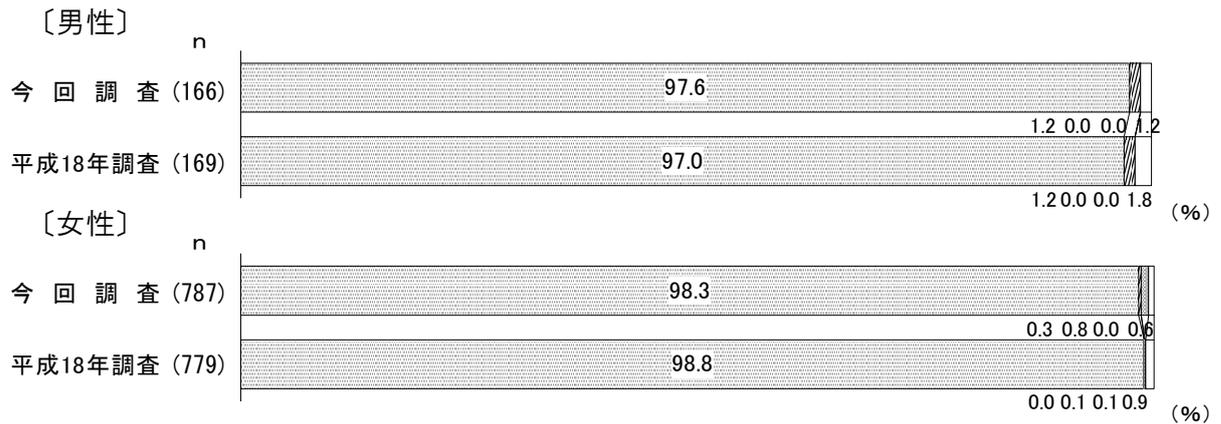


図表3-4-5 未成年者の非行に関する意識（性別経年比較）（つづき）

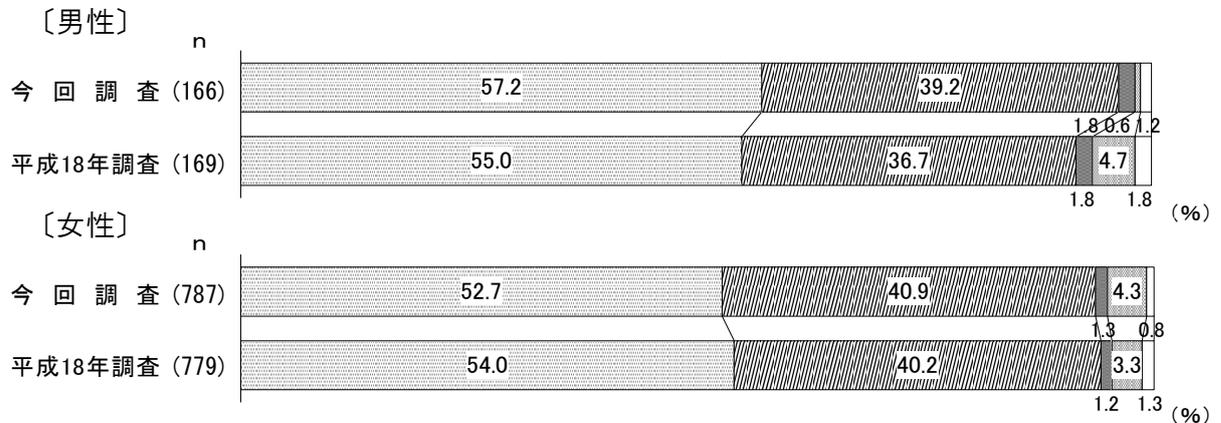
ケ 出会い系サイトを利用する



コ 援助交際をする



サ 夜遊び（カラオケ・ライブなど）に出かける



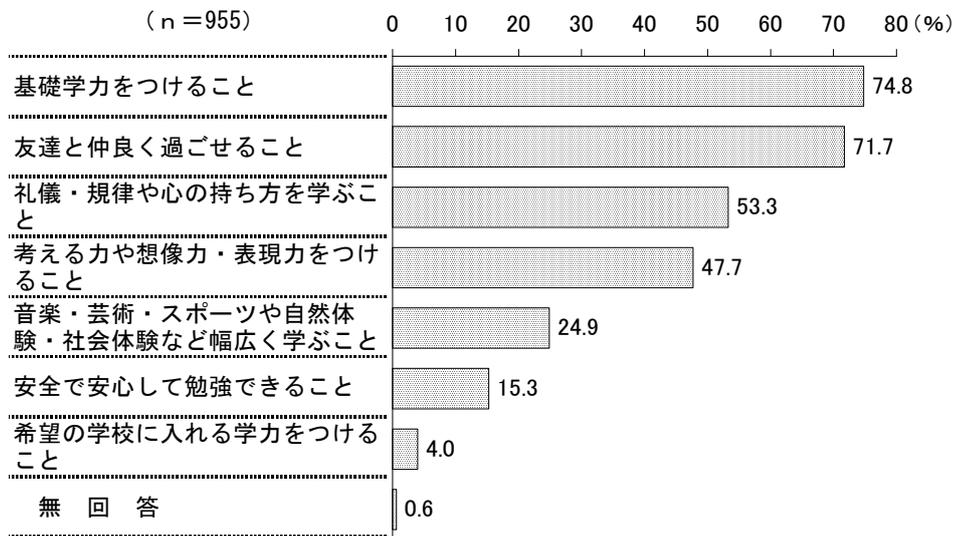
(5) 小・中学校の学校教育で重要なこと

◇「基礎学力をつけること」が74.8%、「友達と仲良く過ごせること」が71.7%

問32 あなたは、小・中学校の教育では何が重要だと思いますか。次の中から特に重要と思うものを3つまで選んで○をつけてください。

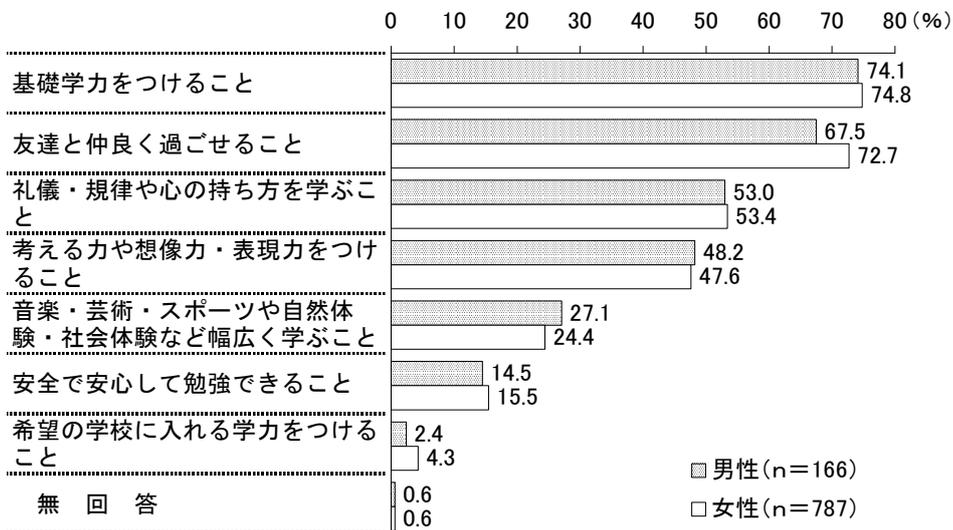
小・中学校の教育では何が重要だと思うか聞いたところ、「基礎学力をつけること」(74.8%)と「友達と仲良く過ごせること」(71.7%)の2項目が7割を超えて最も多く、次いで「礼儀・規律や心の持ち方を学ぶこと」(53.3%)、「考える力や想像力・表現力をつけること」(47.7%)などの順となっている。(図表3-5-1)

図表3-5-1



性別にみると、「友達と仲良く過ごせること」は女性(72.7%)の方が男性(67.5%)より5.2ポイント高くなっているほかは、大きな傾向の違いはみられない。(図表3-5-2)

図表3-5-2 小・中学校の学校教育で重要なこと (性別)



(6) 子育てや教育の現状に対する問題意識

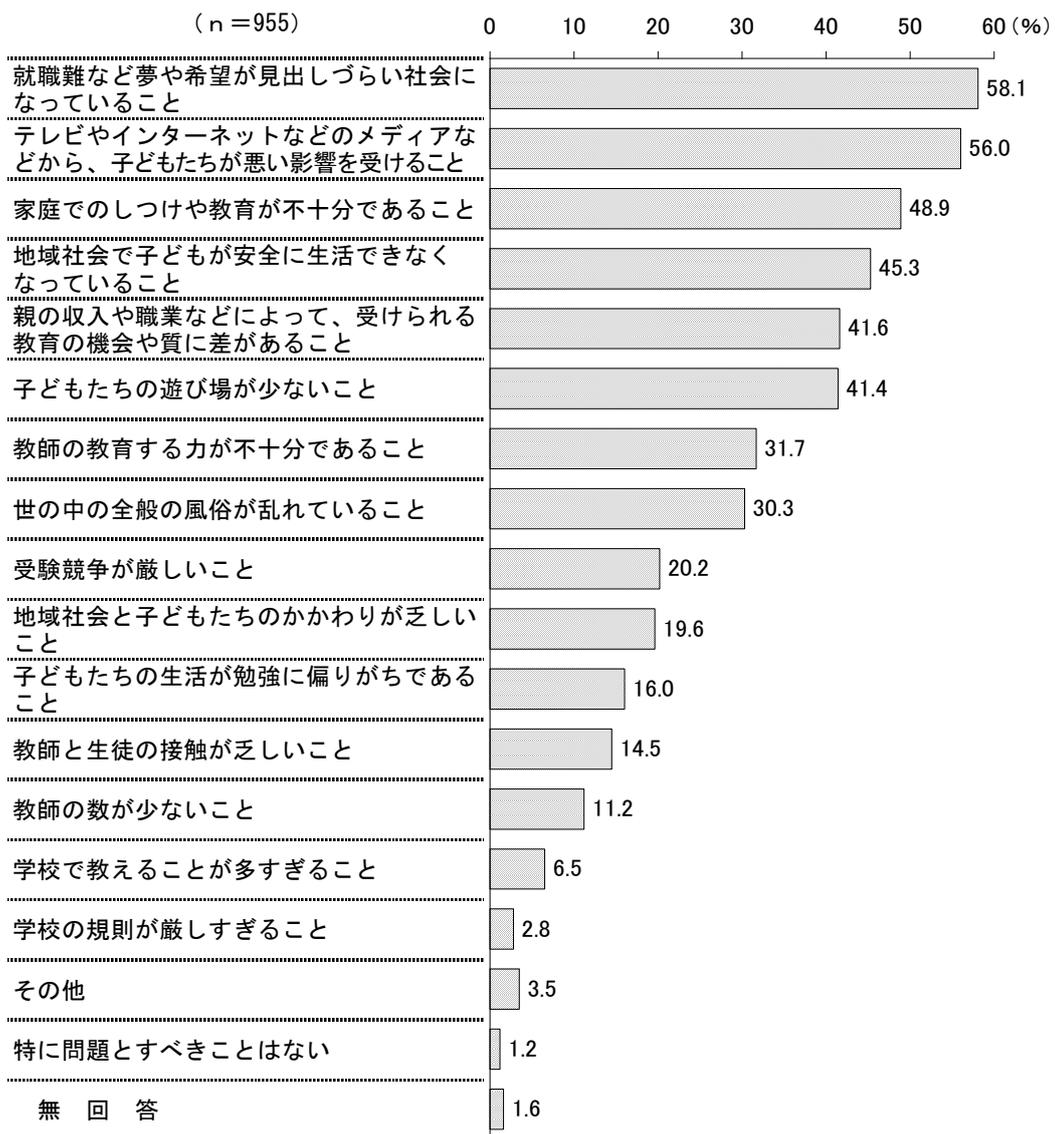
◇「就職難など夢や希望が見出しづらい社会になっていること」が58.1%

問33 子育てや教育の現状について考えたとき、あなたはどのようなことが問題だと思えますか。次の中から、問題だと思うものすべてに○をつけてください。

子育てや教育の現状について考えたとき、どのようなことが問題だと思うか聞いたところ、「就職難など夢や希望が見出しづらい社会になっていること」が58.1%で最も多く、次いで「テレビやインターネットなどのメディアなどから、子どもたちが悪い影響を受けること」(56.0%)、「家庭でのしつけや教育が不十分であること」(48.9%)、「地域社会で子どもが安全に生活できなくなっていること」(45.3%)、「親の収入や職業などによって、受けられる教育の機会や質に差があること」(41.6%)、「子どもたちの遊び場が少ないこと」(41.4%)などの順となっている。

(図表3-6-1)

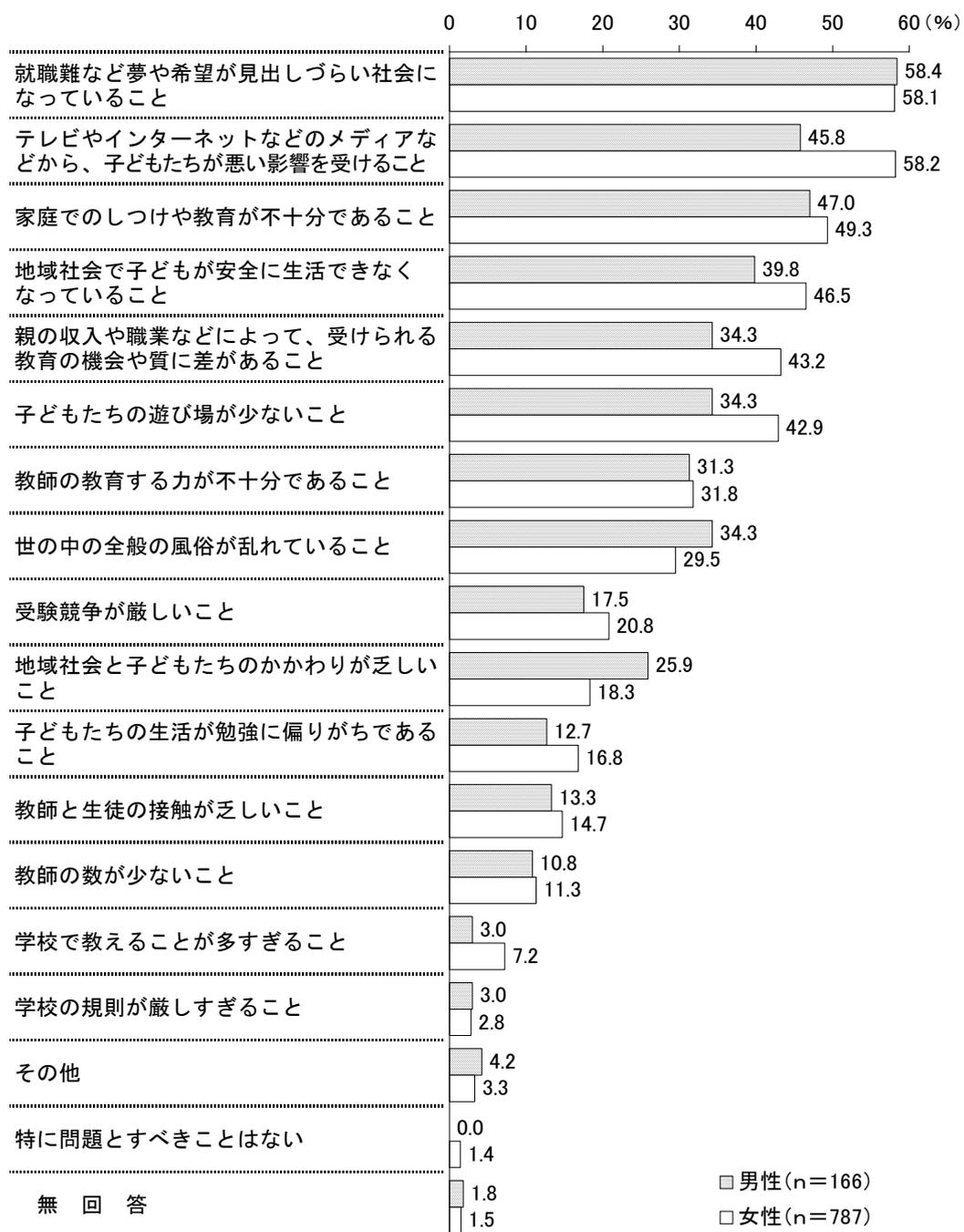
図表3-6-1



性別にみると、「地域社会と子どもたちのかかわりが乏しいこと」は男性（25.9%）の方が女性（18.3%）より7.6ポイント高く、「世の中の全般の風俗が乱れていること」は男性（34.3%）の方が女性（29.5%）より4.8ポイント高くなっている。一方、「テレビやインターネットなどのメディアなどから、子どもたちが悪い影響を受けること」は女性（58.2%）の方が男性（45.8%）より12.4ポイント高く、「親の収入や職業などによって、受けられる教育の機会や質に差があること」は女性（43.2%）の方が男性（34.3%）より8.9ポイント高くなっている。また、「子どもたちの遊び場が少ないこと」は女性の方が男性より8.6ポイント高く、「地域社会で子どもが安全に生活できなくなっていること」も女性の方が男性より6.7ポイント高くなっている。

（図表3-6-2）

図表3-6-2 子育てや教育の現状に対する問題意識（性別）



(7) 子どものころの家庭生活

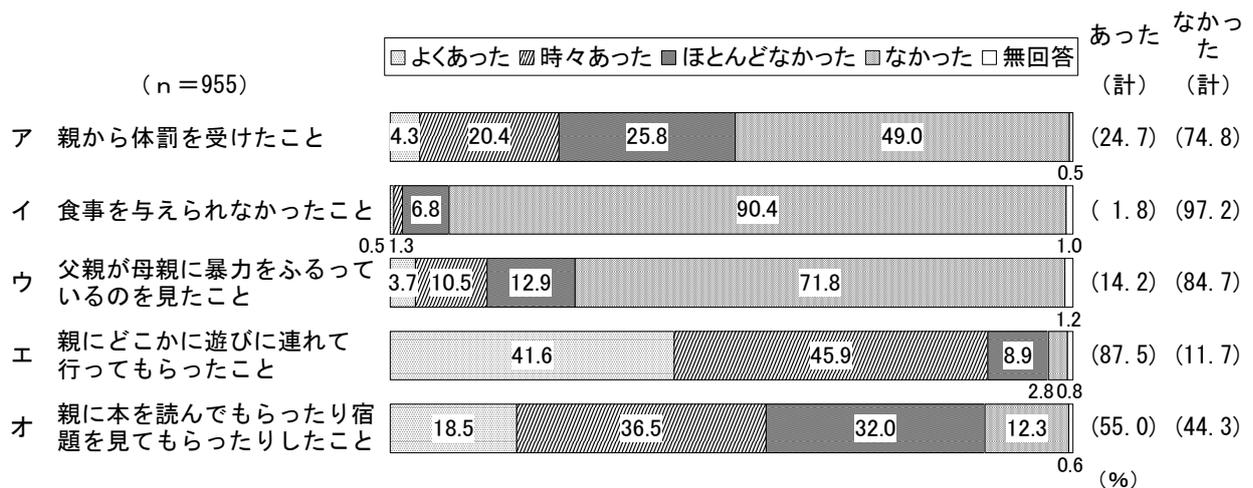
◇『あった(計)』は、<親にどこかに遊びに連れて行ってもらったこと>で87.5%

問34 あなたには、子どもの頃、次のことがありましたか。アからオのそれぞれについて、1つ選んで○をつけてください。(類似質問：満15歳～30歳119ページ参照)

子どものころの家庭生活について、5項目に分けて聞いたところ、「よくあった」と「時々あった」の2つを合わせた『あった(計)』が多いのは、<エ 親にどこかに遊びに連れて行ってもらったこと> (87.5%)、<オ 親に本を読んでもらったり宿題を見てもらったりしたこと> (55.0%) などである。

「なかった」と「ほとんどなかった」の2つを合わせた『なかった(計)』が多いのは、<イ 食事を与えられなかったこと> (97.2%)、<ウ 父親が母親に暴力をふるっているのを見たこと> (84.7%)、<ア 親から体罰を受けたこと> (74.8%) などである。(図表3-7-1)

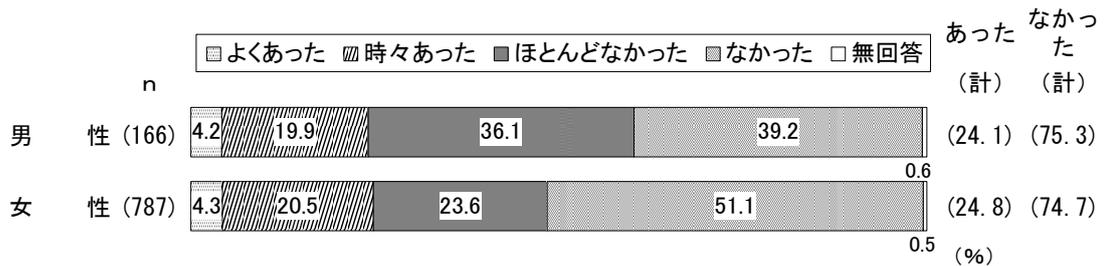
図表3-7-1



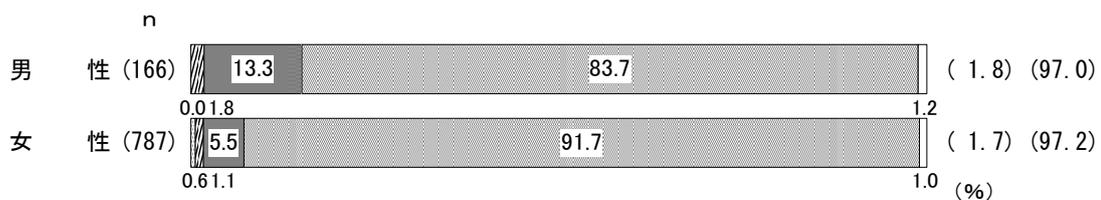
性別にみると、<エ 親にどこかに遊びに連れて行ってもらったこと>と<オ 親に本を読んでもらったり宿題を見てもらったりしたこと>は、女性の方が『あった(計)』の割合が特に高くなっている。<ア 親から体罰を受けたこと>、<イ 食事を与えられなかったこと>、<ウ 父親が母親に暴力をふるっているのを見たこと>の3項目については、『あった(計)』と『なかった(計)』の割合は、男女ともほとんど差がみられない。(図表3-7-2)

図表3-7-2 子どものころの家庭生活(性別)

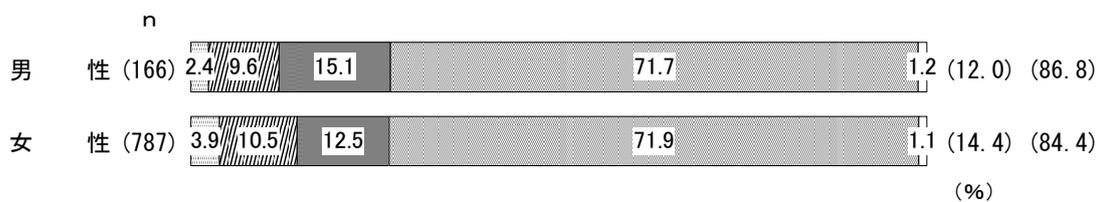
ア 親から体罰を受けたこと



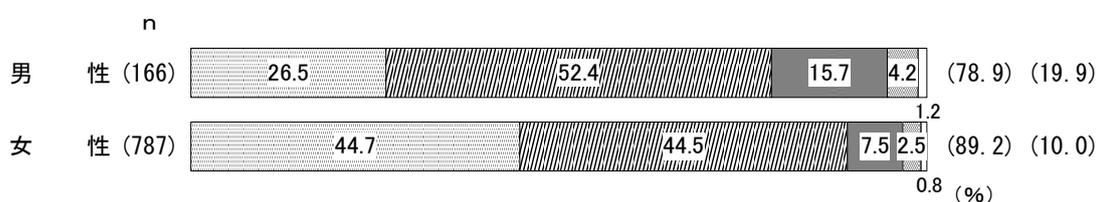
イ 食事を与えられなかったこと



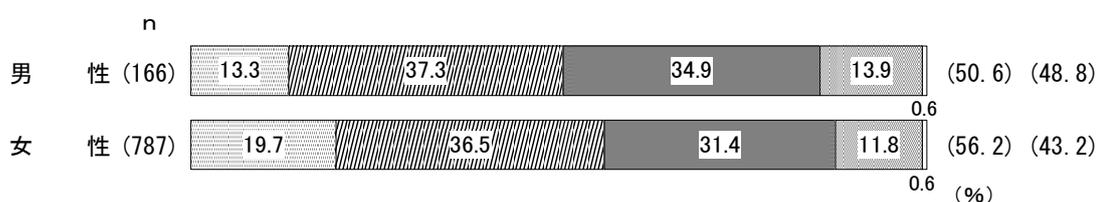
ウ 父親が母親に暴力をふるっているのを見たこと



エ 親にどこかに遊びに連れて行ってもらったこと



オ 親に本を読んでもらったり宿題を見てもらったりしたこと



(8) 価値観

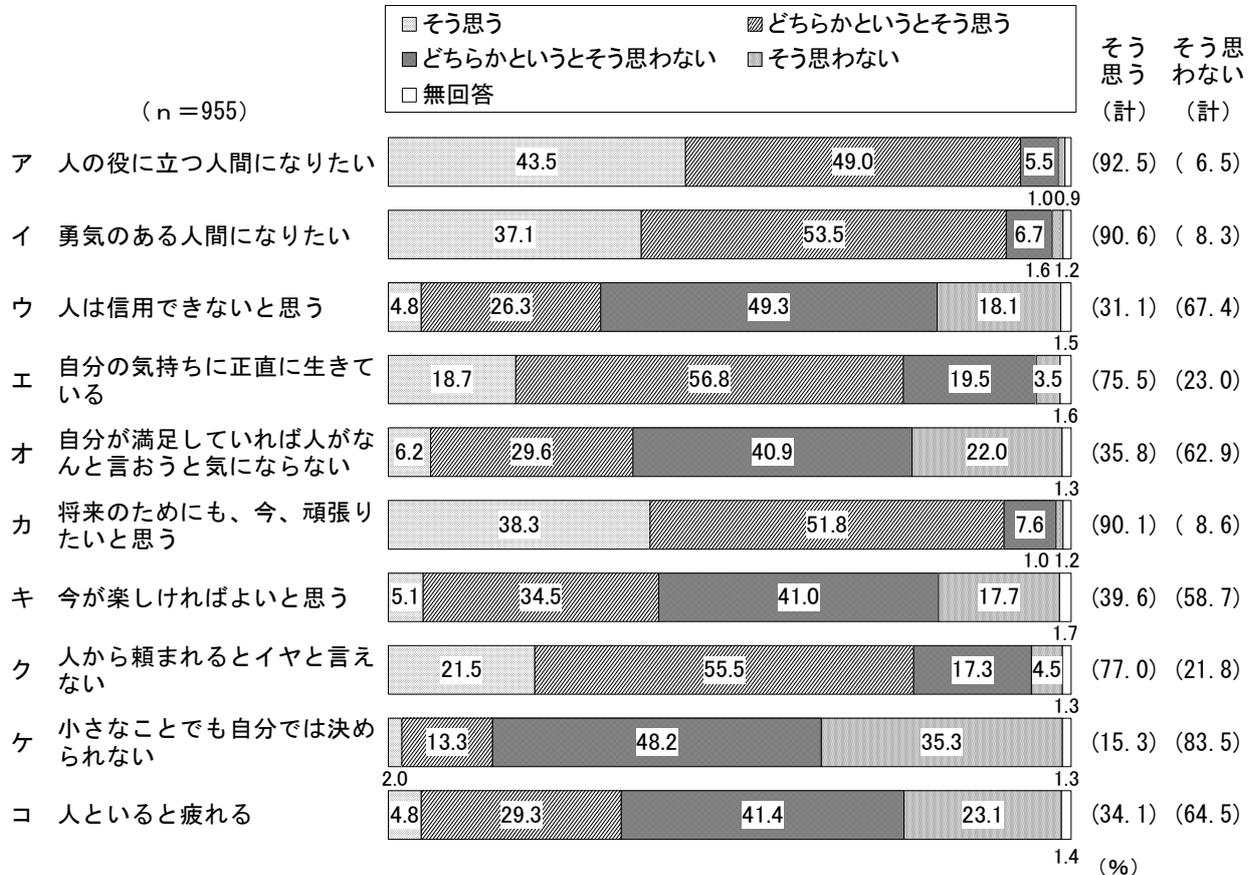
◇『そう思う (計)』は、<人の役に立つ人間になりたい>で92.5%

問35 あなたは、ここにあげてあることについて、どう思いますか。アからコのそれぞれについて、お子さんのことではなくあなた自身のことので1つ選んで○をつけてください。  
(類似質問：満10歳～14歳49ページ、満15歳～30歳138ページ参照)

価値観について、10項目に分けてどう思うか聞いたところ、「そう思う」と「どちらかというそう思う」の2つを合わせた『そう思う (計)』の割合は、<ア 人の役に立つ人間になりたい> (92.5%)、<イ 勇気のある人間になりたい> (90.6%)、<カ 将来のためにも、今、頑張りたいと思う> (90.1%) の3項目で9割を超えて多く、<ク 人から頼まれるとイヤと言えない> (77.0%) と<エ 自分の気持ちに正直に生きている> (75.5%) でも7割を超えている。

「どちらかというそう思わない」と「そう思わない」の2つを合わせた『そう思わない (計)』は、<ケ 小さなことでも自分では決められない> (83.5%) で8割を超えて多くなっているほか、<ウ 人は信用できないと思う> (67.4%)、<コ 人といると疲れる> (64.5%)、<オ 自分が満足していれば人がなんとおもうと気にならない> (62.9%)、<キ 今が楽しければよいと思う> (58.7%) の4項目でも、『そう思う (計)』の割合を上回っている。(図表3-8-1)

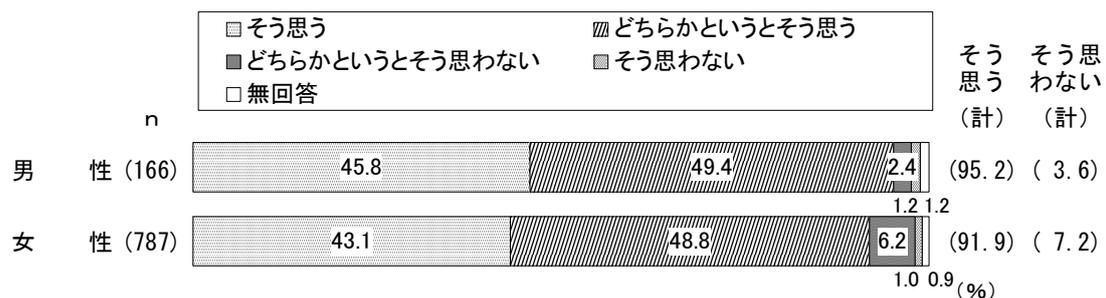
図表3-8-1



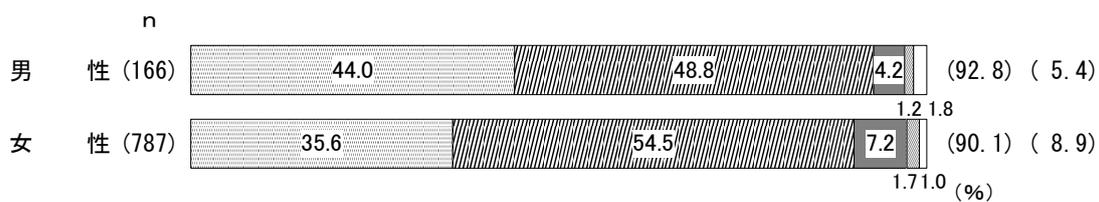
性別にみると、『そう思う（計）』の割合は、＜エ 自分の気持ちに正直に生きている＞は男性（81.9%）の方が女性（74.2%）より7.7ポイント高くなっている。一方、＜キ 今が楽しければよいと思う＞や＜ク 人から頼まれるとイヤと言えない＞、＜ケ 小さなことでも自分では決められない＞、＜コ 人といると疲れる＞などでは、男性より女性の方が『そう思う（計）』の割合が高くなっている。（図表3-8-2、図表3-8-3）

図表3-8-2 価値観（性別）

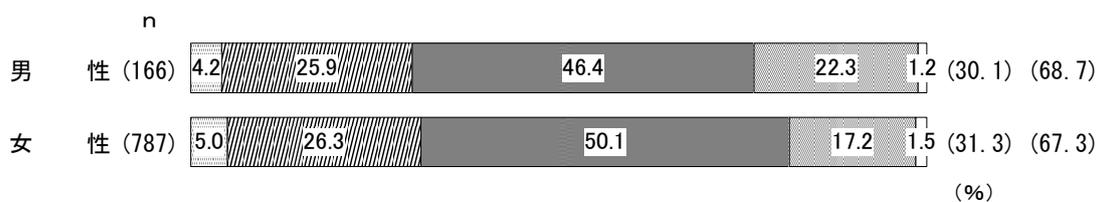
ア 人の役に立つ人間になりたい



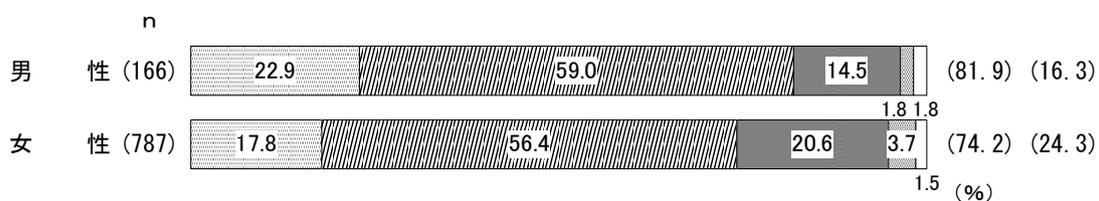
イ 勇気のある人間になりたい



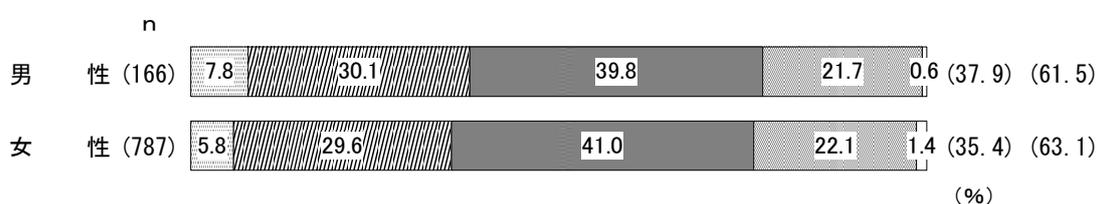
ウ 人は信用できないと思う



エ 自分の気持ちに正直に生きている

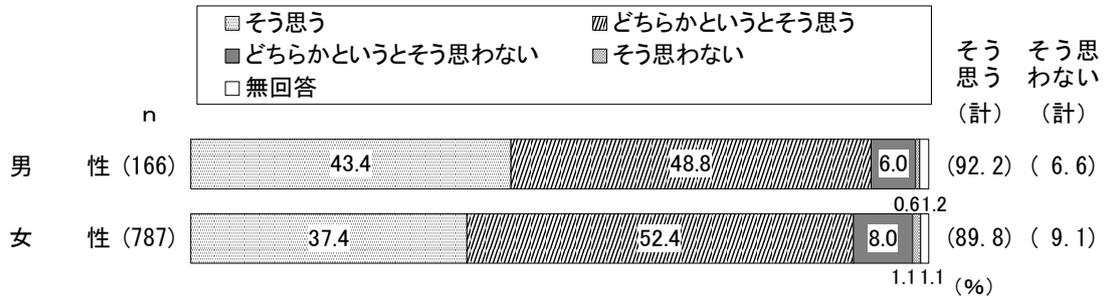


オ 自分が満足していれば人がなんと云おうと気にならない

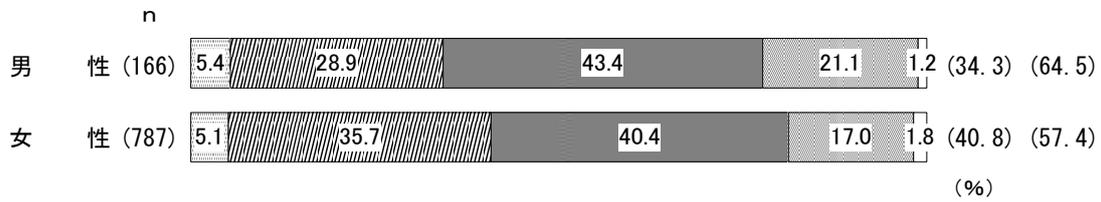


図表3-8-3 価値観（性別）（つづき）

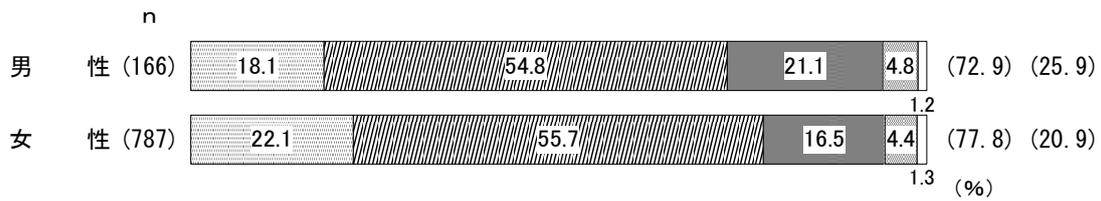
カ 将来のためにも、今、頑張りたいと思う



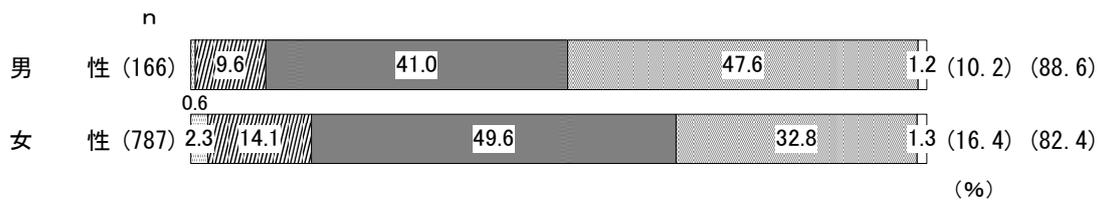
キ 今が楽しければよいと思う



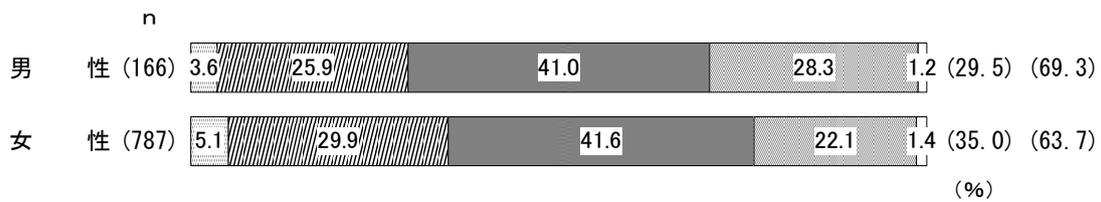
ク 人から頼まれるとイヤと言えない



ケ 小さなことでも自分では決められない



コ 人といると疲れる



#### 4 学校や地域との関わりについて

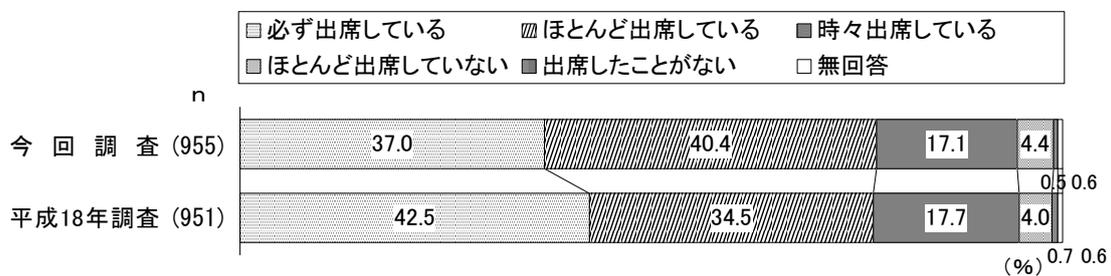
##### (1) 学校行事への出席状況

◇「必ず出席している」が37.0%、「ほとんど出席している」が40.4%

問36 あなたは、お子さんが通っている学校の授業参観、運動会などの行事に、どのくらい出席していますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

子どもの授業参観や運動会などの行事にどのくらい参加しているか聞いたところ、「必ず出席している」が37.0%、「ほとんど出席している」が40.4%、「時々出席している」が17.1%などとなっている。(図表4-1-1)

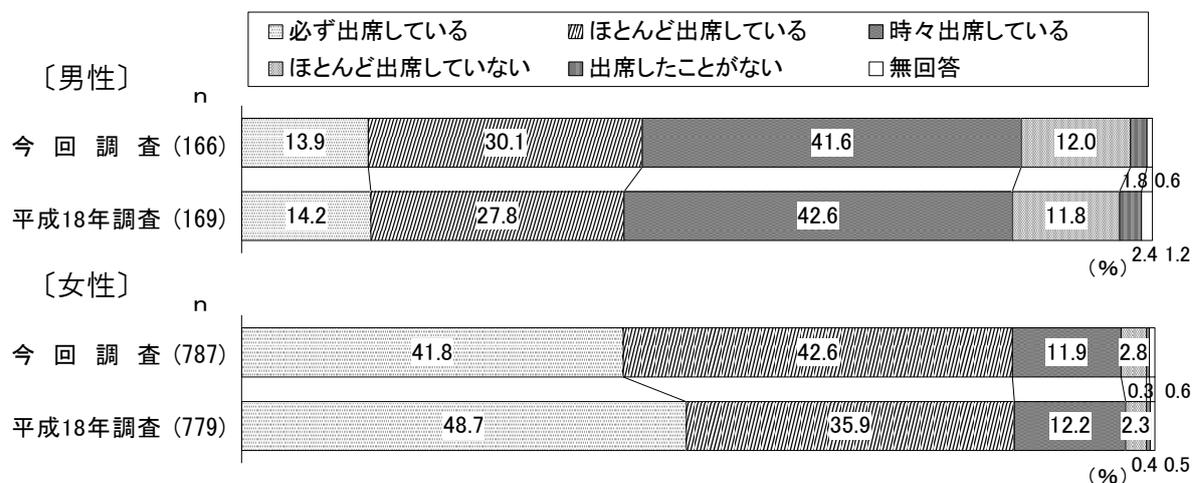
図表4-1-1



平成18年調査と比較すると、男性では大きな傾向の違いはみられない。女性では、「必ず出席している」は6.9ポイント減少し、「ほとんど出席している」は6.7ポイント増加している。

(図表4-1-2)

図表4-1-2 学校行事への出席状況 (性別経年比較)



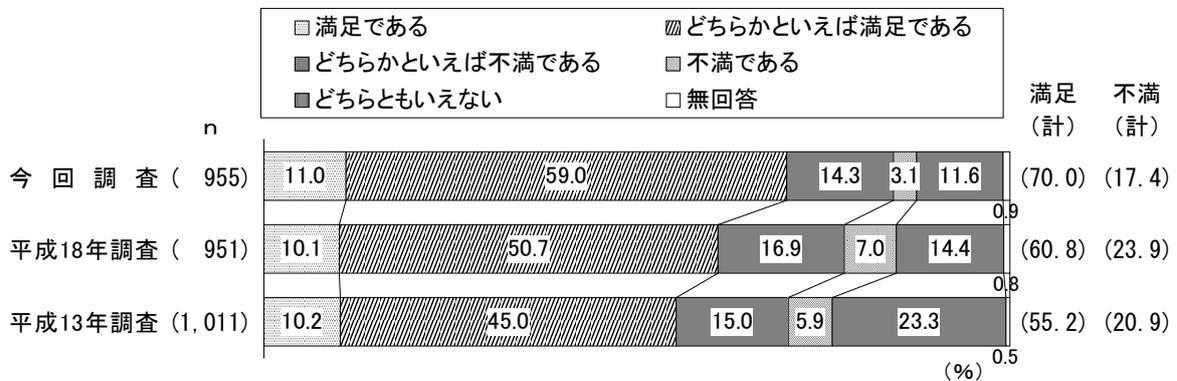
(2) 子どもが通っている学校の教育の満足度

◇『満足(計)』が70.0%、『不満(計)』は17.4%

問37 あなたは、現在お子さんが通っている学校での教育に、親としてどのくらい満足していますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

子どもが通っている学校の教育への満足度を聞いたところ、「満足である」と「どちらかといえれば満足である」の2つを合わせた『満足(計)』が70.0%と多くなっている。「どちらともいえない」は11.6%で、「どちらかといえれば不満である」(14.3%)と「不満である」(3.1%)の2つを合わせた『不満(計)』は17.4%である。(図表4-2-1)

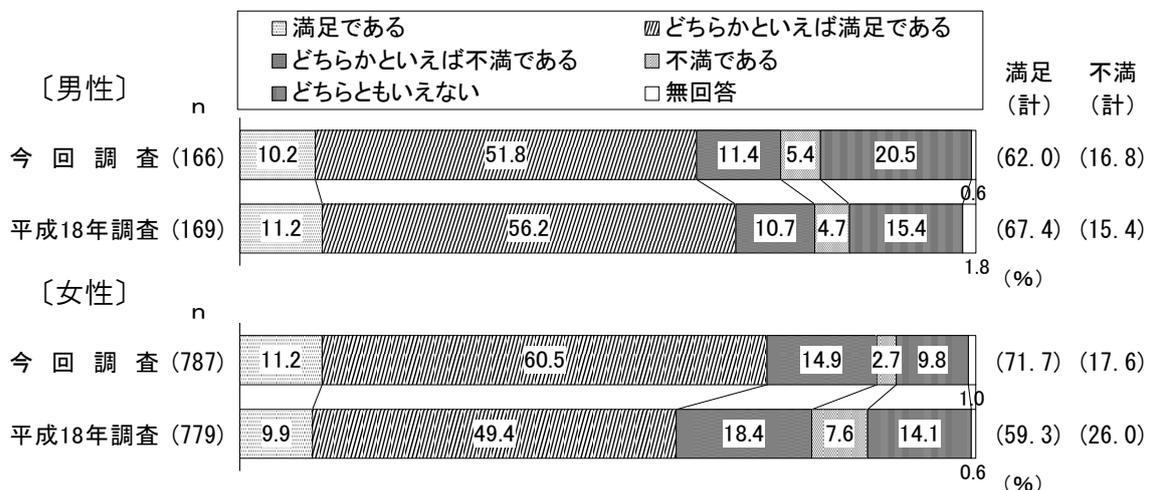
図表4-2-1



性別にみると、『満足(計)』は女性(71.7%)の方が男性(62.0%)より9.7ポイント高くなっている。(図表4-2-2)

平成18年調査と比較すると、男性では『満足(計)』が5.4ポイント減少し、「どちらとも言えない」が5.1ポイント増加している。女性では『満足(計)』が12.4ポイント増加し、『不満(計)』は8.4ポイント減少している。(図表4-2-2)

図表4-2-2 子どもが通っている学校の教育の満足度(性別経年比較)



(3) 地域のことで感じられること

◇『そう思う（計）』は、＜地域でのつきあいは必要である＞で89.7%

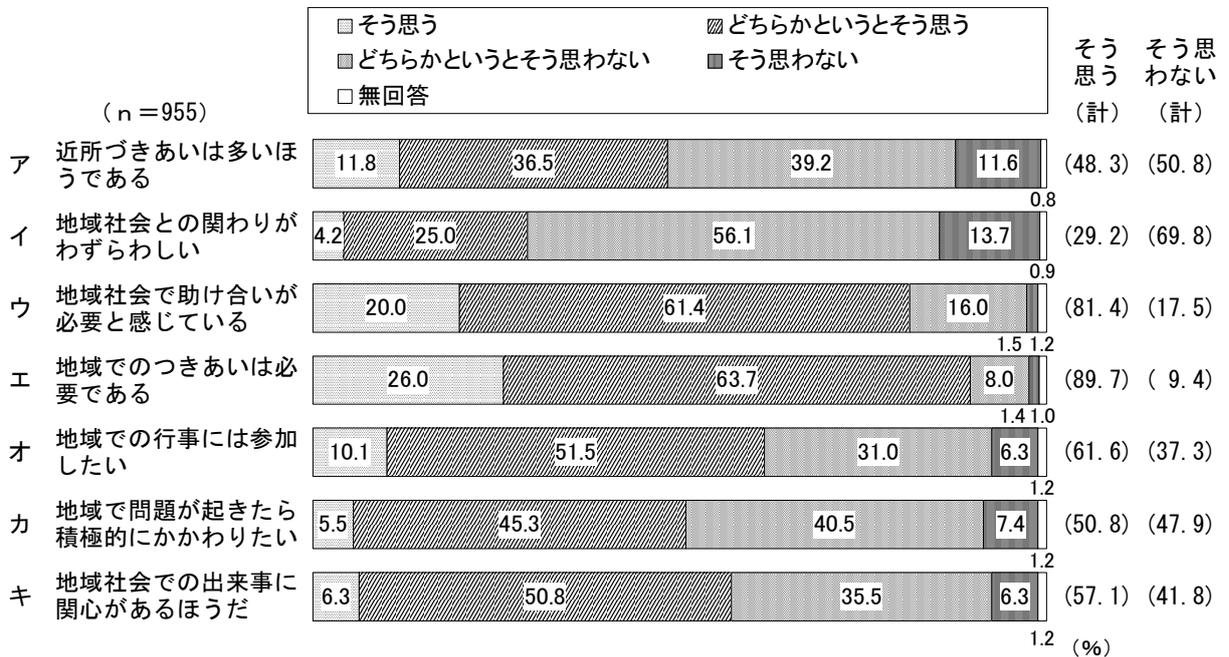
問38 あなたは、現在住んでいる地域のことで、次のように感じるがありますか。次のそれぞれについて、1つ選んで○をしてください。

現在住んでいる地域のことで、7項目に分けて聞いた。

「そう思う」と「どちらかというと思う」の2つを合わせた『そう思う（計）』の割合は、＜エ 地域でのつきあいは必要である＞（89.7%）と＜ウ 地域社会で助け合いが必要と感じている＞（81.4%）で8割を超えて多く、＜オ 地域での行事には参加したい＞（61.6%）と＜キ 地域社会での出来事に関心があるほうだ＞（57.1%）では6割前後となっている。

＜イ 地域社会との関わりがわずらわしい＞では、「どちらかというと思わない」（56.1%）と「そう思わない」（13.7%）の2つを合わせた『そう思わない（計）』（69.8%）の割合が多く、＜ア 近所づきあいは多いほうである＞と＜カ 地域で問題が起きたら積極的にかかわりたい＞では、『そう思う（計）』と『そう思わない（計）』の割合はほぼ拮抗している。（図表4-3-1）

図表4-3-1

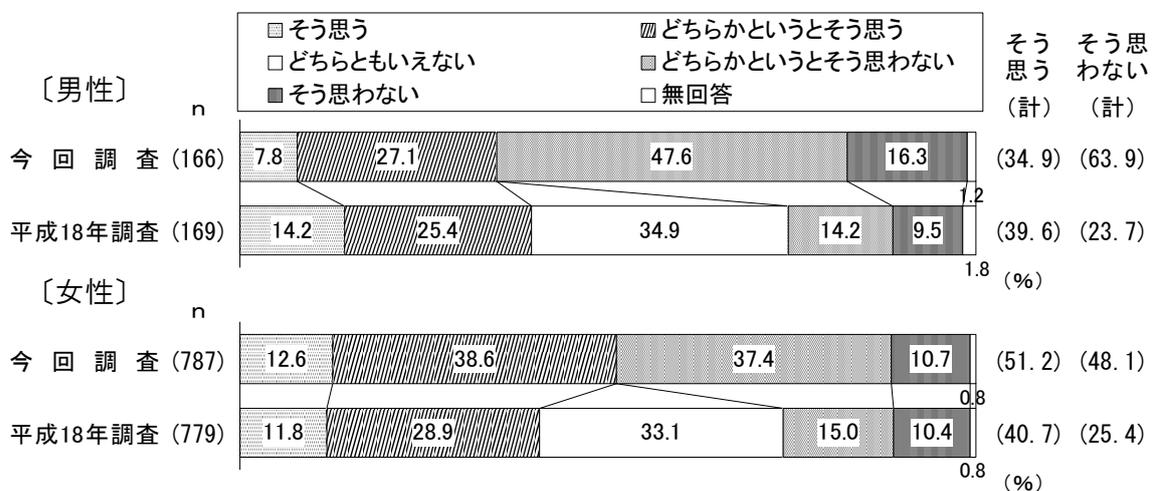


性別にみると、『そう思う（計）』の割合は、＜カ 地域で問題が起きたら積極的にかかわりたい＞と＜キ 地域社会での出来事に関心があるほうだ＞の2項目では男性の方が特に割合が高く、＜ア 近所づきあいは多いほうである＞と＜イ 地域社会との関わりがわずらわしい＞の2項目では女性の方が特に割合が高くなっている。（図表4-3-2、図表4-3-3、図表4-3-4）

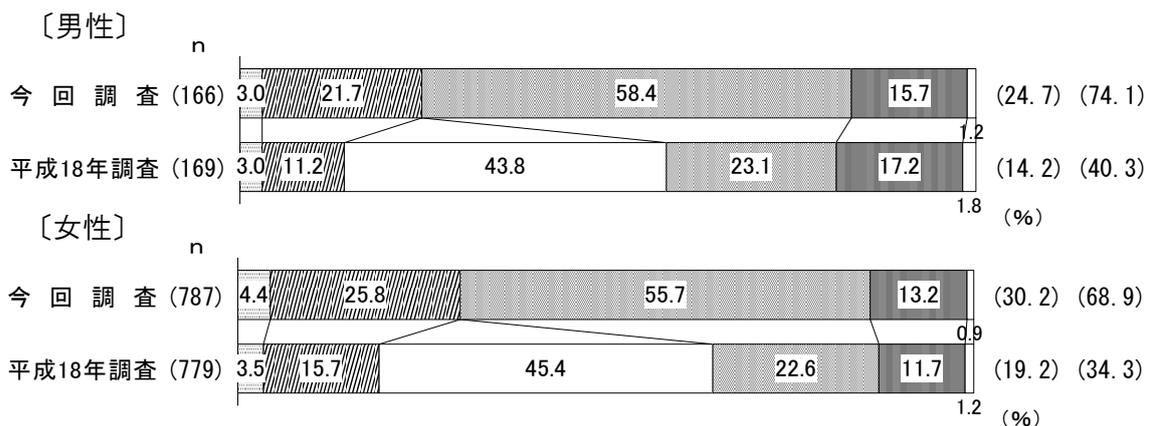
平成18年調査との比較は、今回調査では「どちらともいえない」の選択肢を省いているため、参考に掲載する。（図表4-3-2、図表4-3-3、図表4-3-4）

図表4-3-2 地域のことで感じられること（性別経年比較）

ア 近所づきあいは多いほうである



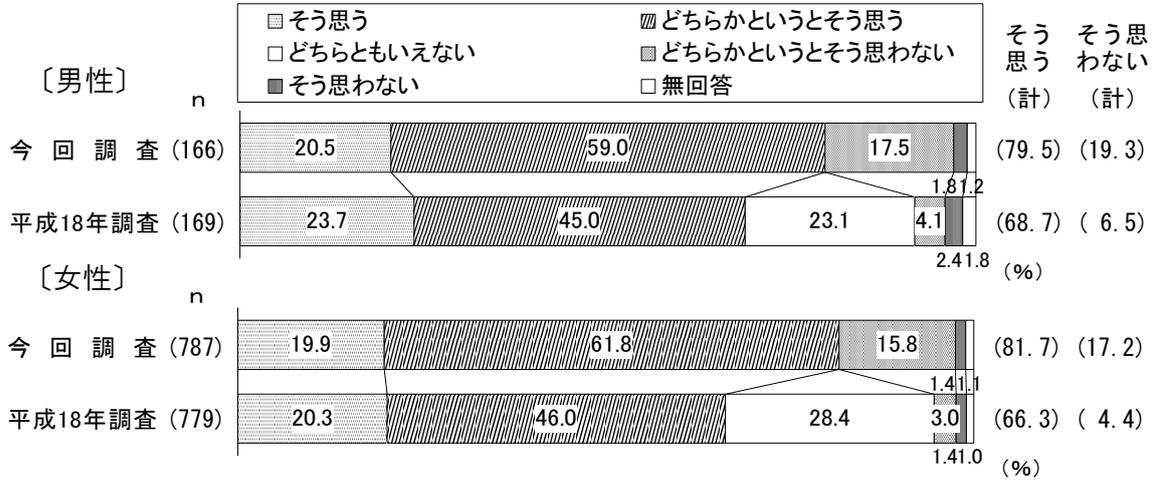
イ 地域社会との関わりがわずらわしい



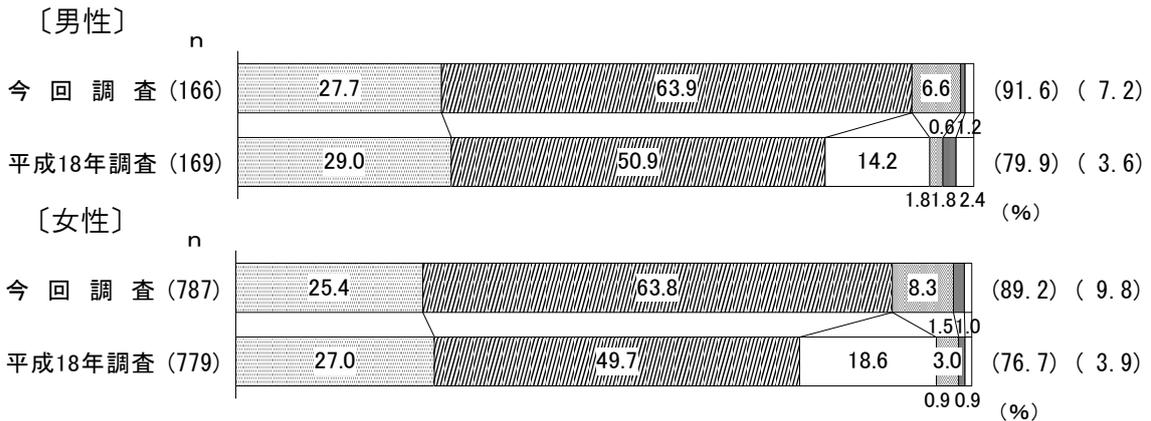
(注)「どちらともいえない」の選択肢は今回調査では省いているため、過去の調査との比較は参考にとどまる。

図表4-3-3 地域のことで感じられること（性別経年比較）

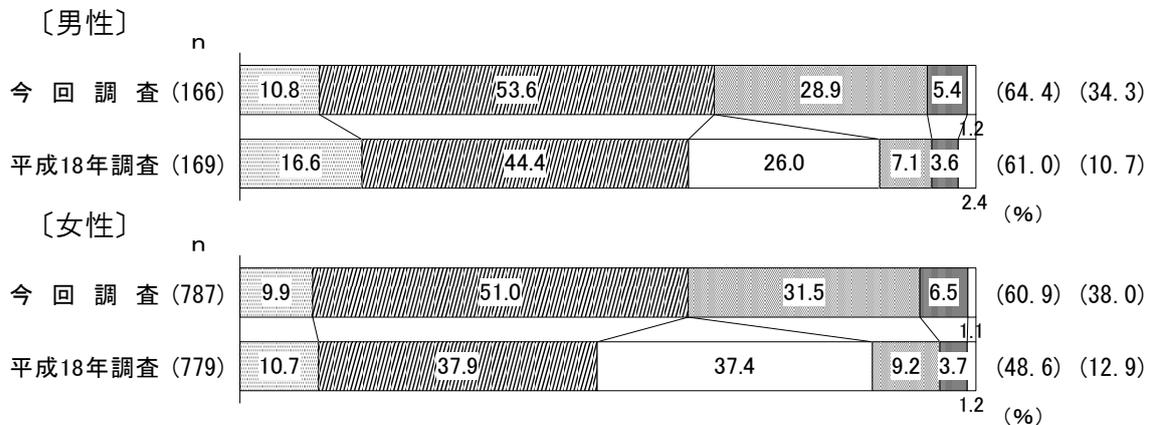
ウ 地域社会で助け合いが必要と感じている



エ 地域でのつきあいは必要である



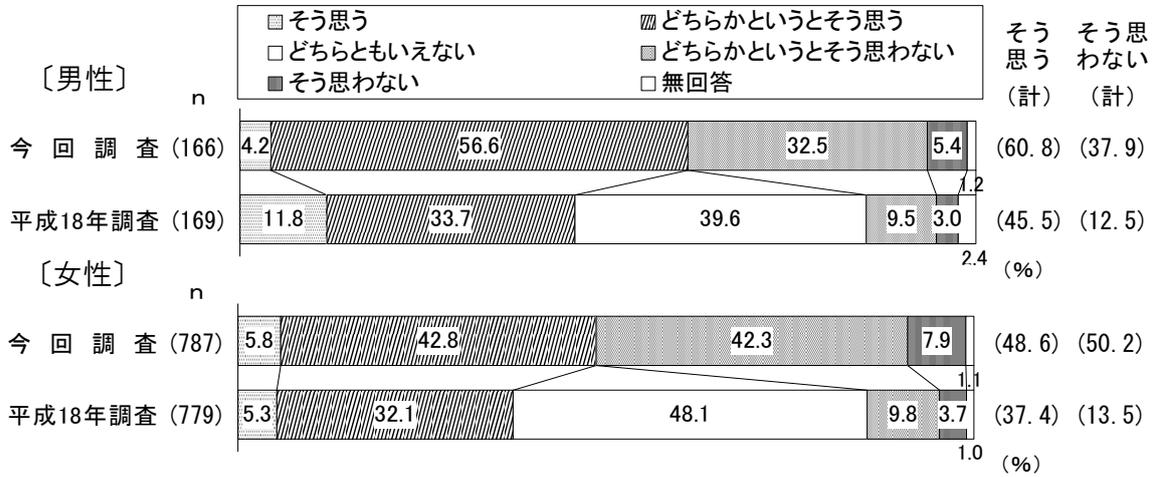
オ 地域での行事には参加したい



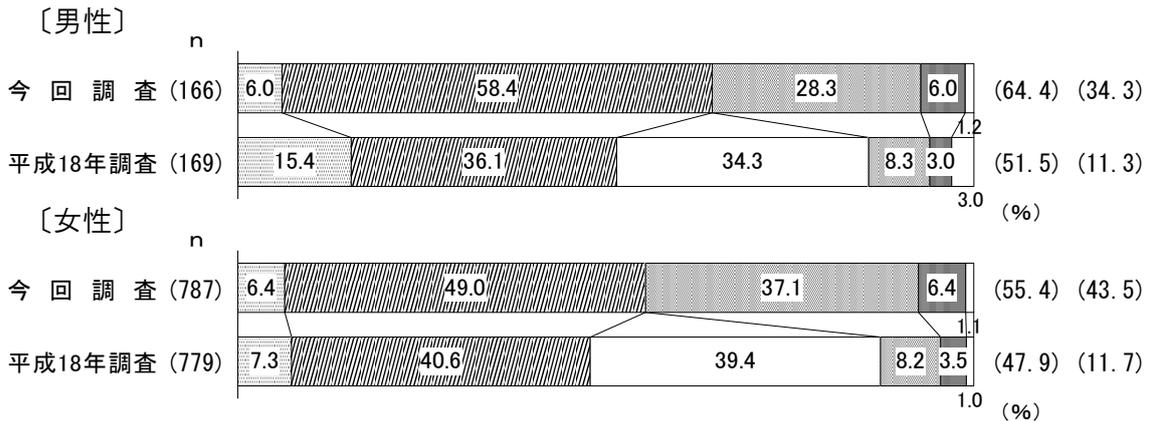
(注)「どちらともいえない」の選択肢は今回調査では省いているため、過去の調査との比較は参考にとどまる。

図表4-3-4 地域のことで感じられること（性別経年比較）

カ 地域で問題が起きたら積極的にかかわりたい



キ 地域社会での出来事に関心があるほうだ



(注)「どちらともいえない」の選択肢は今回調査では省いているため、過去の調査との比較は参考にとどまる。

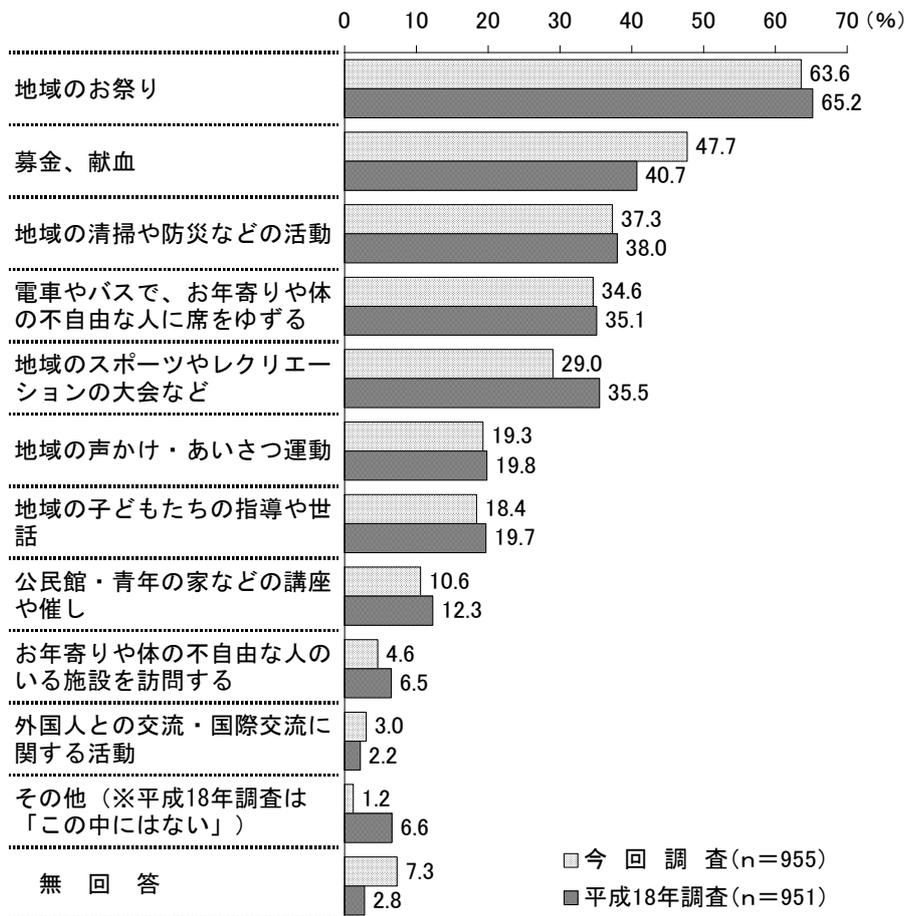
(4) 地域活動への参加状況

◇「地域のお祭り」が63.6%、「募金、献血」が47.7%

問39 あなたは、最近1年間で、次のような活動に参加したり、行動をしたことがありますか。この中で、参加したり、行ったりしたことがあるものすべてに○をしてください。  
(類似質問：満10歳～14歳91ページ、満15歳～30歳196ページ参照)

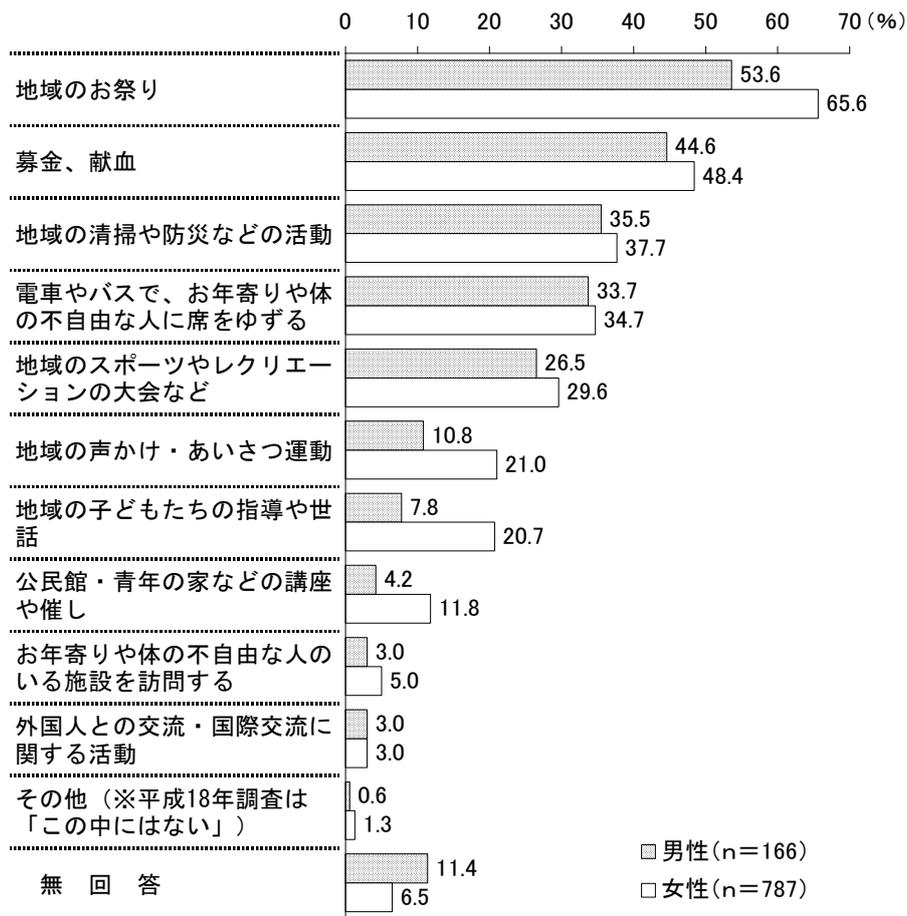
最近1年間に参加した地域活動等について聞いたところ、「地域のお祭り」が63.6%で最も多く、次いで「募金、献血」(47.7%)、「地域の清掃や防災などの活動」(37.3%)、「電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる」(34.6%)、「地域のスポーツやレクリエーションの大会など」(29.0%)などの順となっている。(図表4-4-1)

図表4-4-1



性別にみると、ほとんどすべての項目で男性より女性の方が割合が高く、特に「地域の子どもたちの指導や世話」で12.9ポイント、「地域のお祭り」で12.0ポイント、「地域の声かけ・あいさつ運動」で10.2ポイント、それぞれ高くなっている。(図表4-4-2)

図表4-4-2 地域活動への参加状況(性別)



過去の調査と比較すると、「地域のお祭り」は男女とも第1位が続いている。女性では、第1位から第5位まで平成18年度と同じ順位となっていて、その中では「募金、献血」が7.2ポイント増加している。男性では、「募金、献血」が平成18年調査と比べて7.3ポイント増加し、順位も第5位から第2位に上昇している。「地域のスポーツやレクリエーションの大会など」は平成18年調査と比べて17.9ポイント減少し、順位も第2位から第5位に低下している。(図表4-4-3)

図表4-4-3 地域活動への参加状況（性別経年比較）

調査年 順位	男 性		
	今回調査 (%)	平成18年度 (%)	平成13年度 (%)
第1位	地域のお祭り (53.6)	地域のお祭り (53.8)	地域のお祭り (42.6)
第2位	募金、献血 (44.6)	地域のスポーツやレクリエーションの大会など (44.4)	地域の清掃や防災などの活動 (40.5)
第3位	地域の清掃や防災などの活動 (35.5)	地域の清掃や防災などの活動 (40.2)	地域のスポーツやレクリエーションの大会など (35.4)
第4位	電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる (33.7)	電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる (37.9)	募金、献血 (31.9)
第5位	地域のスポーツやレクリエーションの大会など (26.5)	募金、献血 (37.3)	電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる (30.3)

調査年 順位	女 性		
	今回調査 (%)	平成18年度 (%)	平成13年度 (%)
第1位	地域のお祭り (65.6)	地域のお祭り (67.9)	地域のお祭り (56.5)
第2位	募金、献血 (48.4)	募金、献血 (41.2)	地域の清掃や防災などの活動 (42.0)
第3位	地域の清掃や防災などの活動 (37.7)	地域の清掃や防災などの活動 (37.4)	募金、献血 (40.9)
第4位	電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる (34.7)	電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる (34.4)	地域のスポーツやレクリエーションの大会など (36.1)
第5位	地域のスポーツやレクリエーションの大会など (29.6)	地域のスポーツやレクリエーションの大会など (33.5)	電車やバスで、お年寄りや体の不自由な人に席をゆずる (30.9)

(5) 素行の悪い未成年を見かけたときの対応

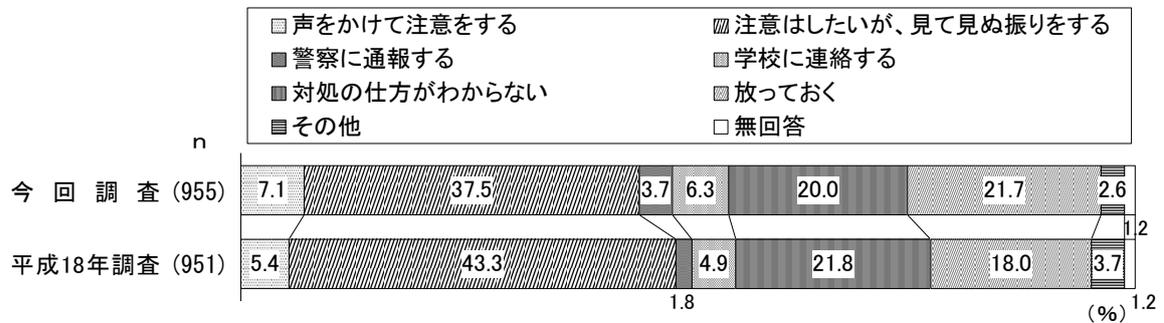
◇「注意はしたいが、見て見ぬ振りをする」が37.5%

問40 あなたは、例えば「タバコを吸う」など素行の悪い未成年を見かけたとき、どのように対処しますか。次の中から1つ選んで○をしてください。

素行の悪い未成年を見かけたとき、どのように対処するか聞いたところ、「注意はしたいが、見て見ぬ振りをする」が37.5%で最も多く、次いで「放っておく」が21.7%、「対処の仕方が分からない」が20.0%などの順となっており、8割近くの人は何も対応しないとしている。「声をかけて注意する」は7.1%、「学校に連絡する」は6.3%、「警察に通報する」は3.7%である。

(図表4-5-1)

図表4-5-1

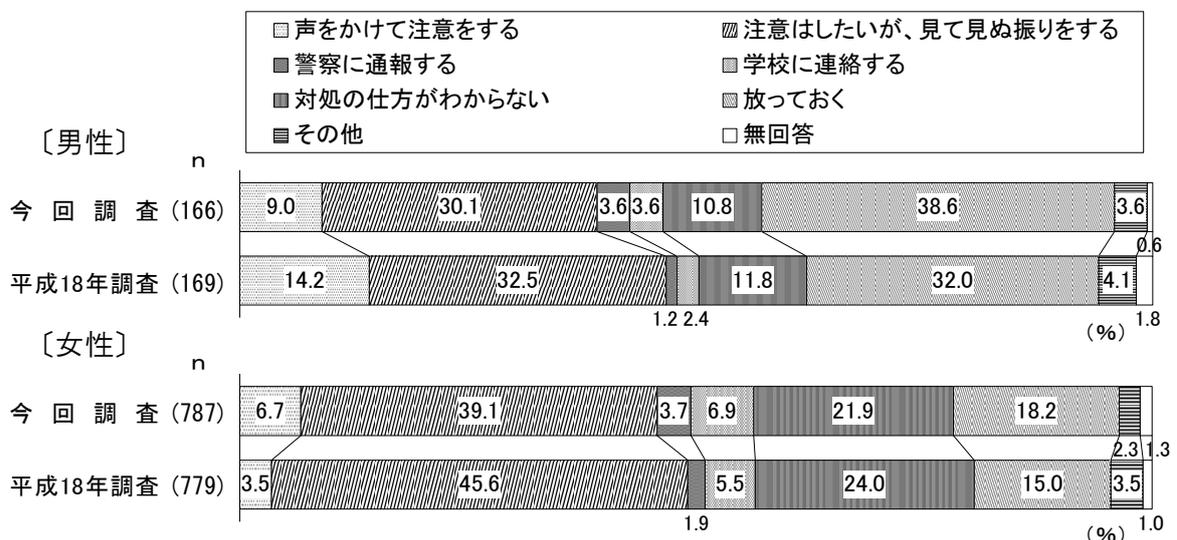


性別に見ると、「放っておく」は男性(38.6%)のほうが女性(18.2%)より20.4ポイント高くなっている。「対処の仕方がわからない」は女性(21.9%)の方が男性(10.8%)より11.1ポイント高く、「注意はしたいが、見て見ぬ振りをする」も女性(39.1%)の方が男性(30.1%)より9.0ポイント高くなっている。何も対応しない人の割合は、男女とも8割弱で大きな差はみられない。

(図表4-5-2)

平成18年調査と比較すると、男性では「声を掛けて注意する」が5.2ポイント減少し、「放っておく」が6.6ポイント増加している。(図表4-5-2)

図表4-5-2 素行の悪い未成年を見かけたときの対応 (性別経年比較)



## 5 青少年の健全育成について

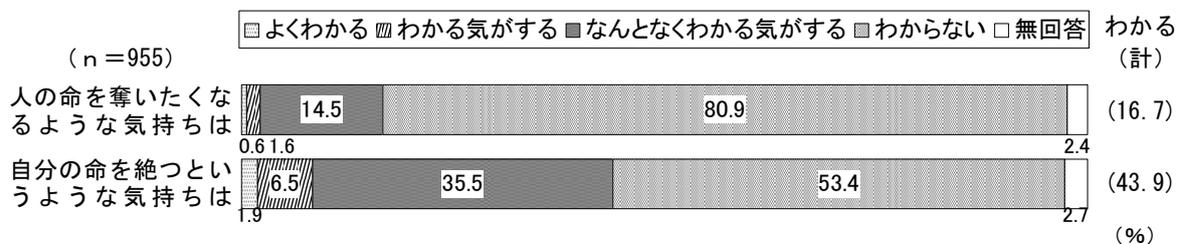
### (1) 人の命を奪いたくなる・自分の命を絶つという気持ちに関する意識

◇『わかる(計)』は、<自分の命を絶つというような気持ち>で43.9%

問41 最近、青少年が他人の命を奪ったり、自分の命を絶ったりする事件が目立ちます。あなたは、こうした事件についてどう思いますか。それぞれの中で、1つ選んで○をしてください。(類似質問：満10歳～14歳83ページ、満15歳～30歳178ページ参照)

青少年が他人の命を奪ったり、自分の命を絶ったりする事件についてどう思うか聞いたところ、「よくわかる」と「わかる気がする」、「なんとなくわかる気がする」の3つを合わせた『わかる(計)』は、<人の命を奪いたくなるような気持ち>で16.7%、<自分の命を絶つというような気持ち>で43.9%となっている。(図表5-1-1)

図表5-1-1

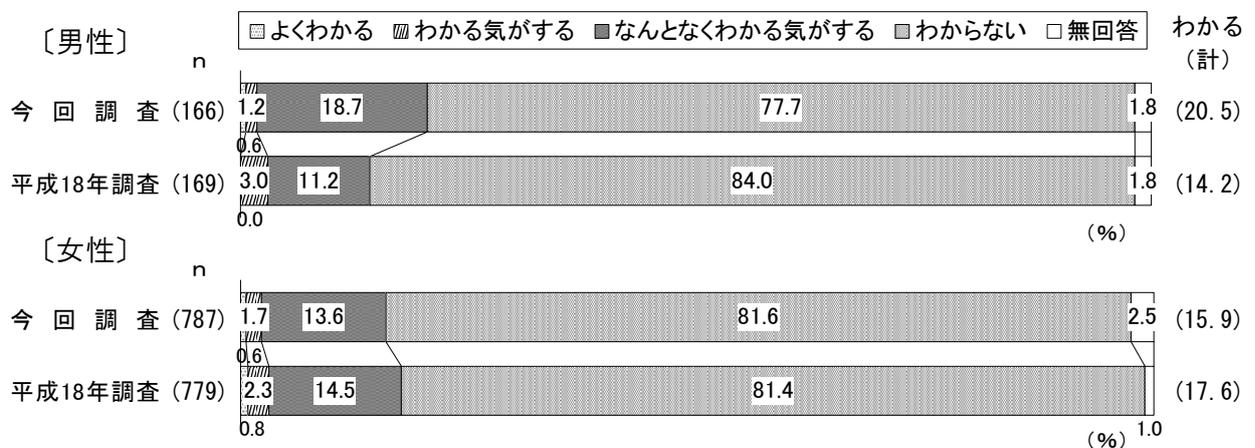


性別にみると、『わかる（計）』の割合は、＜人の命を奪いたくなるような気持ち＞では男性（20.5%）の方が女性（15.9%）より4.6ポイント高く、＜自分の命を絶つというような気持ち＞では女性（45.3%）の方が男性（37.3%）より8.0ポイント高くなっている。

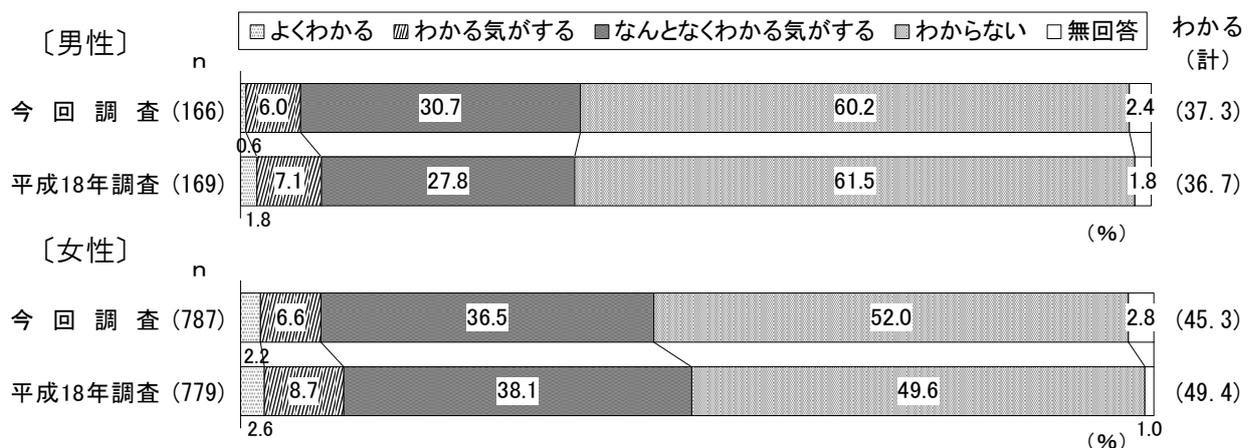
（図表5-1-2、図表5-1-3）

平成18年調査と比較すると、男性では、『わかる（計）』の割合は＜人の命を奪いたくなるような気持ち＞で6.3ポイント増加している。女性では、『わかる（計）』の割合は＜自分の命を絶つというような気持ち＞で4.1ポイント減少している。（図表5-1-2、図表5-1-3）

図表5-1-2 人の命を奪いたくなるような気持ちに関する意識（性別経年比較）



図表5-1-3 自分の命を絶つというような気持ちに関する意識（性別経年比較）



(2) 非行防止のための条例の規定の認知度

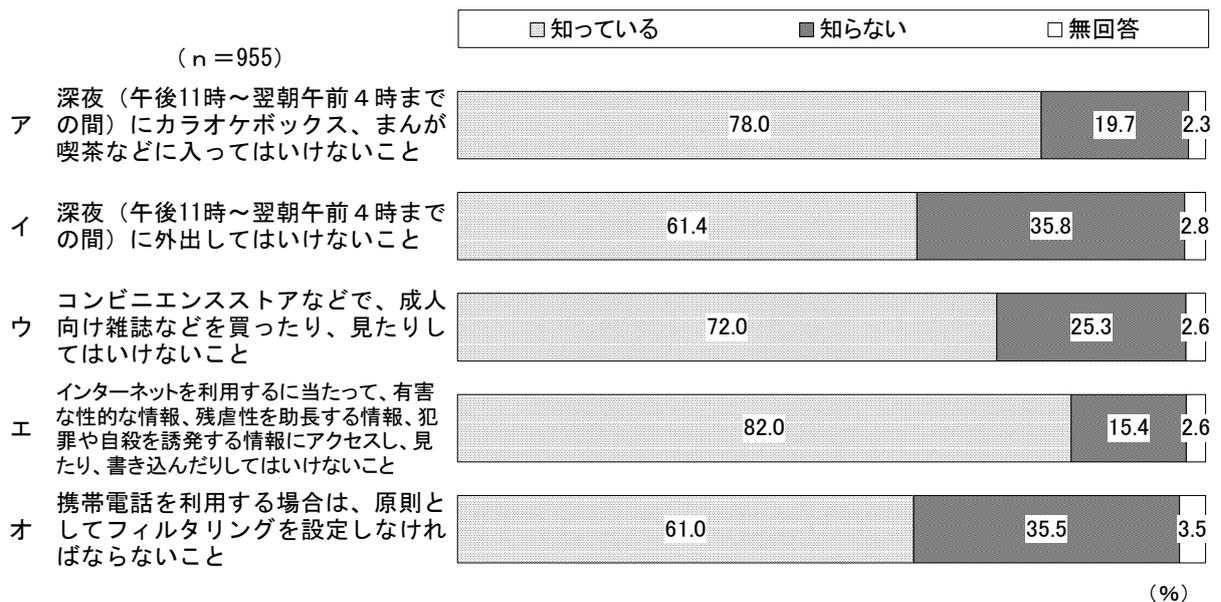
◇「知っている」は、＜インターネット上の有害情報アクセス禁止＞で82.0%

問42 あなたは、18歳未満の青少年の深夜外出などに関して、次のようなことを知っていますか。それぞれについて、1つ選んで○をつけてください。  
 (類似質問：満15歳～30歳180ページ参照)

18歳未満の青少年の深夜外出などに関して、知っているかを5項目に分けて聞いたところ、「知っている」は、＜エ インターネットを利用するに当たって、有害な性的な情報、残虐性を助長する情報、犯罪や自殺を誘発する情報にアクセスし、見たり、書き込んだりしてはいけないこと＞が82.0%で最も多くなっている。一方、「知らない」は、＜イ 深夜（午後11時～翌朝午前4時までの間）に外出してはいけないこと＞で35.8%、＜オ 携帯電話を利用する場合は、原則としてフィルタリングを設定しなければならないこと＞で35.5%と多くなっている。

(図表5-2-1)

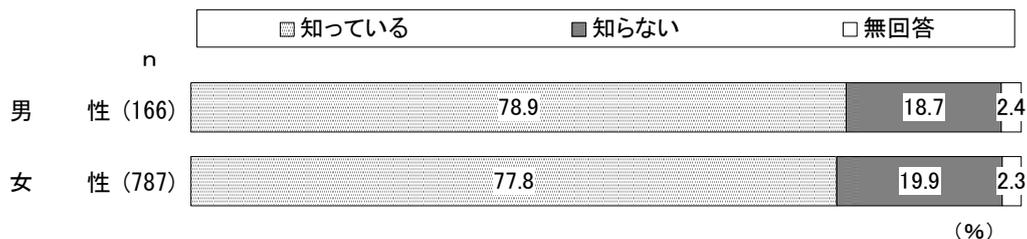
図表5-2-1



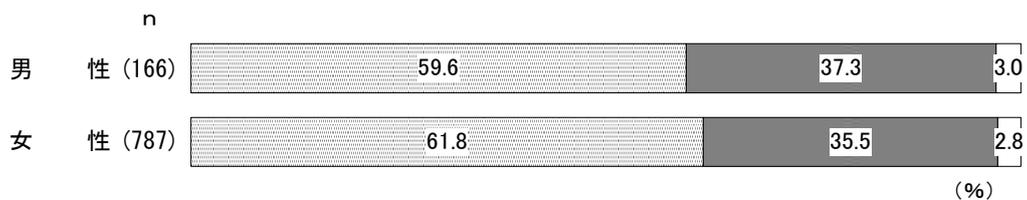
性別にみると、「知っている」の割合は、＜ウ 有害図書等の購入禁止＞は男性（81.3%）の方が女性（70.0%）より11.3ポイント高く、＜オ フィルタリングサービスの利用義務＞は女性（62.3%）の方が男性（55.4%）より6.9ポイント高くなっている。（図表5-2-2）

図表5-2-2 非行防止のための条例の規定の認知度（性別）

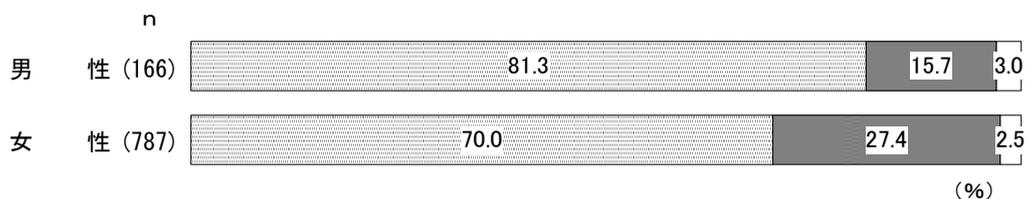
ア 深夜における施設への入場の禁止



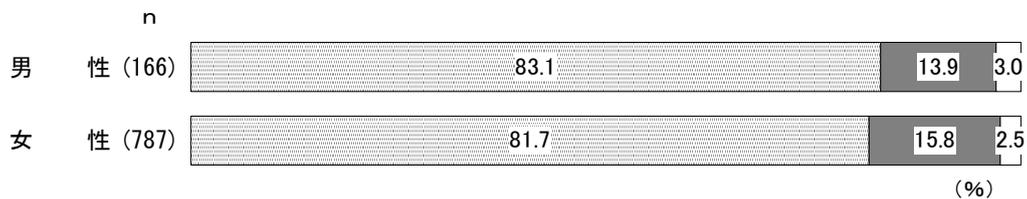
イ 深夜における外出の禁止



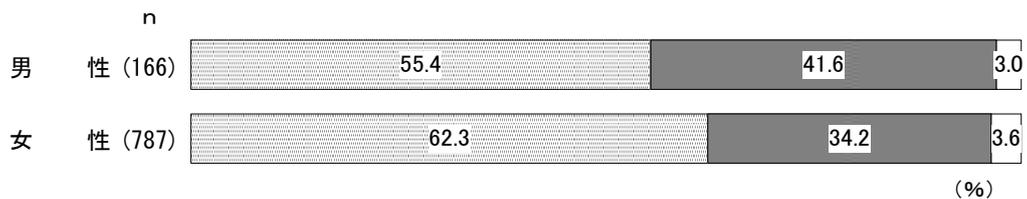
ウ 有害図書等の購入禁止



エ インターネット上の有害情報アクセス禁止



オ フィルタリングサービスの利用義務



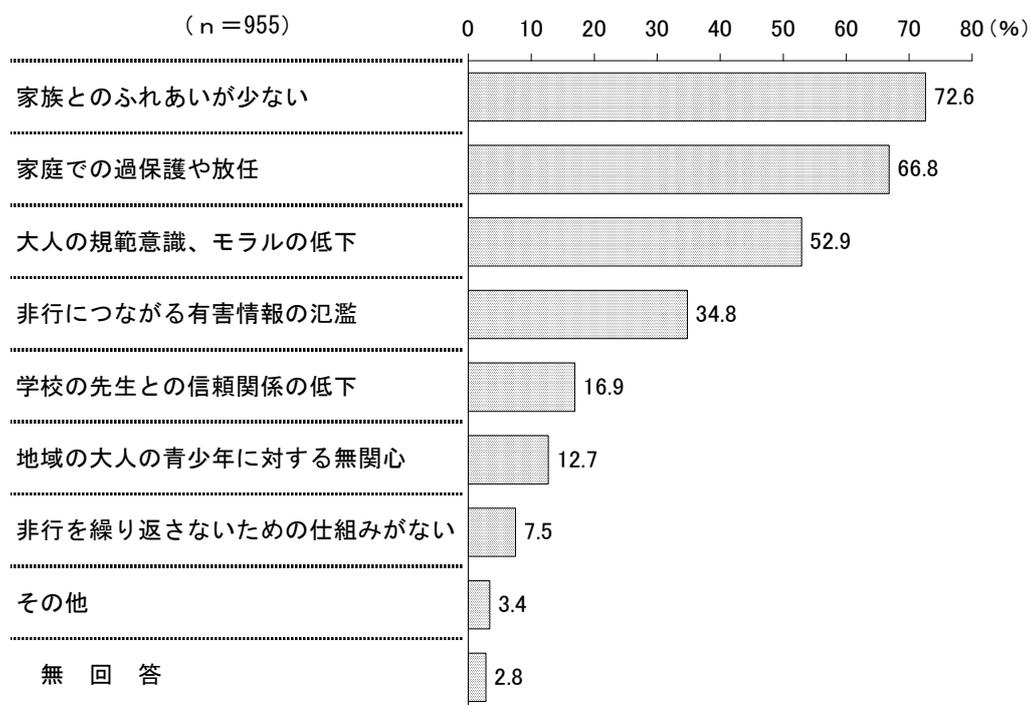
### (3) 青少年の非行の原因

◇「家族とのふれあいが少ない」が72.6%

問43 あなたは少年非行の原因は何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。(類似質問：満15歳～30歳183ページ参照)

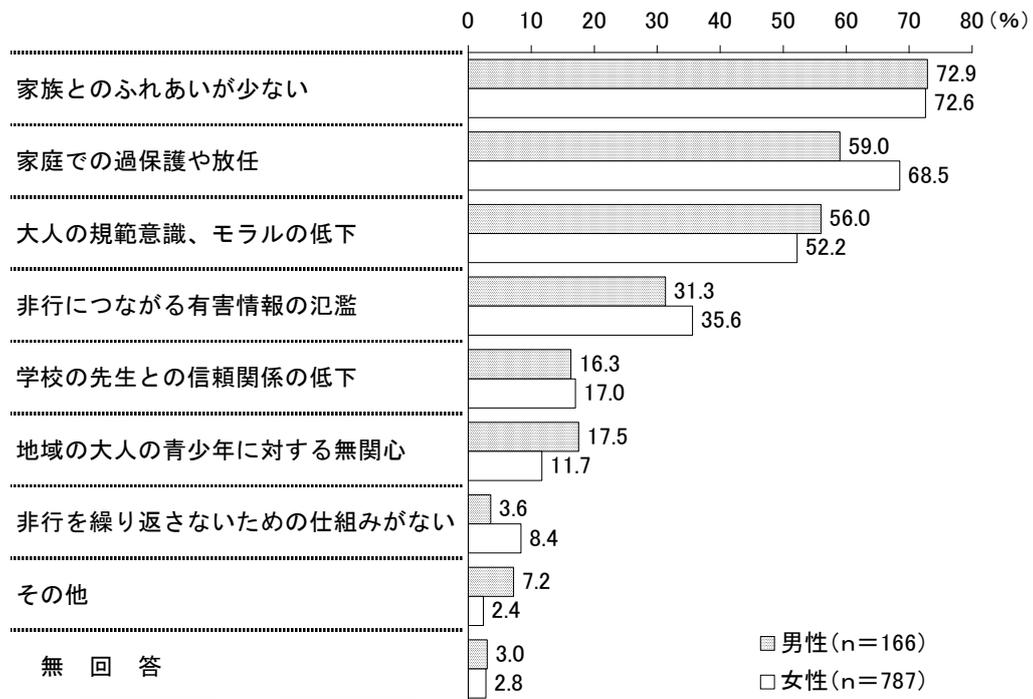
少年非行の原因は何だと思うか聞いたところ、「家族とのふれあいが少ない」が72.6%で最も多く、次いで「家庭での過保護や放任」(66.8%)、「大人の規範意識、モラルの低下」(52.9%)、「非行につながる有害情報の氾濫」(34.8%)、「学校の先生との信頼関係の低下」(16.9%)などの順となっている。(図表5-3-1)

図表5-3-1



性別にみると、「家庭での過保護や放任」は女性（68.5%）の方が男性（59.0%）より9.5ポイント高くなっている。「地域の大人の青少年に対する無関心」は男性（17.5%）の方が女性（11.7%）より5.8ポイント高くなっている。（図表5-3-2）

図表5-3-2 青少年の非行の原因（性別）



#### (4) 少年非行を減少・抑止するための対策

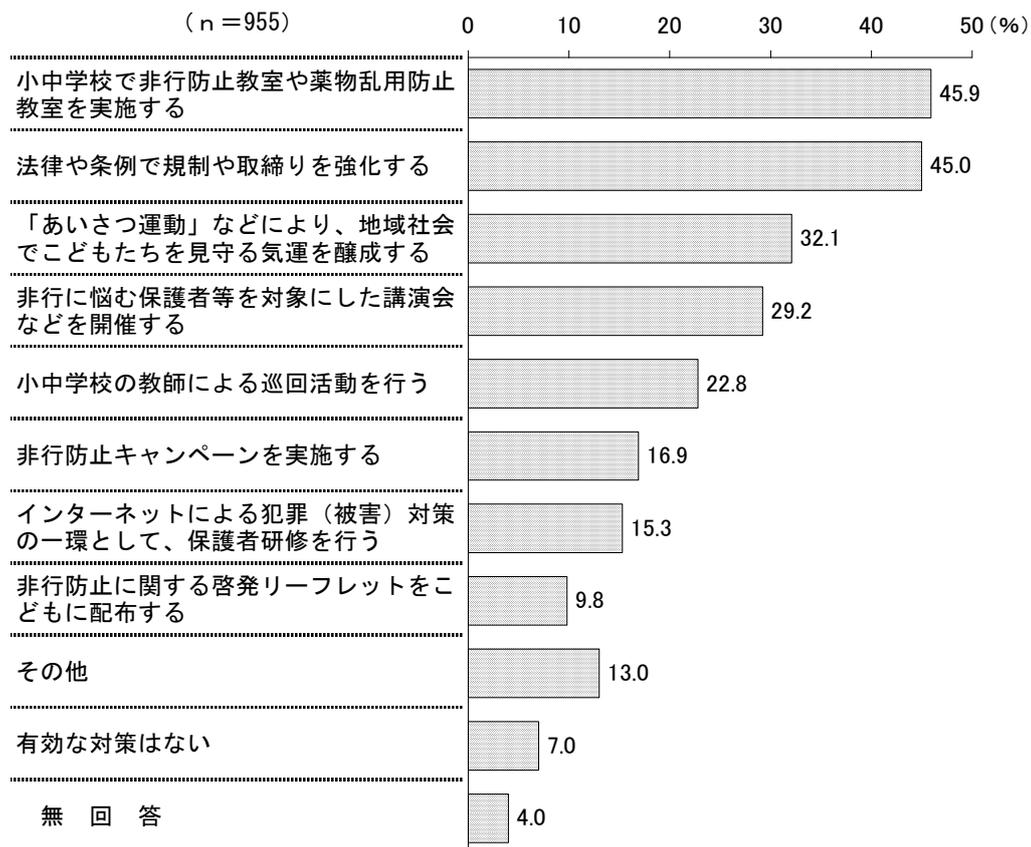
◇「小中学校で非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施する」が45.9%

問44 あなたは少年非行を減少・抑制する手段として、どのような対策が有効だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

少年非行を減少・抑制する手段として、どのような対策が有効だと思うか聞いたところ、「小中学校で非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施する」(45.9%)と「法律や条例で規制や取締りを強化する」(45.0%)の2項目が多く、次いで「「あいさつ運動」などにより、地域社会で子どもたちを見守る気運を醸成する」(32.1%)、「非行に悩む保護者等を対象にした講演会などを開催する」(29.2%)、「小中学校の教師による巡回活動を行う」(22.8%)などの順となっている。

(図表5-4-1)

図表5-4-1



性別にみると、「小中学校で非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施する」は女性（47.5%）の方が男性（38.0%）より9.5ポイント高くなっている。「インターネットによる犯罪（被害）対策の一環として、保護者研修を行う」は女性の方が男性より6.9ポイント高く、「小中学校の教師による巡回活動を行う」も女性の方が男性より6.4ポイント高くなっている。（図表5-4-2）

図表5-4-2 少年非行を減少・抑止するための対策（性別）

